

尼崎 21 世紀の森構想の中間総括 報告書

平成 28 年 3 月

**尼崎 21 世紀の森づくり協議会
事務局**

目 次

1. 尼崎 21 世紀の森構想の背景と現状.....	1
(1) 尼崎 21 世紀の森構想の概要.....	1
(2) 尼崎 21 世紀の森構想の推進と体制.....	4
2. 尼崎 21 世紀の森構想の中間総括.....	10
(1) 中間総括の背景.....	10
(2) 中間総括の目的と概要.....	10
(3) 中間総括の方法.....	10
3. 尼崎 21 世紀の森構想の中間総括の具体内容.....	11
(1) 全体総括.....	11
(2) 尼崎 21 世紀の森構想の成果と課題.....	13
4. 尼崎 21 世紀の森構想推進の方向性の検討に向けて.....	26

1. 尼崎 21 世紀の森構想の背景と現状

(1) 尼崎 21 世紀の森構想の概要

1) 尼崎 21 世紀の森構想策定の背景

明治の初め、ドイツの世界的な地理学者リヒト・ホーフェンが「世界で最も魅力的な景観」と絶賛した瀬戸内海は、その後の日本経済が発展するなかで、臨海地域は埋め立てられ自然海岸が減少するとともに、人口や産業の集中に伴う生活排水や工場排水の増加などにより、かつての美しい瀬戸内海も、昭和 40 年代には瀕死の海とさえ呼ばれるほど危機的な状態に陥った。

こうした中、昭和 48 年には「瀬戸内海環境保全臨時措置法」が制定され、排水規制の強化や埋立などの抑制が図られ危機的な状況は回避されたものの、かつての瀬戸内海の魅力が回復されるまでには至っていない。

尼崎臨海地域も、古くは茅渟の海、猪名の浦と呼ばれ、白砂青松の美しい海岸が連なっていた(図-1)。江戸期には天守閣を持つ城下町として栄え、臨海部の新田開発により米、綿花、菜種の栽培が盛んであった。明治後期以降、新田への工場立地、海岸の埋め立てが進み、城下町から工業都市へと急速に変貌を遂げた。大正期以降に重工業化が進み、昭和 30 年代以降の高度成長期には、阪神工場地帯の一翼として我が国の高度成長を支えていた。

しかし、工業化の波は、美しい海辺の自然環境の喪失や生活や生態系を脅かす公害の発生などの環境問題を深刻化させた(写真-1)。環境に対して多くの負荷を与えてきたことで、市民にとって緑と潤いの少ない魅力の乏しい地域となっており、地域環境の再生が緊急かつ重要な課題となっている。

また、工場による公害は企業、地域の努力により解消される一方、阪神・淡路大震災や工場の郊外・海外への移転など産業構造の変化により、跡地の遊休化が進むなど、地域の活力が低下してきていることから、地域活力再生への取組が最も必要とされる地域となっている。

このような地域環境の再生と地域活力の再生の 2 つの課題に対応し、尼崎臨海地域を魅力と活力あるまちに再生するため、陸域での環境負荷を少なくするとともに、「環境の世紀」を切り開く先導的なまちづくりのモデルを尼崎から世界へ発信していくことをめざし、「尼崎 21 世紀の森構想」が策定されることとなった。



図-1 明治 31 年大日本帝国 2 万迅速図尼崎
歌川貞秀画「西国名所之内 尼崎大物の湊」



写真-1 昭和 40 年代の尼崎製鉄所

2) 尼崎 21 世紀の森構想とは

「尼崎 21 世紀の森構想」は、尼崎臨海地域を魅力と活力あるまちに再生するため、人々のくらしにゆとりとうるおいをもたらす水と緑豊かな自然環境の創出による環境共生型のまちづくりを目指して、平成 14 年 3 月に兵庫県により策定された。

「尼崎 21 世紀の森構想」におけるまちづくりの方向性としては、尼崎臨海地域の失われた自然環境と都市環境の回復と創造、魅力と活力のある都市再生であり、「瀬戸内海、大阪湾の環境回復、創造の拠点」「尼崎臨海地域の環境改善」といった環境面からの要請と「21 世紀の新しいまちづくり」「尼崎臨海地域の都市再生」といったまちづくりからの要請に応えるものとなっている。

また、現状からの視点だけでなく、歴史的、文明論的な広い視野から見た検討が必要であることから、まちづくりの方向性に対して、自然環境、文明論、まちづくりの 3 つの視点からその実現に向けた方策として、自然の回復、創造、人間性の回復の舞台、都市再生のためのインフラであり、水辺と連携した環境の骨格をなす『森』の導入が盛り込まれた。

以上の経緯から「尼崎 21 世紀の森構想」の理念（まちづくりのテーマ）は以下のように設定されている。

森と水と人が共生する環境創造のまち

これを受け、尼崎臨海地域の目指すべき将来像は、「森に囲まれた職住近接型の安全で安心な人間サイズのまち」「自然（森と水）と人とが持続的・自立的に共生しているまち」「環境と共生した活発な産業活動を展開しているまち」「快適で楽しく住み、働き、遊び、学ぶことができるまち」の実現に向けて以下に示す内容となった。

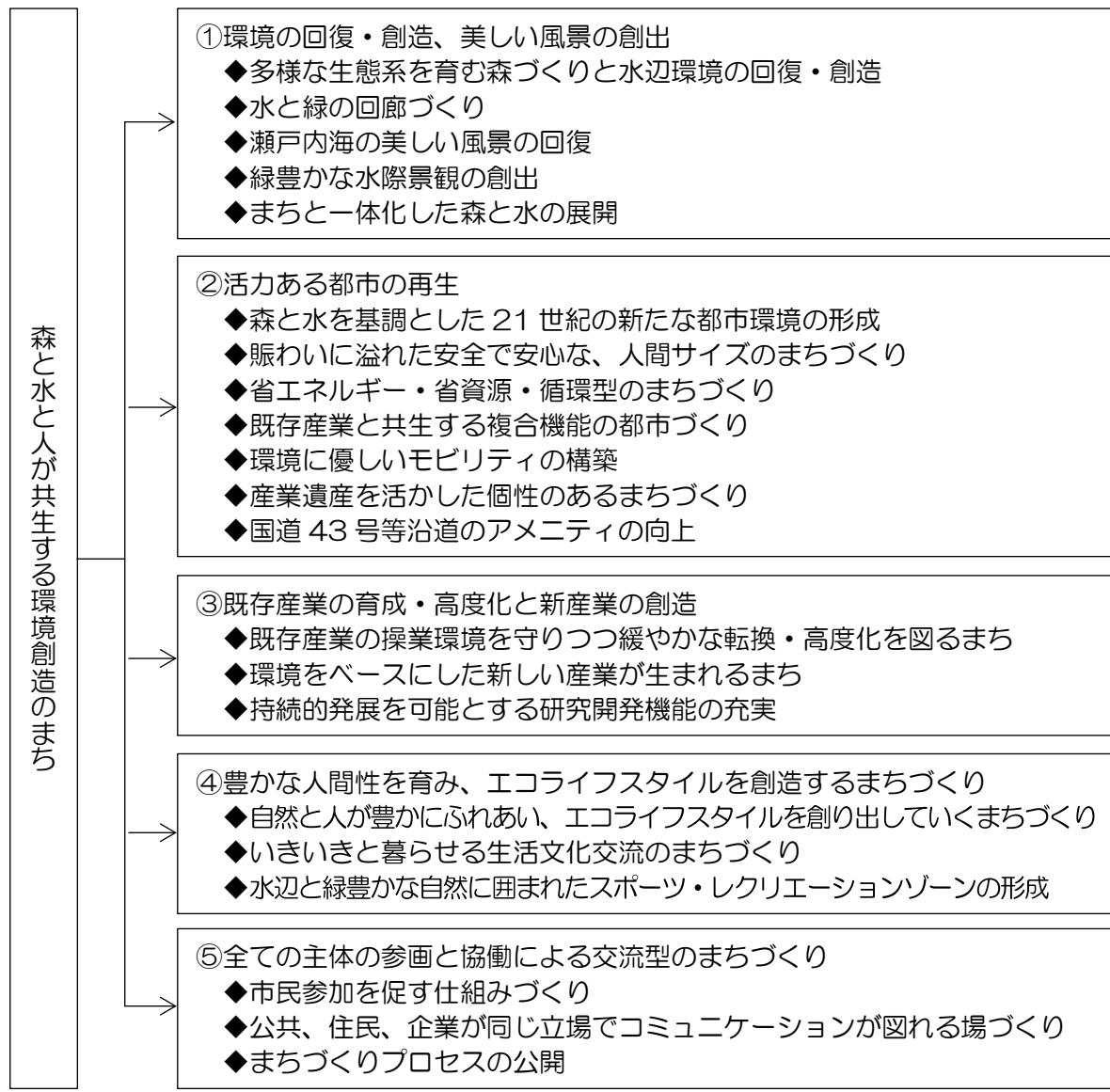
「都市活動や交通、産業活動などすべての面において、環境にやさしいライフスタイルを他地域に率先して生み出しているまち」



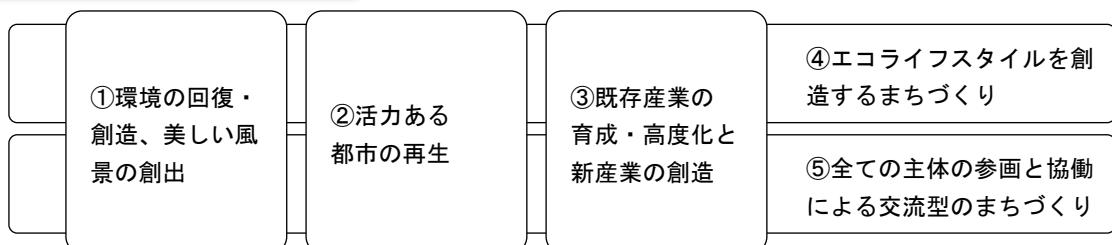
図一 森構想の対象エリア：国道 43 号以南の約 1,000ha。

3) まちづくりの展開方向

尼崎臨海地域が、「尼崎 21 世紀の森構想」の理念（まちづくりのテーマ）である「森と水と人が共生する環境創造のまち」に生まれ変わるために、森づくりを核としながら進めるまちづくりの展開方向を次のように定めている。



まちづくりの展開方向



(2) 尼崎 21 世紀の森構想の推進と体制

1) 尼崎 21 世紀の森づくり協議会とは

「尼崎 21 世紀の森構想」の推進にあたっては、市民をはじめあらゆる主体がイメージの共有化を図るとともに、それぞれが創意工夫しながら積極的にまちづくり・森づくりを進めるため、全ての主体の参画と協働による取り組みが必要であった。

そのため、市民・企業・各種団体・学識者等からなる森構想推進母体の中核組織である「尼崎 21 世紀の森づくり協議会」を平成 14 年 8 月に設置した。

さらに「尼崎 21 世紀の森づくり協議会」の中に組織をサポートする「森」、「まちづくり」、「産業」、「発信」の 4 部会を設け、尼崎の森中央緑地へ基本計画への提案や、先進事例となる森の見学会、尼崎臨海地域のまち歩き、ニュースレターの発行、フォーラムの開催など、森づくり・まちづくりに向けた活動や PR 等に取組んだ。

① 「尼崎 21 世紀の森づくり協議会」の役割

尼崎 21 世紀の森づくり協議会は、森づくりのための推進組織として、「尼崎 21 世紀の森づくり行動計画」(p9 参照) の策定や森構想全体の推進に関するマネジメントを行うとともに、自らも行動計画の取組を実践した。

② 「尼崎 21 世紀の森づくり協議会」の運営体制

i 設立から平成 25 年 3 月まで

設立から 2 年後には、重要事項の意思決定、「尼崎 21 世紀の森構想」の戦略的な推進、活動内容の企画・提案・実践などの役割を担う以下の運営体制で「尼崎 21 世紀の森構想」を推進した。

◆役割と構成

A 尼崎 21 世紀の森づくり協議会委員総会… (重要事項の意思決定) 合計 31 回開催
【平成 14 年度～25 年度】

役 割：「尼崎 21 世紀の森構想」の推進方法・体制・内容など、構想推進に関する重要事項について検討・意思決定を行う。(構想マネジメントを担う)

B 企画運営推進委員会… (尼崎 21 世紀の森構想の戦略的な推進) 合計 101 回開催
【平成 16 年度～25 年度】

役 割：森づくりの理念の共有や森づくり推進のマネジメント、組織化の検討など戦略的取組に関する協議・調整、部会全体及び部会間の取組、連携に関する協議・調整を行う。(活動マネジメントを担う)

構 成：各部会の部会長、副部会長、アドバイザーもしくはその代理の部会員

C 各種部会… (尼崎 21 世紀の森づくり行動計画の活動内容の企画、提案、実践)

○森部会 合計 120 回開催【平成 15 年～25 年】

・テーマ：尼崎 21 世紀の森は「手づくりで育てる」

途中で失敗や思わぬ方向へ進むことがあってもその過程をみんなで楽しみ、学びながらみんなで森づくりを行う。

○まちづくり部会 合計 91 回開催【平成 15 年～25 年】

- ・テーマ：尼崎 21 世紀の森を「人が集まるまち」にする。

市民、企業の知恵と力を「尼崎 21 世紀の森」に集積し、人と自然にやさしい、元気なまちづくりをみんなで考える。また、若者も関心が持てるイベントを通じ、ネットワークづくりを図る。

○産業部会 合計 62 回開催【平成 15 年～25 年】

- ・テーマ：「産業の活性化」を応援する。

緑あふれる地域イメージづくりに向けて、工場緑化など既存工場への支援や環境配慮型産業の育成を行うとともに、産業活性化のコーディネーターとして、企業間のネットワークづくりを行う。

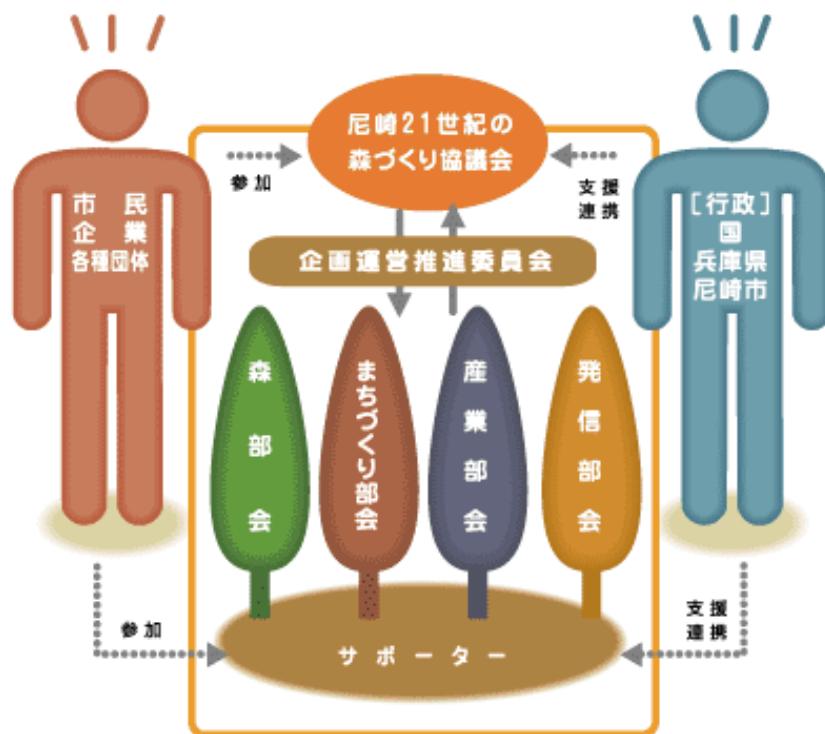
○発信部会 合計 116 回開催【平成 15 年～25 年】

- ・テーマ：尼崎 21 世紀の森の「仲間をひろげる」

「尼崎 21 世紀の森」の活動・取組を知ってもらう広報や PR、イベントを行い、情報を継続して発信する。

D サポーター… (参加型活動の実践)

「尼崎 21 世紀の森構想」の趣旨に賛同し、「尼崎 21 世紀の森づくり協議会」の活動に積極的に参加するボランティア（個人、企業、団体等は問わず、誰でも自由に（年齢、性別、市内外不問）登録できる）



図一役割と構成

ii 協議会組織の見直し（平成 25 年 4 月以降）

「尼崎 21 世紀の森構想」策定から 10 年目を迎える平成 25 年 3 月までの間、「尼崎 21 世紀の森づくり協議会」における森づくりは、「参画と協働」のモデルケースとして成果を生み出してきた一方、以下に示すような課題が発生していた。

【構想マネジメント面】

- ・年一回程度の委員総会では、構想に関する実質的な議論ができず、外向けの発信力が低下。
- ・企画運営推進委員会で活動に関する協議の機会が増大し、構想に関する協議の機会が減少。

【活動マネジメント面】

- ・部会の活動に関する協議が進むにつれて、初めての参加者には協議に加わりにくい雰囲気が生まれ、部会メンバーの減少・固定化、活動の負担の増大。
- ・他の活動団体等との連携がプロジェクト型の実行委員会など、協議会の外の場に移行そこで、平成 24 年度にネクストステージに向けた新体制のあり方について議論を行った。その結果、平成 25 年 4 月から「尼崎 21 世紀の森づくり協議会」を「協議体」と「活動体」とに区分し、それぞれの役割に応じたマネジメントを行うこととなった。

「協議体」とは

○「新・協議会」を設置し、構想マネジメントの強化を図る。（新・協議会は構想マネジメントに集中）

- ・構想推進の方向性の意思決定
- ・構想区域全体に対する意見、提言、要望
- ・広域等への発信

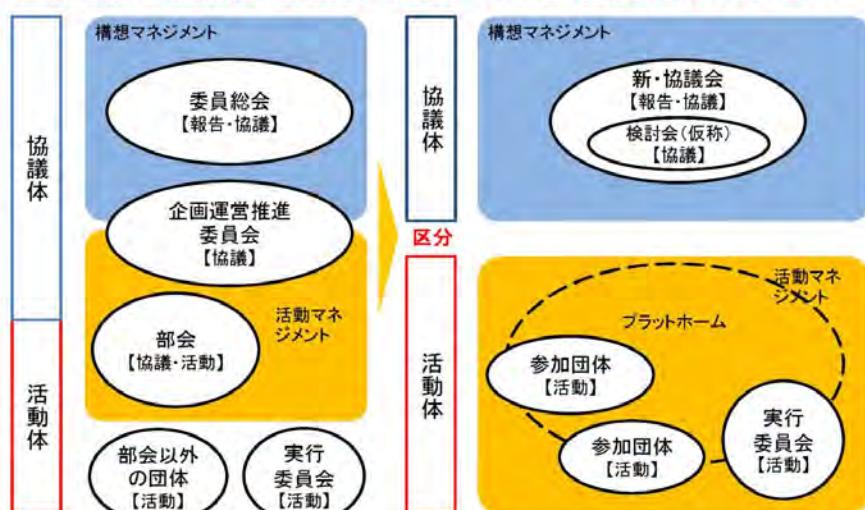
○新・協議会は、協議内容により検討会を組織し、集中的に審議をする。（懸案事項の審議がなくなれば解散）

「活動体」とは

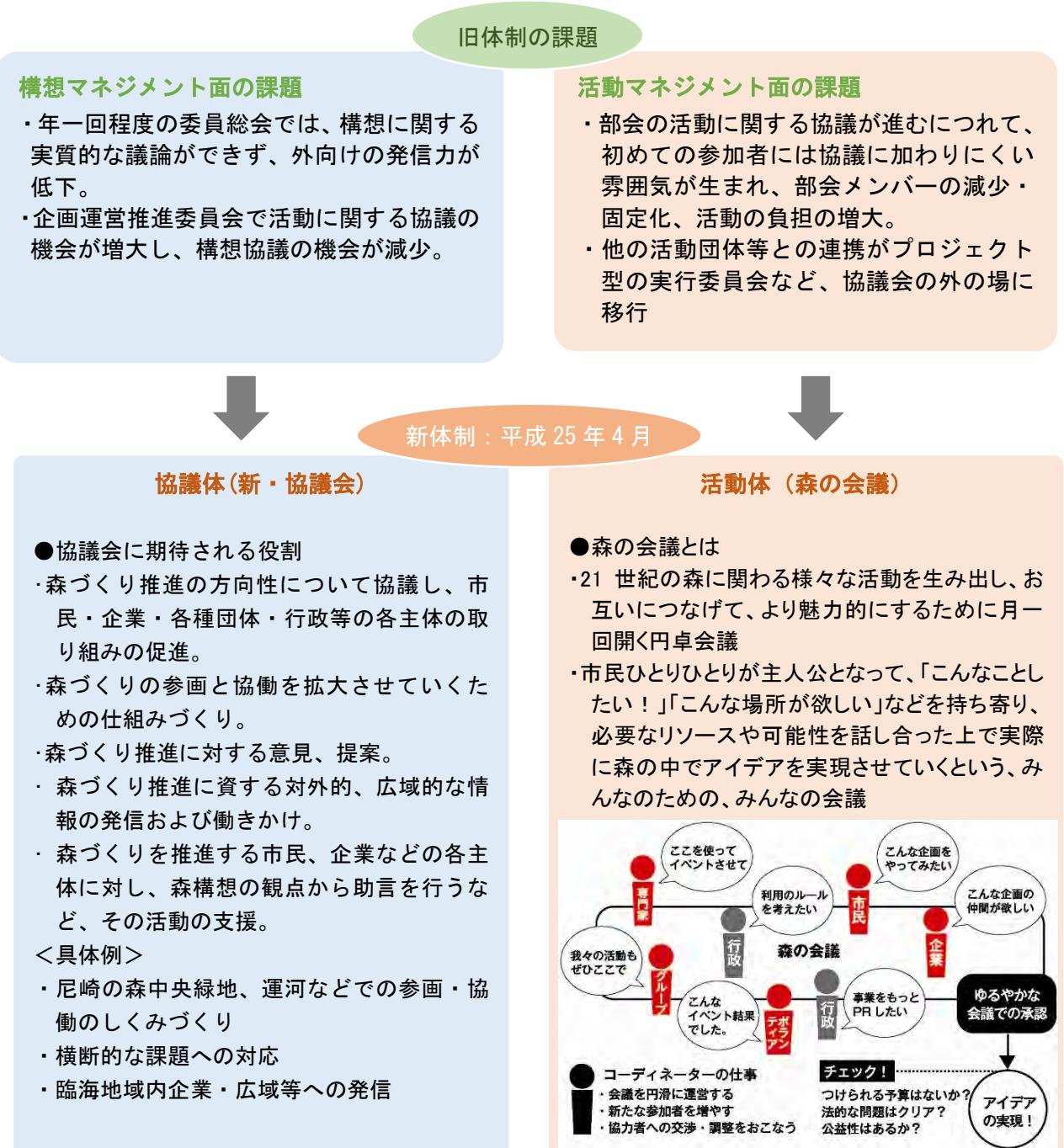
○それぞれの団体等が、自主的、主体的にグループや実行委員会等を組織して活動する。

○その上で、場としての「プラットフォーム」を形成し、活動団体等が参加。団体等の間での活動情報交換・連携を促す。

協議会組織を「協議体」と「活動体」とに区分し、それぞれの役割に応じたマネジメントへ



◆旧体制の課題を踏まえた新体制に期待される役割について



2) 尼崎 21 世紀の森づくり行動計画

①尼崎 21 世紀の森づくり行動計画策定の背景

「尼崎 21 世紀の森構想」の推進には、市民、企業、各種団体、学識者など全ての主体の参画と協働による取組が必要であったことから、取組の当事者等が中心となって、尼崎 21 世紀の森構想の理念を具体化するための道標として行動計画を定めることとなった。

このため、森構想推進母体の中核組織である「尼崎 21 世紀の森づくり協議会」が「尼崎 21 世紀の森づくり行動計画」を平成 16 年 9 月に策定した。

②尼崎 21 世紀の森づくり行動計画とは

尼崎 21 世紀の森づくり行動計画は、以下に示すように市民、企業、行政などあらゆる主体の取組の方向性を示し、提案するものであり、各主体が自主的、あるいは連携・協力して取組むための指針となるものである。随時見直しを行いながら森構想の実現を目指す。

i 森構想の理念を共有し、その実現に向けた取組の方向性を示し、提案する。

目標年次 100 年にわたる長期的な計画であることから、短期的なものについては取組内容を明らかにし、中長期的なものについては方針や見通しを示す。

ii あらゆる主体（市民、企業、民間団体、行政など）が自主的に、あるいは連携・協力して取組んでいく上での指針とする。

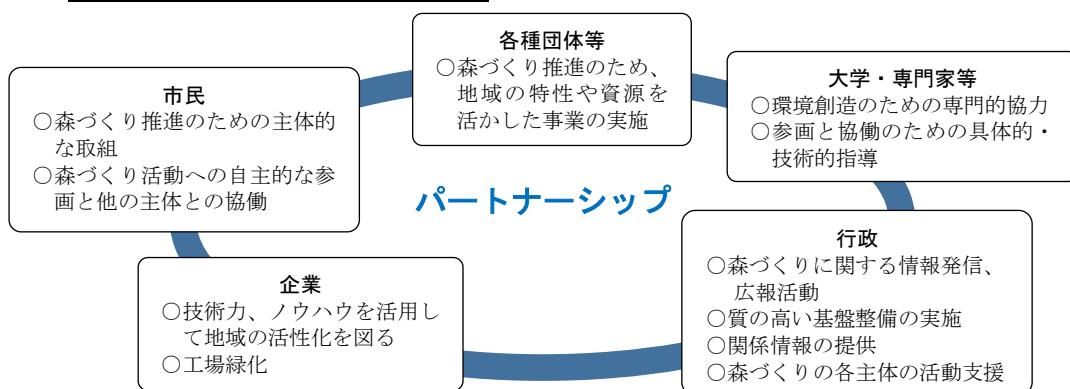
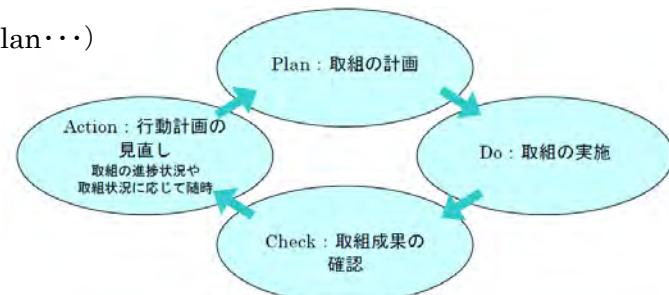


図 それぞれの主体の役割

iii 社会状況の変化や森づくり・まちづくりの取組の進度等に応じて、随時見直しを行いながら、森構想の理念の実現を目指す。

取組の内容は〔P→D→C→Aサイクル〕の考え方方に従って随時見直しを行い、毎年整理する。

(※Plan→Do→Check→Action→Plan…)



3) 尼崎 21 世紀の森づくり行動計画の内容

「尼崎 21 世紀の森づくり行動計画」は、尼崎 21 世紀の森構想の「まちづくりの展開方向」に沿って策定しており、「環境の回復・創造、美しい風景の創出に向けた取組」「活力ある都市の再生に向けた取組」「既存産業の育成・高度化新産業の創造に向けた取組」「気運の醸成に向けた取組」の 4 つに分類している。

また、各取組には、具体的な活動項目や活動内容を示しており、合計 30 個の活動項目、89 個の活動内容について、市民、企業、各種団体、行政がともに取組を進めてきた。

表 まちづくりの展開方向に沿った 4 つの取組

まちづくりの 展開方向	取 組
①環境の回復・創 造、美しい風景の 創出	<p>環境の回復・創造、 美しい風景の創出 に向けた取組</p> <p>「先導整備地区における森づくり」 先導的に整備が進められる拠点地区内の中央緑地、(仮称)末広緑地 (4,000 m²) から、参画と協働で森づくりを始めています。 「みどり(森)の多面的機能を活用したまちづくりの実践」 みどりの創出等を通して、まち全体がみどり豊かで活き活きとしたコミュニティの形成をめざします。</p> <p>「森づくりを支える循環型のしくみづくり」 森づくりにおける循環モデルの確立をめざします。</p> <p>「森づくりの輪を広げる」 森づくりに携わる人の輪の拡大や人材の育成、信頼される組織づくりをめざします。</p> <p>※計 11 個の活動項目、35 個の活動内容で構成</p>
②活力ある 都市の再生	<p>活力ある都市の 再生に向けた取組</p> <p>「人々の暮らしや活動を盛り込んだ地域の将来像づくり（まちを考える）」 まちの景観やアクセス、エネルギーなどの視点で活き活きとしたまちづくりを考えていきます。</p> <p>「地元住民、市民、事業者、行政などの主体がまちづくりに参加できるプログラムづくり（まちをつくる）」 まちづくりにみんなが参加できるようなしくみをつくり、実践していきます。</p> <p>※計 7 個の活動項目、21 個の活動内容で構成</p>
③既存産業の 育成・高度化と 新産業の創造	<p>既存産業の育成・ 高度化と新産業の 創造に向けた取組</p> <p>「森と産業が共生するまちづくりの推進（地域や市民生活とのつながり）」 既存のまちを活かしながら、森と産業が共生していくまちづくりをめざします。</p> <p>「森を活かした産業活性化の仕掛けづくり」 地域に蓄積された産業技術を活かして、産業の活性化を応援するしくみづくりをめざします。</p> <p>※計 6 個の活動項目、16 個の活動内容で構成</p>
④エコライフスタイルを 創造するまちづくり ⑤全ての主体の参画と協働 による交流型のまちづくり	<p>気運の醸成に 向けた取組</p> <p>「構想全体の機運醸成＝「尼崎 21 世紀の森づくり」 のコミュニティ・アイデンティティ構築」 尼崎 21 世紀の森に良質なイメージや愛着感を持ってもらい、取組の輪が広がるようアイデンティティ構築をめざします。</p> <p>「構想の推進母体としての協議会の組織づくり」 森づくりの仲間が情報を共有し、学習、交流する機会を設けます。</p> <p>「尼崎 21 世紀の森構想を推進する新事業開発」 森構想を推進していく新しいアイディアを活かした企画などを展開していきます。</p> <p>※計 6 個の活動項目、17 個の活動内容で構成</p>

2. 尼崎 21 世紀の森構想の中間総括

(1) 中間総括の背景

「尼崎 21 世紀の森づくり行動計画」（平成 16 年 9 月策定）に基づき、市民、企業、各種団体、行政が取組を進め、10 年以上が経過している。

この間、平成 25 年には、「尼崎 21 世紀の森づくり協議会」を協議体と活動体に区分し、その結果、県民同士の活動の連携による多様な参画が生まれ始めている。また、平成 26 年には「尼崎 21 世紀の森構想」のリーディングプロジェクトであり、先導拠点として位置付けられた尼崎の森中央緑地のパークセンターがオープンし、森づくりなどへの県民や企業の参画、小学生等の環境学習の機会が増えつつあり、『森と水と人が共生する環境創造のまち』の実現に向けた取組や活動主体等も変化しつつある。

(2) 中間総括の目的と概要

本中間総括は、今後の「尼崎 21 世紀の森構想」の推進方策やその進め方、「尼崎 21 世紀の森づくり協議会」のあり方などの検討に資することを目的として、「尼崎 21 世紀の森構想」推進の道標となる「尼崎 21 世紀の森づくり行動計画」に基づく取組ごとに進捗状況を評価し、その成果や課題を整理した上で「尼崎 21 世紀の森構想」推進の方向性を検討するものである。

具体的には、「尼崎 21 世紀の森づくり行動計画」における 4 つの取組（「環境の回復・創造、美しい風景の創出にむけた取組」、「活力のある都市の再生に向けた取組」、「既存産業の育成・高度化と新産業の創造に向けた取組」、「気運の醸成に向けた取組」）について、現在までの推進状況、活動主体等を把握したうえで、その成果や課題を整理し、今後の「尼崎 21 世紀の森構想」推進の方向性を検討している。

(3) 中間総括の方法

「尼崎 21 世紀の森づくり行動計画」の 4 つの取組に示されている合計 89 個の活動内容ごとに、【取組】、【現在の活動主体】や、今までの【取組状況】、【成果】、【課題】を整理している。

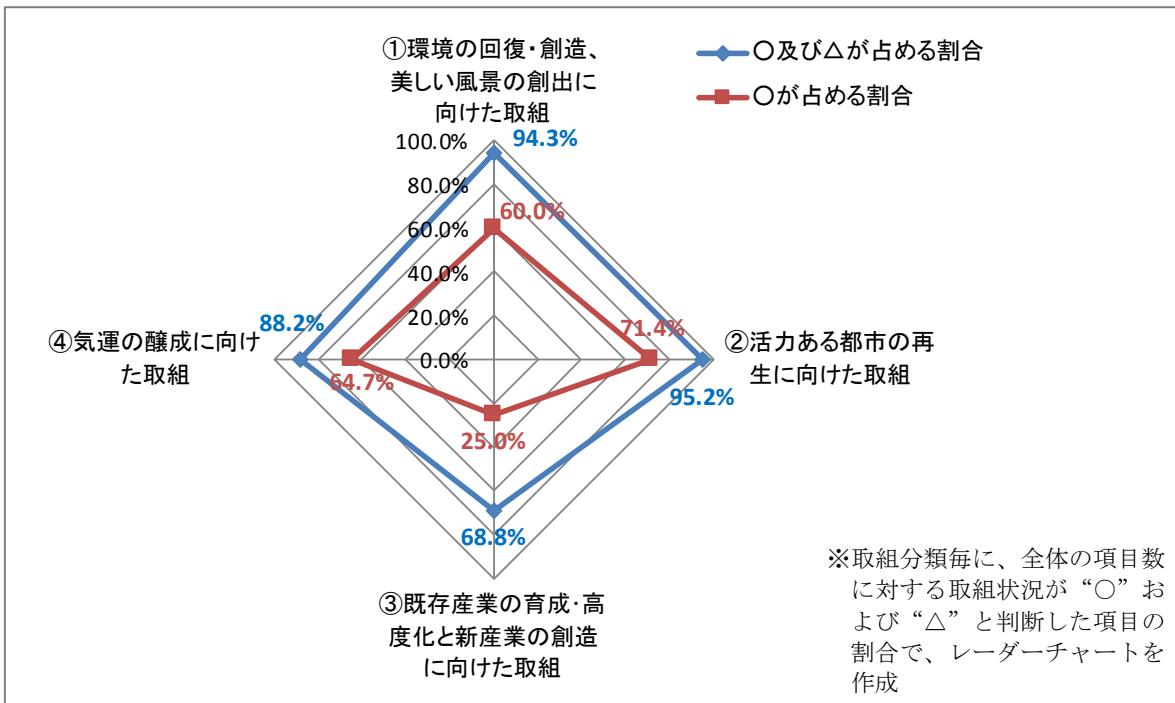
なお、「尼崎 21 世紀の森づくり行動計画」においては、ほとんどの活動内容で具体的な目標水準や数値目標を設定しておらず、【取組状況】を定量的に評価することは困難であった。このため、各活動内容の【取組状況】については、協議会事務局が以下の考え方により、○、△、×で評価している。

取組状況	内容
○	取組が順調に進んでいるもの（取組が完了したものを含む。）
△	取組が進んでいるが、継続に向けて課題があるもの
×	取組があまり進んでいない、または休止状態のもの

3. 尼崎 21 世紀の森構想の中間総括の具体内容

(1) 全体総括

行動計画にある 4 つの分類における取組項目の実施状況を下記にまとめる。



各項目の取組状況を整理すると、(1) 環境の回復・創造、美しい風景の創出に向けた取組は 94.3%、(2) 活力ある都市の再生に向けた取組は 95.2%、(4) 機運の醸成に向けた取組は 88.2% の項目については、取組が進んでいる。

しかし、(3) 既存産業の育成・高度化と新産業の創造に向けた取組については、取組が進んだ項目が全体の 68.8% となっている。

① 環境の回復・創造、美しい風景の創出に向けた取組 (94.3%)

- 森構想の先導拠点地区である「尼崎の森中央緑地」では、県民、企業・団体等の多くの主体の参画のもと、緑化技術検討会等の支援も得て、地域産種子を用いた生物多様性の森づくりが順調に進んでいる。森の生長とあわせて、施設整備の進展を背景に、小学生を中心とした環境学習やイベント開催など、利活用の取組も着実に進んでいる。
- 市民団体の自主的な活動に加えて、森づくり定例活動やエリア設定型森づくり活動など、県民、企業等が維持管理に参画する仕組みの導入により、森づくりに関わる人の輪が拡大している。今後も、活動内容の PR やイベント開催等を通じて、こうした人材や組織を継続的に確保することが必要である。

② 活力ある都市の再生に向けた取組 (95.2%)

- 市民団体や大学等と連携した水質浄化活動やイベントの開催を通じて、運河の水質浄化や再生が進展するとともに、環境体験学習等を通じて、水質浄化に関する理解を深める

ことができている。

- 運河の再生に関する取組に加えて、中央緑地の森づくりにおいても、関係者の連携が進展している。多様な主体の参画を得て、数多くのイベントを開催し、利活用を促進しているが、アクセスの面では十分ではなく、さらなる取組が必要である。

③ 既存産業の育成・高度化と新産業の創造に向けた取組（68.8%）

- 臨海地域の資源である運河を活用した多くのまちづくり活動が展開されるとともに、これらの活動を支える組織づくりも進展した。また、工場緑化を推進するため、企業等の参画を得て指針を作成するとともに、支援制度の運用・拡充も実施した。しかし、産業活性化の仕掛けづくりについては、企業や研究機関の協力を得られたものの、具体的な取組には結びついていないため、その位置付けを再検討する必要がある。

④ 気運の醸成に向けた取組（88.2%）

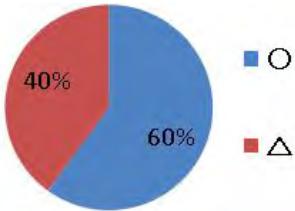
- CI 計画の策定や各種媒体による広報を通じて、尼崎 21 世紀の森づくりの PR と気運の醸成を進めるとともに、「森の会議」の設置により、中央緑地を中心に森づくり活動の輪が広がりつつあるが、森構想を推進するためには、より幅広い県民の参画を促す仕組みづくりや新たな事業の企画・立案が必要である。

(2) 尼崎 21世紀の森構想の成果と課題

① 環境の回復・創造、美しい風景の創出に向けた取組

取組A：先導整備地区における森づくり

【取組状況】



【取組】

- ・尼崎の森中央緑地における 17.1ha 開園（はじまりの森、パークセンター、大芝生広場等）、県民等の参画による植樹 61,000 本(H27.3 現在)、小学生を中心とした環境学習やイベント（森のピクニック、昆虫大捜査線等）の実施。
 <活動主体：県民、尼崎信用金庫、アマフォレストの会等の企業・団体、県・市、指定管理者>
- ・丸島地区における野球場、多目的広場等の施設整備 <活動主体：市>
- ・フェニックス事業用地における企業誘致の実施、大学と連携した海藻類の堆肥化と菜の花育成。太陽光発電施設の暫定的整備。
 <活動主体：県・市、徳島大学、（公財）ひょうご環境創造協会等>



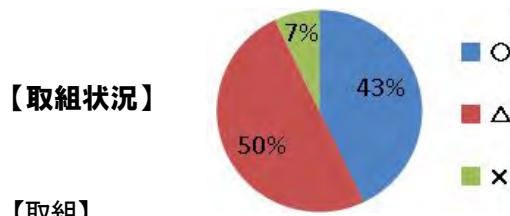
【成果】

- ・尼崎の森中央緑地では、「はじまりの森」が生長するなど、森づくり活動が順調に進展。環境学習やイベント等による利活用も着実に進展。
- ・丸島地区では、スポーツ・レクリエーション機能を確保。フェニックス事業用地では、産業誘致を促進し、大学との連携による水質浄化を中心とした市民活動も進展。

【課題】

- ・丸島地区、フェニックス事業用地とともに、自然生態保全育成の森づくりは未実施。それ下水道施設拡張計画、埋立計画との調整が必要。

取組B：みどり(森)の多面的機能を活用したまちづくりの実践



- ・尼崎の森中央緑地植栽計画の策定、専門家による中央緑地緑化技術検討会の開催、森づくり体験講座などの開催。 <活動主体：学識者、アマフォレストの会、県、指定管理者>
- ・尼崎運河再生プロジェクト基本計画策定、北堀運河等における桜並木整備とシンボルツリー植樹、尼崎宝塚線での街路樹整備、地域との連携による緑化。
<活動主体：県、市、尼崎運河〇〇クラブ等>
- ・尼崎市の小学校等で環境体験学習や緑化指導を実施。中央緑地で尼崎市の小学3、4年生を対象に、環境学習の受け入れを実施。
<活動主体：アマフォレストの会、県・市、指定管理者>
- ・尼崎鉄工団地協同組合と連携した工場のすき間緑化、新日鐵住金㈱等による工場敷地緑化の実施 <活動主体：尼崎鉄工団地協同組合、新日鐵住金㈱ 等>



【成果】

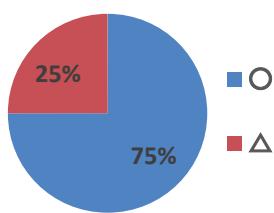
- ・緑化技術検討会、各種講座の開催により、中央緑地の生物多様性の森づくりが進展。
- ・北堀運河や尼崎宝塚線等を中心とした緑地環境の創出、地域と連携した環境学習や緑化の推進。
- ・中央緑地での受け入れにより、小学4年生を中心とした環境学習が大きく進展。
(H26：42校、3,500人来園)
- ・すき間緑化と大企業による工場敷地緑化が進展。公共用地の緑化とあわせて、臨海部の緑被率向上。(H9：4.0% → H24：6.1%)

【課題】

- ・臨海部の緑被率が、近年は横ばい気味。森構想の目標値30%に向け、さらなる緑化の取組が必要。
- ・中央緑地以外の森構想区域では、緑づくりのための低・未利用地の暫定的活用や、エコライフスタイル実現に向けた取組などがほとんどみられない。

取組C：森づくりを支える循環型のしくみづくり

【取組状況】



【取組】

- 丸島地区では剪定枝の堆肥化等の試行、のびのび公園では循環型の土壤づくりを実施。成良中学校では、貝殻をつぶして作った土壤を用いて野菜づくりを実施。

<活動主体：徳島大学、成良中学校、大阪湾広域臨海環境整備センター、NPO 法人、県・市等>

- 中央緑地での県民、企業・団体等の参画による地域産種子からの苗づくり。苗木の里親制度の運営、環境学習での苗づくりの実施。

<活動主体：県民、尼崎信用金庫・アマフォレストの会等の企業・団体、指定管理者、県・市>

- 尼崎の森中央緑地基本計画等において雨水活用などを検討<県>



【成果】

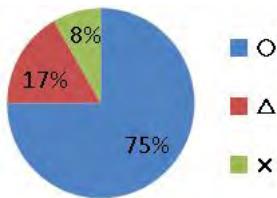
- 丸島地区、北堀運河等をフィールドとして、県・市、県民、大学、市民団体等が連携して、循環型の土壤づくりを試行的に実施。
- 中央緑地で、県民、尼崎信用金庫、アマフォレストの会等の参画のもと、地域産種子を用いた森づくりが順調に進展。
- 中央緑地全体で雨水を一時的に貯留し、時間をかけて地下へ浸透させ水質浄化を図ることで環境再生に貢献。

【課題】

- 中央緑地の森の生長に伴い、増加が見込まれる間伐材の有効活用方策の検討が必要。

取組D：森づくりの輪を広げる（森づくりに携わる人の輪の拡大や人材の育成、信頼される組織づくり）

【取組状況】



【取組】

- ・中央緑地での森づくり定例活動や、かんきょうモデル都市あまがさき探検事業による小学4年生の環境学習等において、体験プログラムを実施。
　　<活動主体：県・市、指定管理者、アマフォレストの会等>
- ・中央緑地におけるエリア設定型森づくり活動や苗木の里親植樹会等の実施。尼崎信用金庫と県が森づくりの推進に関する協定を締結。
　　<活動主体：アマフォレストの会、尼崎信用金庫、県・市、指定管理者等>
- ・中央緑地におけるアマフォレストの会の活動、尼崎南部グリーンワークス等によるすき間緑化や都市緑化の普及啓発。
　　<活動主体：アマフォレストの会、尼崎南部グリーンワークス、県・市、指定管理者>
- ・森づくりフォーラム、森の会議、森のピクニックの開催。尼崎21世紀の森ウェブマガジンの開設。フリーマガジン「Aa」、「森のしんぶん」等の発行。
　　<活動主体：県・市、指定管理者、NPO法人尼崎21世紀の森等>



【成果】

- ・中央緑地での森づくり定例活動や小学生を主に対象とした環境学習において、苗づくりや土づくりの体験プログラムを実践。
- ・中央緑地でのエリア設定型森づくりの導入や森づくり定例活動等により、県民・企業・団体が継続的に維持管理に参画。
- ・中央緑地におけるアマフォレストの会の取組など、市民団体と連携した森づくり活動が進展。
- ・積極的な活動内容のPRやイベントの開催により、森づくりに関わる人の輪を拡大。

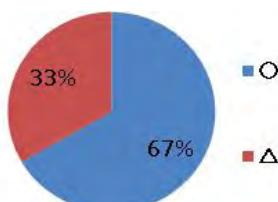
【課題】

- ・市民団体の活動が継続できるよう、支援の仕組みづくりや、将来の担い手育成が必要。また、将来の森づくりの担い手育成のために、さらなるPRやイベント開催等が必要。

② 活力ある都市の再生に向けた取組み

取組A：人々の暮らしや活動を盛り込んだ地域の将来像づくり（まちを考える）

【取組状況】



【取組】

- ・尼崎 21 世紀の森型工場緑化の提案。県による尼崎 21 世紀の森緑化賞の創設、工場緑化支援制度の運用・拡充（県民まちなみ緑化事業、尼崎 21 世紀の森沿道緑化事業）。「尼崎市工場立地法の特例措置及び景観と環境に配慮した工場緑化等の推進に関する条例」の制定。

＜活動主体：県・市＞

- ・県による尼崎運河再生プロジェクト基本計画策定、水質浄化施設及び北堀キャナルベースの整備。これらの施設を活用した水質浄化研究や環境体験学習の受入れ、運河博覧会、運河クルージング、オープントキヤナルディ、オープントキヤナルフェスティバル等の開催。徳島大学、県、市による「尼崎運河における水環境改善等の推進についての連携協力に関する協定」の締結。

＜活動主体：NPO 法人尼崎 21 世紀の森、尼崎南部再生研究室、尼崎運河○○クラブ、

徳島大学、県・市＞

- ・阪神出屋敷駅と中央緑地の間に阪神バスが運行。バス事業者に対して、県が事業費の一部を補助。サイクリング道路「尼っこリンリン・ロード」の整備と推奨ルートの設定。

＜活動主体：県・市＞



【成果】

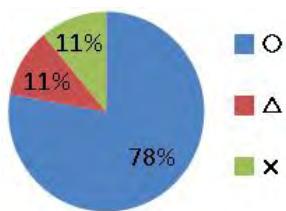
- ・工場緑化の具体的手法の提案や支援制度の運用・拡充等により、工場緑化が進展し、臨海部の緑被率向上（H9：4.0% → H24：6.1%）。
- ・市民団体や大学等と連携した、水質浄化活動やイベントの開催を通じて、運河の水質浄化や再生が進展。また、環境体験学習等を通じて、水質浄化に関する理解を深めるとともに、協定の締結により、研究機関との連携体制も強化。
- ・バスの運行や「尼っこリンリン・ロード」の整備等により、臨海地域へのアクセスを確保。

【課題】

- ・臨海部の緑被率が、近年は横ばい気味。森構想の目標値 30%に向か、新たな仕組みの検討が必要。
- ・バスの運行本数は少なく、臨海地域へのアクセス向上のために、さらなる取組が必要。

取組B：地元住民、市民、事業者、行政などの主体がまちづくりに参加できるプログラムづくり（まちをつくる）

【取組状況】



【取組】

- ・地元企業・団体・学校等と連携し、尼崎運河博覧会、オープンキャナルフェスティバル等を開催。地元住民や団体との交流の場となる森の会議の開催。
＜活動主体：NPO 法人尼崎 21 世紀の森、尼崎南部再生研究室、尼崎運河〇〇クラブ、尼崎キャナルガイドの会、徳島大学、県・市、指定管理者、森の会議＞
- ・尼崎キャナルガイド養成講座の開催、尼崎キャナルガイドの会結成。
＜活動主体：市、徳島大学、尼崎キャナルガイドの会＞
- ・尼崎スポーツの森でサマーフェスタやダンスイベントを開催。中央緑地で苗木の里親植樹会、森のピクニック、300 人の昆虫大捜査線、郷土種がーデニングコンテスト、森の子育てひろば等を開催。
＜活動主体：森の会議、アマフォレストの会、県・市、指定管理者等＞



【成果】

- ・中央緑地の森づくりと運河の再生に関する取組を通じて、関係者の連携が進展。
- ・養成講座の修了者で結成された尼崎キャナルガイドの会が、臨海部の歴史や地理を発信する担い手となっている。
- ・多様な主体の参画を得て、中央緑地で数多くのイベントを開催し、利活用を促進。

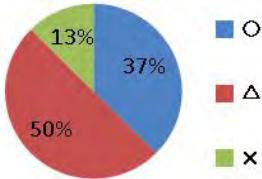
【課題】

- ・森づくりと運河再生の取組を継続・発展させることが必要。

③ 既存産業の育成・高度化と新産業の創造に向けた取組

取組A：森と産業が共生するまちづくりの推進(地域や市民生活とのつながり)

【取組状況】



【取組】

- ・尼ロックに展示室を設け、尼ロックや運河等の地域資源の学習や、防災学習を実施。
　　<活動主体：県・市>
- ・尼崎運河博覧会、オープンキャナルフェスティバル等を開催。尼崎運河〇〇クラブを設立。
　　<活動主体：NPO 法人尼崎 21 世紀の森、尼崎南部再生研究室、尼崎運河〇〇クラブ、県・市>
- ・「尼崎 21 世紀の森における工場地域みどり景観の創出に向けた提案」を行うとともに、「尼崎 21 世紀の森型工場緑化ガイドブック」を作成 <活動主体：県・市、企業>
- ・尼崎版グリーンニューディールの策定 <活動主体：県・市>



【成果】

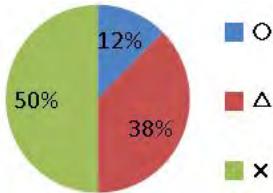
- ・尼崎運河等について学ぶ場として、また、災害に備える防災学習の場として尼ロックの展示室を活用。多くの方に身近にある地域資源（運河等）や防災に関する知識を深めてもらうことができた。
- ・臨海地域の資源である運河を活用した多くのまちづくり活動が展開されるとともに、これらの活動を支える組織づくりも進展した。
- ・企業等の参画も得て、工場緑化を推進するための仕組みについて検討を重ねた結果、具体的な指針として「尼崎 21 世紀の森型工場緑化ガイドブック」を策定することができた。

【課題】

- ・産業遺産の活用、工場緑化の推進等については一定の進展があったものの、具体的な取組に結びついていないものもあり、各活動内容を「森と産業が共生するまちづくりの推進」というテーマの中にどのように位置付けて今後の展開を図っていくのか検討が必要。

取組B：森を活かした産業活性化の仕掛けづくり

【取組状況】



【取組】

- ・尼崎の森中央緑地パークセンターに太陽光及び風力発電施設を導入 <活動主体：県等>
- ・企業アンケートの実施 <活動主体：県・市、企業、尼崎商工会議所>
- ・「こどもモノづくり体験スクール」、森づくりフォーラム「エコな会社とエコキッズ大集合」、「エコキッズメッセ」を開催。

<活動主体：県・市、尼崎商工会議所、NPO 法人尼崎 21 世紀の森>



【成果】

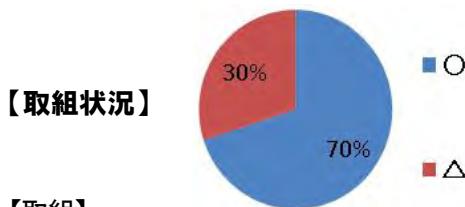
- ・中央緑地に太陽光発電施設等を導入し、再生可能エネルギーの利用を進めるとともに、環境学習機能を強化することができた。
- ・企業アンケートの実施を通じ、「森を活かした産業活性化」に対する企業の意向を把握することができた。
- ・「こどもモノづくり体験スクール」や「エコキッズメッセ」等の開催を通して、子供たちに、「モノづくり」や「環境」に対する関心を高めてもらうことができた。

【課題】

- ・企業の協力を得ることや研究機関と連携することはできたが、それを「森を活かした産業活性化の仕掛けづくり」に繋げ、具体的な取組に結びつけるまでには至らなかった。今後、企業や研究機関との連携強化を図る仕掛けづくりの検討が必要。

④ 気運の醸成に向けた取組

取組A：構想全体の機運醸成＝「尼崎21世紀の森づくり」のコミュニティ・アイデンティティ構築



【取組】

- ・尼崎21世紀の森CI計画の策定（ロゴタイプ、マーク、アイキャッチャー、基本カラー等）。
　　＜活動主体：県・市、NPO法人尼崎21世紀の森＞
- ・フリーペーパー「Aa」や「森のしんぶん」の発行。
　　＜活動主体：NPO法人尼崎21世紀の森、森の会議、県、指定管理者＞
- ・ホームページの開設及びリニューアル。尼崎21世紀の森ウェブマガジンの開設。
　　＜活動主体：県・市、指定管理者、NPO法人尼崎21世紀の森＞
- ・活動団体がフラットな形で参加、情報交換、連携するプラットホームとして「森の会議」を設置。＜活動主体：森の会議、県、指定管理者＞



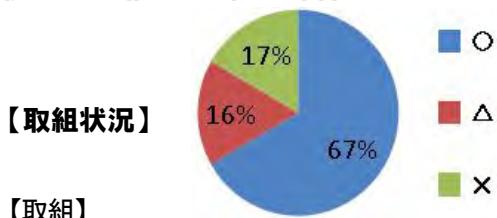
【成果】

- ・尼崎21世紀の森CI計画に基づき作成したロゴタイプ、マークなどを効果的に使用することにより、尼崎21世紀の森づくりの認知度を高めることができた。
- ・フリーペーパー「Aa」、「森のしんぶん」等による広報に加え、平成25年度に開設した「尼崎21世紀の森ウェブマガジン」の効果も相まって、気運の醸成が順調に進んでいる。
- ・森の会議から中央緑地を中心に様々な活動が生み出されるなど、活動体としての取組が軌道に乗りつつある。

【課題】

- ・広報活動は一定の進展を見せておりが、森づくり活動の輪を更に広げるために、新たな参画者の獲得に繋がるような広報手法の検討が必要。

取組B：構想の推進母体としての協議会の組織づくり



- ・尼崎の森中央緑地及び周辺地域の過去からの写真等を収集・整理
<活動主体：県・市、指定管理者>
- ・勉強会、研修会を開催。<活動主体：森の会議、県・市、指定管理者>
- ・定規、缶バッヂ、エコバッグ等のグッズを作成
<活動主体：県・市、指定管理者、NPO 法人尼崎 21 世紀の森>



【成果】

- ・収集・整理した中央緑地等の歴史情報や、作成したグッズを活用して森づくりをPRし、気運の醸成に繋げることができた。
- ・勉強会等の開催を通じて、森づくり活動の前提となる基礎知識を共有することができ、そのことが組織としてのまとまりに繋がった。

【課題】

- ・幅広い住民の参画を促す等の理由から協議会組織を再編(部会制を廃止)したが、新体制のもと、取組を充実させ森構想を推進するために「活動体」のあり方についての検討が必要。

取組C：尼崎 21 世紀の森構想を推進する新事業開発

【取組状況「○」が 0%】

【取組】

- ・尼崎市による工場立地法の緑地面積率等の規制緩和に際し、緩和する面積相当分を工場緑化等で確保するという条例制定に当たっての配慮事項を協議会から市に提案。
<活動主体：尼崎 21 世紀の森づくり協議会、県・市>

【成果】

- ・提案を盛り込んだ形で条例が制定(平成 21 年 12 月)され、工場緑化等の推進に繋がった。

【課題】

- ・この取組以外に、新規事業の展開には大きな進展がなく、森構想を推進するために新しい発想で事業を企画・立案することが必要。

①環境の回復・創造、美しい風景の創出に向けた取組一覧

○:取組が順調に進んでいるもの(取組が完了したものを含む。) △:取組が進んでいるが、継続に向けて課題があるもの ×:取組があまり進んでいない、または休止状態のもの

取組	活動項目	活動内容	取組	現在の活動主体	取組状況	成果	課題
A 先導整備地区における森づくり	ア 森づくりの実践	1 尼崎の森中央緑地の森づくり（「つくる」「まもる」「つかう」）	17.1ha開園（はじまりの森、パークセンター、大芝生広場等）、県民等の参画による植樹61,000本（H27.3現在）、小学生を中心とした環境学習やイベント・森のピクニック、昆虫大捜査線等の実施	県民、尼崎信用金庫・アマフォレストの会等の企業・団体、県・市、指定管理者	○	「はじまりの森」が生長するなど、森づくり活動が順調に進展。環境学習やイベント等による利活用も着実に進展。	
		2 (仮)末広緑地:4,000m ² の森づくり:参画と協働による緑地づくりの第一歩として	ワークショップで検討したゾーニング等に基づく緑地の整備	-	○	中央緑地の森づくりの進展に伴い、試行的に整備された当緑地の役割は終了。(株CPDにより、適切に維持管理)	
		3 丸島地区下水処理場(2,000m ²)での暫定的な森づくり	剪定枝の堆肥化等の試行	-	○	中央緑地での土づくり、苗づくりなど森づくりの基本的技術の確立に伴い、当地の実験場としての役割は終了。	
		4 丸島地区的森づくり（「つくる」「まもる」「つかう」）	野球場、多目的広場等の施設整備	市	△	スポーツ・レクリエーション機能を確保。	自然生態保全育成の森づくりは未実施。下水道施設の拡張計画があるため、実質的には休止状態。
		5 フェニックス事業用地の森づくり（「つくる」「まもる」「つかう」）	安定型区画では、企業誘致の実施、大学と連携した海藻類の堆肥化と菜の花育成。管理型区画では、一部で太陽光発電施設を暫定的に整備。	県・市、徳島大学、(公財)ひょうご環境創造協会等	△	新たな産業の誘致を促進。大学との連携による水質浄化を中心とした市民活動も進展。	自然生態保全育成の森づくりは、埋立中につき未実施。埋立地の利用計画との調整が必要。
B みどり(森)の多面的機能※を活用したまちづくりの実践	イ 1,000haにおける“森づくり戦略”的検討	6 行動計画推進のためのワークショップ等の開催	(仮)末広緑地や中央緑地パークセンター周辺整備のためにワークショップなどを開催	県・市等	△	ワークショップの検討結果を中央緑地等の整備内容に反映。	中央緑地から1,000ha全体に森づくりを広げるための方策の検討は十分ではない。
		7 生物多様性保全の研究	尼崎の森中央緑地植栽計画の策定、専門家による中央緑地緑化技術検討会の開催、森づくり体験講座などの開催	学識者、アマフォレストの会、県、指定管理者	○	緑化技術検討会、各種講座の開催により、中央緑地の生物多様性の森づくりが進展。	
		8 森づくりにおけるアダプティブマネジメント(適応的管理)の手法の確立	はじまりの森の定点観測、動植物モニタリング調査の実施	県	○	定点観測、モニタリング調査により情報を蓄積し、中央緑地の森づくりに反映。	
	ウ みどりのネットワーク(骨格)形成	9 のじぎく兵庫国体に向けた美しいまちづくり	拠点地区及び国体輸送ルートの修景計画作成、尼崎花のまち委員会の協力を得て緑化・花づくりを実施	-	○	のじぎく国体開催に合わせて、花緑による美しいまちなみづくりの取組を実施。(尼崎花のまち委員会により維持管理)	
		10 河川・運河の緑化活動	尼崎運河再生プロジェクト基本計画策定、北堀運河等における桜並木整備シンボルツリー植樹、地域との連携による緑化	県・市、尼崎運河〇〇クラブ等	○	北堀運河を中心とした緑地環境の創出、地域と連携した環境学習や緑化の推進。	
		11 街路樹の緑化活動	尼崎宝塚線拡幅事業に関連して、協議会が道路景観等ガイドライン作成に係る提案を実施。尼崎宝塚線等で街路樹を整備。	県・市	△	尼崎宝塚線等で街路樹を整備。	臨海部の緑被率向上に資する新たな街路樹整備の検討が必要。
	エ 【みどり(森)の多面的機能】とは、生物多様性保全機能環境保全(ヒートアラート、CO2・…機能、防災力アップ機能、良好なまちなみ景観修景)維持機能、地域の“らしさ”創出機能、安全・安心のコミュニケーション機能、福祉機能(子育て、高齢者)	12 身近なみどりの保全・創出を通じた良好なまちなみ景観と地域コミュニティづくり	尼崎市の小学校等で環境体験学習や緑化指導を実施。中央緑地で尼崎市の小学3、4年生を対象に、環境学習の受け入れを実施。	アマフォレストの会、県・市、指定管理者	○	中央緑地での受け入れにより、小学4年生を中心とした環境学習が大きく進展。(H26:42校、3,500人来園)	
		13 民有地(工場・住宅地)のみどりの豊かなまちなみづくり	尼崎鉄工団地協同組合と連携した工場のすき間緑化、新日鐵住金㈱等による工場敷地緑化の実施	尼崎鉄工団地協同組合、新日鐵住金(株)等	△	すき間緑化と大企業による工場敷地緑化が進展。公共用地の緑化とあわせて、臨海部の緑被率向上。(H9:4.0% → H24:6.1%)	臨海部の緑被率が、近年は横ばい気味。森構想の目標値30%に向け、さらなる取組が必要。
		14 遊休地や低・未利用地の暫定的利用の仕組みづくり	中央緑地の事業予定用地を一時、苗や資材の置き場として利用	-	△	中央緑地の整備過程ではあるが、低・未利用地の暫定的活用のモデルとして位置づけ。	中央緑地の事業予定地以外では、1,000ha内で緑づくりのための暫定的活用に目立った取組がない。
		15 みどり(森)づくりを通じたまちの“らしさ”の形成～みどりで彩る！食べる！加工する！	市による尼イモ復活プロジェクトの実施、尼崎南部再生研究室による尼イモ奉納祭の開催、尼崎鉄工団地協同組合による蜂蜜(尼みつ)の生産	市、尼崎南部再生研究室、尼崎鉄工団地協同組合等	○	尼イモ、尼みつをテーマに、尼崎の文化としての“みどり”を発掘・再生して発信。	
		16 エコライフスタイルの実現	エコライフスタイル技術研究会での企画検討。中央緑地に剪定木等を燃料に利用する薪ストーブを設置し、茅葺き民家の移築復原や炭焼き小屋等の設置を計画。	県	△	中央緑地で昔の里山の暮らしや生業を体験する茅葺き民家などの拠点整備計画が着実に進展。	中央緑地以外では、1,000ha内でエコライフスタイル実現に向けた目立った取組がない。
	カ みどり(森)づくりを通じた安全・安心のまちづくり	17 園芸福祉の実施	目立った取組なし。	-	×	特に進展なし。	高齢者や障害者に配慮した中央緑地での体験プログラム等は検討できるが、その他に園芸福祉実現の見通しなし。
		18 緑化による防災力アップのまちづくり	尼崎宝塚線の緑化や北堀運河等での緑地帯整備、新日鐵住金㈱等によるセットバック緑化	県、新日鐵住金㈱等	△	公共用地や工場敷地の緑化により、震災時の延焼やコンクリート塀の倒壊による災害の防止など、防災力向上に貢献。	防災力向上のための緑化による新たな取組がない。
	キ 尼崎の水辺原風景復元	19 あの海でも一度泳ぎたい…生きものが住める川と海辺の復元	市民の参画・協働により、パドルボートを活用した運河清掃活動を実施。北堀運河の水質浄化施設内に葦や砂域からなる人工干潟を設置。	県、NPO法人尼崎21世紀の森、尼崎運河〇〇クラブ等	△	干潟のもつ水質浄化や生物育成の効果を子供たちに伝える環境学習を実施。市民による清掃活動が定着	北堀運河の他には、取組の見通しがない。
C 森づくりを支える循環型のしくみづくり	水、土壤、種子・苗の準備と活用-“尼21森”産自然素材が循環する仕組みづくり-	20 森づくりのための水資源の循環利用	尼崎の森中央緑地基本計画等において雨水活用などを検討	県	○	中央緑地全体で雨水を一時的に貯留し、時間をかけて地下へ浸透させ水質浄化を図ることで、環境再生に貢献。	
		21 循環型の土壤づくり	丸島地区では剪定枝の堆肥化等の試行、のびのび公園では循環型の土壤づくりを実施。成良中学校では、貝殻をつぶして作った土壤を用いて野菜づくりを実施。	徳島大学、成良中学校、大阪湾広域臨海環境整備センター、NPO法人、県・市等	○	循環型の土壤づくりを試行的に実施。	
		22 循環型の苗・種子づくりへリ・シェネラル～	中央緑地での県民・企業・団体等の参画による地域産種子からの苗づくり。苗木の里親制度の運営、環境学習での苗づくりの実施。	県民、尼崎信用金庫・アマフォレストの会等の企業・団体、指定管理者、県・市	○	中央緑地で地域産種子を用いた森づくりが順調に進展。	
		23 木質バイオマス資源利用の調査・研究・実施	他の自然林を対象に、見学会等を開催。中央緑地のはじまりの森の間伐材等を燃料に利用する薪ストーブをパークセンターに設置。	県、指定管理者、アマフォレストの会等	△	中央緑地で間伐材の有効活用のモデルとして薪ストーブを設置。	森の生長に伴い、増加が見込まれる間伐材のさらなる有効活用方策の検討が必要。
D 森づくりの輪を広げる(森づくりに携わる人の輪の拡大や人材の育成、信頼される組織づくり)	人材の育成・組織の育成(学習活動の立案・運営(活動対象:広く市民・学校などを対象に))	24 モデル地域の視察や勉強会、ワークショップの実施	緑化にかかる事例等の見学会や、取り組みを発信するミニフォーラム等の開催。みなとの花野講座や「森づくり体験講座」の実施。	県、指定管理者、アマフォレストの会等	○	視察、勉強会、講座の成果を中央緑地の生物多様性の森づくりに反映。	
		25 苗づくり・土づくりの体験プログラムの実施	中央緑地での森づくり定例活動や、かんきょうモデル都市あまがさき探検事業による小学生の環境学習等において体験プログラムを実施。	県・市、指定管理者、アマフォレストの会等	○	中央緑地での森づくり定例活動や小学生を主に対象とした環境学習において、苗づくりや土づくりの体験プログラムを実践。	
		26 森づくりアドバイザーの養成	アマフォレストの会が中心となって、植樹会等に参加した県民や企業を指導。森づくりや環境学習におけるボランティアの指導者を養成するため、サポーター養成講座を実施。	アマフォレストの会、尼崎信用金庫・アマフォレストの会等の企業・団体、指定管理者等	○	森づくりの指導や講座開催により、参加者は一定の知識・技能を習得。	
		27 維持管理に携わるためのしくみづくりの検討	中央緑地における森づくり定例活動、エリア設定型森づくり活動及び苗木の里親植樹会の実施。尼崎信用金庫と県が森づくりの推進に関する協定を締結。	アマフォレストの会、尼崎信用金庫・アマフォレストの会等	○	森づくり定例活動、エリア設定型森づくり活動等の導入により、県民・企業・団体が継続的に維持管理に参画。	
		28 既存ボランティア団体との連携	中央緑地におけるアマフォレストの会の活動、尼崎南部グリーンワークス等によるすき間緑化や都市緑化の普及啓発	アマフォレストの会、尼崎南部グリーンワークス等	△	中央緑地におけるアマフォレストの会の取組など、市民団体と連携した森づくり活動が進展。	市民団体の活動が継続できるよう、支援の仕組みづくりや、将来の担い手育成が必要。
		29 水質、土壤、生物、植生などの調査・学習	中央緑地における森づくり定例活動で、参加者が苗づくりを学習、栽培実績の少ない植物について、人と自然の博物館に栽培研究を委託し、土壤等の基礎的数据の提供を受け、苗木の育成に活用。	アマフォレストの会、人と自然の博物館・県、指定管理者	○	中央緑地での植栽対象主要樹種等について、苗木育成に必要な土壤等の基礎データを概ね収集できた。	
		30 小中高大学でのみどり学習の実施	尼崎市の小学校等で環境体験学習や緑化指導を実施。中央緑地で尼崎市の小学3・4年生、中学・高校生を対象とした環境学習プログラムの実施。	アマフォレストの会、県・市、指定管理者	○	環境学習(みどり学習)の実施校が増加。対象も小学生から中学・高校生に拡大。	
		31 コミュニティビジネスによる緑化資材の調達	目立った取組なし。	-	×	特に進展なし。	コミュニティビジネスの手法導入の見通しなし。
	コ PR・イベント実施	32 森づくりに携わる人の輪の拡大	森づくりフォーラム、森の会議、森のピクニックの開催。尼崎21世紀の森ウェブマガジンの開設。フリーマガジン「Aa」、「森のしんぶん」等の発行。	県・市、指定管理者、NPO法人尼崎21世紀の森等	△	積極的な活動内容のPRやイベントの開催により、森づくりに携わる人の輪を拡大。	将来の森づくりの担い手を育成するために、さらなるPRやイベント開催等が必要。
	サ 情報の蓄積・活用の仕組みづくり	33 森づくりを後年に伝えるアーカイブ(文書庫)の仕組みづくり	県ホームページ、尼崎21世紀の森ウェブマガジン開設	県・市、指定管理者	○	尼崎21世紀の森づくりに係る各種資料や活動内容をHP等で紹介するとともに、アクセス可能な情報として蓄積。	
		34 森づくりの効果を検証するための現況及び今後のデータ観測、収集	はじまりの森の定点観測、動植物モニタリング調査の実施	県	○	中央緑地でモニタリングによる情報蓄積を実施。	
		35 GISを使った情報図づくり	中央緑地で、苗木植栽図としてGISを活用し、整理。	県	○	中央緑地の苗木植栽図について、GISを活用し、情報を整理。	

②活力ある都市の再生に向けた取組一覧

○:取組が順調に進んでいるもの(取組が完了したものも含む。) △:取組が進んでいるが、継続に向けて課題があるもの ×:取組があまり進んでいない、または休止状態のもの

取組	活動項目	活動内容	取組	現在の活動主体	取組状況	成果	課題
A 人々の暮らしや活動を盛り込んだ地域の将来像づくり(まちを考える)	ア 地域の状況や既存の計画の把握、歴史の学習など、情報の共有・蓄積	1 まちあるきによる地域の状況の把握	運河わいわいサミットで、まちあるきとワークショップを実施。あまがさき運河ウォークラリーや、まちあるきを兼ねた講座の開催。尼崎21世紀の森ウェブマガジンにまちの情報を投稿。キャナルウォークの定期開催。	森の会議、尼崎キャナルガイドの会、県・市	○	まちあるき等で得られた情報をもとに、工場マップなどの作成やウェブサイト(尼崎21世紀の森ウェブマガジン)を通じて、臨海地域の魅力を発信。	
		2 既存の計画や歴史の学習	大庄地区の子供たちが森の記者となり、撮影した写真や取材した結果をとりまとめた、まちあるきマップを作成。尼崎市文化財収蔵庫の協力を得て、森の会議(うちらの地元の森づくり、大庄の100年これまでとこれから)を開催。	森の会議、県・市	○	地元の方のお話、市学芸員による尼崎今昔物語など、臨海地域の将来像を考える上で貴重な情報を得ることができた。	
		3 情報の整理、蓄積(データベース化)	まちあるきの成果をデータベースに蓄積。グリーンマップを活用したマップや、臨海地域の工場マップを作成。尼崎21世紀の森づくり進捗状況図の作成。	県・市	○	まちあるきで得られた情報をもとにマップを作成し、地域の魅力を発信。	
	イ 活き活きとした人々の暮らしや活動が展開できるようなまちの空間づくり～工場を含めたまちの景観づくり(工場緑化、沿道景観形成、色彩計画など)の検討	4 工場緑化の推進に向けたしきみの検討	尼崎21世紀の森型工場緑化の提案。県による尼崎21世紀の森緑化賞の創設、工場緑化支援制度の運用・拡充(県民まちなみ緑化事業、尼崎21世紀の森沿道緑化事業)。「尼崎市工場立地法の特例措置及び景観と環境に配慮した工場緑化等の推進に関する条例」の制定。	県・市	△	工場緑化の具体的手法の提案や支援制度の運用・拡充等により、工場緑化が進展し、臨海部の緑被率向上(H9: 4.0% → H24: 6.1%)。	臨海部の緑被率が、近年は横ばい気味。森構想の目標値30%に向け、新たな仕組みの検討が必要。
		5 沿道景観づくりに向けたまちづくり	拠点地区及び国体輸送ルートの修景計画作成、尼崎花のまち委員会の協力を得て緑化・花づくりを実施	-	○	のじぎく国体開催に合わせて、花園による美しいまちなみづくり、沿道景観づくりを実施。	
	シ ～水辺の再生・水質の改善に向けた検討	6 水辺を活かしたまちづくりに関する取組の検討	フォーラム「運河わいわいサミット」開催、尼崎運河再生プロジェクト基本計画策定。水質浄化施設及び北堀キャナルベースを活用した、運河博覧会、運河クルージング、SUP体験会、オープンキャナルティ、オープンキャナルフェスティバル等の開催。	NPO法人尼崎21世紀の森、尼崎南部再生研究室、尼崎運河〇〇クラブ、徳島大学、県・市等	○	市民団体や大学等と連携した、水質浄化活動やイベントの開催を通じて、運河の水質浄化や再生が進展。	
		7 水質浄化・水循環に向けた検討	尼崎運河の水環境改善を図るために実証実験を実施。北堀運河に水質浄化施設とキャナルベースを県が整備。上記施設を活用した水質浄化研究や環境体験学習の受入れ。徳島大学、県・市による「尼崎運河における水環境改善等の推進についての連携協力に関する協定」の締結。	徳島大学、尼崎運河〇〇クラブ、県・市	○	環境体験学習等を通じて、水質浄化に関する理解を深めるとともに、協定の締結により、研究機関との連携体制も強化。	
	ウ 環境配慮型の新しい暮らしや活動の提案・実践～環境にやさしい交通システム及びアクセスの検討	8 臨海地域へ行きやすくなるようなアクセスの検討	阪神出屋敷駅と中央緑地の間に阪神バスが運行。バス事業者に対して、県が事業費の一部を補助。サイクリング道路「尼っこリンリン・ロード」の整備と推奨ルートの設定。	県・市	△	バスの運行や「尼っこリンリン・ロード」の整備などにより、臨海地域へのアクセスを確保。	バスの運行本数は少なく、臨海地域へのアクセス向上のために、さらなる取組が必要。
		9 環境にやさしい交通システム(LRT、低公害車等)の検討	短期、中長期的な交通の取組とその効果をまとめたビジョンを作成。阪神出屋敷駅と中央緑地の間に阪神バスが運行。エコキッズメッセ等における低公害車のPR。	県・市、NPO法人尼崎21世紀の森	△	公共交通機関として路線バスの運行を確保。	
		10 再生利用可能な環境にやさしい「森のエネルギー」の検討	中央緑地(学習棟・作業棟)、フェニックス事業用地等に太陽光発電施設を設置。	県、(公財)ひょうご環境創造協会等	△	太陽光発電施設の設置により、再生可能エネルギーの利用が進展。	
	～エコライフ・省エネルギー型ライフスタイルの検討	11 地域内で発生する廃棄物のリサイクルに向けた検討	丸島地区では剪定枝の堆肥化等の試行、のびのび公園では循環型の土壤づくりを実施。成良中学校では、貝殻をつぶして作った土壌を用いて野菜づくりを実施。中央緑地では、間伐材を燃料に利用する薪ストーブを設置。	徳島大学、成良中学校、大阪湾広域臨海環境整備センター、NPO法人、県・市等	○	臨海地域内で発生する再利用可能な資源、廃棄物のリサイクルに一定の成果を上げた。	環境にやさしい交通システム(LRT、低公害車等)の実現には至っていない。
		12 環境にやさしい行動の実践、普及、啓発	あまがさきECOキッズセミナーの開催、エコライフスタイル技術研究会の設置、エコキッズメッセの開催	県・市、NPO法人尼崎21世紀の森	○	子供たちに楽しみながら学び、環境問題を身近に感じてもらう機会を確保。	
B 地元住民、市民、事業者、行政などの主体がまちづくりに参加できるプログラムづくり(まちをつくる)	エ 地元住民、地縁組織、工場、企業、行政など、各種主体の連携づくり	13 地元住民、既存まちづくり団体との連携	地元企業・団体・学校等と連携し、尼崎運河博覧会、オープンキャナルフェスティバル等を開催。運河におけるSUP体験会やキャナルガイドの会の活動、地元住民や団体の交流の場となる森の会議の開催。	NPO法人尼崎21世紀の森、尼崎南部再生研究室、尼崎運河〇〇クラブ、尼崎キャナルガイドの会、徳島大学、県・市、指定管理者、森の会議等	○	中央緑地の森づくりと運河の再生に関する取組を通じて、関係者の連携が進展。	緑地の維持管理に協議会として関わるには至っていない。
		14 道路・緑地における維持管理活動(アドボトプログラム)の検討	第6回森づくりフォーラムで運河沿いの緑化について検討。運河域でのアドボトシステムの採用を検討。	-	×	大きな進展なし。	
	オ まちづくりを担う人材の発掘	15 まちづくりアドバイザーの養成	尼崎キャナルガイド養成講座の開催、尼崎キャナルガイドの会結成。	市、徳島大学、尼崎キャナルガイドの会	○	養成講座の修了者で結成された尼崎キャナルガイドの会が、臨海部の歴史や地理を発信する担い手となっている。	運河博覧会の開催等により、尼崎運河をはじめとする地域の貴重な産業遺産の魅力を発信。
		16 産業遺産を活用したまちづくりの検討	産業遺産である尼崎運河のPRのため、尼崎運河博覧会、運河クルージングを実施。パンフレット「阪神南近代化産業遺産物語」により、運河網をはじめとする産業遺産を紹介。	NPO法人尼崎21世紀の森、尼崎南部再生研究室、県・市	○	運河博覧会の開催等により、尼崎運河をはじめとする地域の貴重な産業遺産の魅力を発信。	
	地 地域内の環境を活用した生活文化の創出、発信	17 事業予定地や低・未利用地の一時利用によるソフト面でのにぎわいづくり	森びらきオープニングイベントの開催。中央緑地での「あましん植樹祭」の実施。	県・市、指定管理者、尼崎信用金庫等	△	中央緑地では、各種イベントを通じて、多くの参加者に尼崎21世紀の森づくりをPRすることができた。	中央緑地以外の臨海地域では、低・未利用地を活用した取組を実施するには至っていない。
		18 尼崎の森中央緑地の利活用	尼崎スポーツの森でサマーフェスタやダンスイベントを開催。中央緑地で苗木の里親植樹会、森のピクニック、300人の昆虫大捜査隊、郷土種ガーデニングコンテスト、森の子育てひろば等を開催。	森の会議、アマフォレストの会、県・市、指定管理者等	○	多様な主体の参画を得て、数多くのイベントを開催し、利活用を促進。	
	キ 先導整備地区のまちづくりへの参画・協働	19 産業まち交流拠点、産業の育成・支援拠点におけるまちづくり	まち交流拠点には、土地利用計画変更後にPDPの工場が立地し、協議会の提言を踏まえて敷地緑化等を実施(株CPDに承認)。産業の育成・支援拠点は、分譲後に企業が立地。	-	○	事業者と協力して、産業育成や工場緑化等を行い、まちづくりを推進。	市が野球場、多目的広場等の施設整備。スポーツ・レクリエーション拠点として、指定管理者が管理運営。
		20 丸島地区におけるまちづくりと利活用	市が野球場、多目的広場等の施設整備。スポーツ・レクリエーション拠点として、指定管理者が管理運営。	市・指定管理者	○	スポーツ・レクリエーション機能を確保し、交流のまちづくりを推進。	安定型区画では、企業誘致の実施、大学と連携した海藻類の堆肥化と菜の花育成。管理型区画では、一部で太陽光発電施設を暫定的に整備。
		21 フェニックス事業用地におけるまちづくりと利活用	安定期区画では、企業誘致の実施、大学と連携した海藻類の堆肥化と菜の花育成。管理型区画では、一部で太陽光発電施設を暫定的に整備。	県・市、(公財)ひょうご環境創造協会、徳島大学等	○	新たな産業の誘致を促進。水質浄化を中心とした市民活動も進展。将来の自然生態保全育成の森については、太陽光発電施設による暫定利用を実施。	

③既存産業の育成・高度化と新産業の創造に向けた取組一覧

取組	活動項目	活動内容	取組	現在の活動主体	取組状況	成果	課題
A 森と産業が共生するまちづくりの推進(地域や市民生活とのつながり)	産業遺産等の資源を活用したまちづくりの推進	1 産業遺産等について調べ、学ぶ	尼ロック内に展示室を設け、尼ロックや運河等の地域資源の学習や、津波等の防災学習を実施。	県、市	○	尼ロックに防災学習等のためのスペースを設け、地域資源の学習の場づくりを実践。	
		2 産業まちづくりの輪を広げるための仕組みをつくる	尼崎運河博覧会、運河クルージング、オープンキャナルフェスティバル等の開催。尼崎運河〇〇クラブの設立。	NPO法人尼崎21世紀の森、尼崎南部再生研究室、尼崎運河〇〇クラブ、県・市	○	臨海地域の代表的資源である運河を活用したまちづくり活動を実践。	
		3 産業都市としてのアイデンティティを育む	尼崎運河博覧会、運河クルージング、オープンキャナルフェスティバル等の開催。企業による環境再生の取組を子供たちに伝えるエコキッズメッセの開催。	NPO法人尼崎21世紀の森、尼崎南部再生研究室、尼崎運河〇〇クラブ、企業、県・市	△	臨海地域の資源である運河の活用、企業の環境再生の取組を中心としたまちづくり活動を実践。	取組の市内全域への拡大や、産業都市としてのアイデンティティを生み出すには至っていない。
	工場内、敷地際などの緑化の検討	4 工場緑化について調べ、学ぶ	産業振興と緑の創出の両立方策について、企業等の参画を得て検討会を開催し、「尼崎21世紀の森における工場地域みどり景観の創出に向けた提案」を実施。	県・市、企業	○	本提案は、モデル的な工場緑化の契機になるとともに、「尼崎21世紀の森型工場緑化」の提案づくりにも貢献。	
		5 工場緑化推進の仕組みをつくる	工場の敷地緑化や、すき間緑化の実施。「尼崎21世紀の森型工場緑化ガイドブック」の作成と、工場緑化を支援する制度の運用・拡充(県民まちなみ緑化事業、尼崎21世紀の森沿道緑化事業)。	県・市、尼崎鉄工団地協同組合、新日鐵住金(株)など	△	企業の主体的な取組に加え、工場緑化の具体的手法の提案や支援制度の運用・拡充等により工場緑化が進展し、臨海部の緑被率向上(H9:4.0% → H24:6.1%)。	臨海部の緑被率が、近年は横ばい気味。森構想の目標値30%に向け、新たな仕組みの検討が必要。
	環境の回復・改善方策の検討(よりよい地域環境づくり)	6 地域環境について調べ、学ぶ	環境と共生する産業活性化の取組の事例として、岸和田市や京丹後市を視察。	-	×	環境と共生する産業活性化について、情報収集を実施。	具体的な取組には結びついておらず、活動主体も明確でない。
		7 森を活かした「グリーン系産業」の仕組みをつくる	「環境と産業の共生」、「地域経済の好循環」を図るために、「尼崎版グリーンニューディール」を市が制定。	県・市	△	「尼崎版グリーンニューディール」に基づく取組が進展。	環境技術の活用や開発など、具体的なグリーン系産業の仕組みづくりには至っていない。
		8 幅広い環境技術、環境要素に展開する	「環境と産業の共生」、「地域経済の好循環」を図るために、「尼崎版グリーンニューディール」を市が制定。	県・市	△	「尼崎版グリーンニューディール」に基づく取組が進展。	
B 森を活かした産業活性化の仕掛けづくり	新たな環境・エネルギー産業の振興	9 環境・エネルギー産業について調べ、学ぶ	中央緑地(学習棟・作業棟)等に太陽光発電施設を設置。	県等	△	太陽光発電施設の設置により、再生可能エネルギーの利用及び環境学習を実践。	太陽光発電以外の再生可能エネルギーの利用や、中央緑地以外の取組については、大きな進展なし。
		10 環境・エネルギー産業の振興の輪を広げるための仕組みをつくる	大阪大学サステナビリティ・デザイン・オンサイト研究センターとの連携体制を検討。	-	×	研究機関との連携体制について検討を実施。	
		11 「尼崎EIP(エコ・インダストリアル・パーク)構想や、EEP(エコ・エネルギー・パーク)構想」の立案と実践	尼崎EIP(エコ・インダストリアル・パーク)構想や、EEP(エコ・エネルギー・パーク)構想について検討	-	×	尼崎EIP(エコ・インダストリアル・パーク)構想等について検討を実施。	具体的な取組には結びついておらず、活動主体も明確でない。
	研究開発機能の充実・強化の推進	12 研究開発機能について調べ、学ぶ	大阪大学サステナビリティ・サイエンス研究機構が受託した「地球温暖化対策技術開発事業(環境省)」について、情報交換と連携方策の検討。	-	×	地球温暖化対策技術開発について検討を実施。	
		13 「研究所ネットワーク構想」の立案と実践	研究所ネットワークを把握し、マップを作成。	-	×	「研究所ネットワーク構想」について検討を実施。	
	産業支援の仕組みづくり(コーディネート)	14 企業アンケートの実施	「産業と森づくり」の方向性を探ることを目的に、市内の企業等へのアンケート調査を実施。	県・市、企業、尼崎商工会議所	△	「森を活かした産業活性化」に対する企業等の意向を把握する基礎資料とすることができた。	具体的な取組には結びついていない。
		15 産業活性化方策の検討、提案	環境改善に寄与する取組を表彰する「あまさきエコプロダクツグランプリ」、「あましんグリーンプレミアム」等の開催	市、尼崎信用金庫	△	環境モデル都市尼崎のブランドイメージ構築に寄与。	「森を活かす」という視点からの産業活性化策の提案には至っていない。
		16 地域PRと情報発信	「こどもモノづくり体験スクール」、フォーラム「エコな会社とエコキッズ大集合」等において、企業の環境再生に向けた取組を紹介。エコキッズメッセの開催。	県・市、尼崎商工会議所、NPO法人尼崎21世紀の森	○	臨海地域のPRと産業活性化に関する情報発信に取組み、森構想と企業活動を結びつけることができた。	

④気運の醸成に向けた取組一覧

取組	活動項目	活動内容	取組	現在の活動主体	取組状況	成果	課題
A 構想全体の機運醸成 =「尼崎21世紀の森づくり」のコミュニケーション・アイデンティティ構築	CI(コミュニティ・アイデンティティ)計画の作成	1 CI(コミュニティ・アイデンティティ)計画の策定(ロゴタイプ、マーク、アイキャッチャー、基本カラー等の作成)	尼崎21世紀の森CI計画の策定(ロゴタイプ、マーク、アイキャッチャー、基本カラー等の作成)	県・市、NPO法人尼崎21世紀の森	○	計画の作成、様々な媒体を通じて効果的な活用により、尼崎21世紀の森づくりの認知度を高め、愛着を持ってもらうことができた。	
		2 ニュースレターの作成・配布	ニュースレター「あまさまボン」、フリーペーパー「Aa」、「森のしんぶん」の発行	NPO法人尼崎21世紀の森、森の会議、県・指定管理者	○	「Aa」、「森のしんぶん」等、各種広報誌の作成により、森づくりに携わる人々、サポーターを増やすことができた。	
		3 ホームページの作成・公開・更新	県・市・NPO法人尼崎21世紀の森によるホームページの開設とりにリニューアル、尼崎21世紀の森ウェブマガジンの開設	県・市、指定管理者、NPO法人尼崎21世紀の森	○	ホームページ等により広く情報発信。ウェブマガジンは、行政と一般の方々、双方からの情報発信が可能なシス	
		4 周知チラシ・ポスター・各種パンフレットの作成・配布	森づくり活動への勧誘のため、各種PRチラシ等を作成。中央緑地の整備の進展に合わせて、多彩なイベント案内チラシを作成。	県・市、指定管理者、NPO法人尼崎21世紀の森等	○	ターゲットに合わせたデザイン作成、配付先の絞り込み・決定により、効果的に情報を発信。	
		5 各種PRグッズの作成(外向けの盛り上げツール作成)	缶バッヂ、キーホルダー等のPRグッズの作成や、Tシャツの試行販売。中央緑地バーカセンターのオープンを記念し、森をイメージしたエコバッグを作成。	県・市、指定管理者、NPO法人尼崎21世紀の森	○	PRグッズ等の作成・配付により、森づくりに携わる人々を増やすことができた。	
		6 外むけ発信型イベントの実施	サマーフェスタ、森づくりフォーラムの開催。森のビニニック、あましん植樹祭等の開催。	森の会議、アマフォレストの会、尼崎信用金庫、県・市、指定管理者	○	イベント毎に森づくりの進捗状況に合わせたテーマを設定し、参加者に森づくりの着実な推進をPR。	
	市民、専門家、企業等、みんなが参画するしくみづくり	7 企業協賛のしくみづくり	企業協賛型の取組(フリーペーパー「Aa」の発行)の実施、エコキッズメッセへの企業の出展、尼崎信用金庫等の企業の森づくりへの協力	NPO法人尼崎21世紀の森、尼崎信用金庫等の企業、県・市	○	情報誌への資金支援、イベントのプログラムへの参加など、多様な企業参画の形を引き出すとともに、参画企業のPRにも繋げることができた。	
		8 人材・団体のデータバンク化(専門家のアドバイザー登録)	尼崎21世紀の森づくりに関わった人材、団体のデータバンク化	森の会議、NPO法人尼崎21世紀の森、県・市	△	ワークショップやフォーラム等の開催により、森づくりに携わる人々のデータバンクを作成し、活用するまでには至っていない。	
		9 ボランティア登録制度	ボランティアとしてのサポート募集、サポート大会の開催。アマフォレストの会の活躍。苗木の里親制度では、県民を苗木育成、植樹のボランティアとして登録。	県・市、指定管理者、アマフォレストの会	△	ボランティア登録制度等により、森づくりに携わる人々を増やすことができた。	森の生長に伴い、維持管理も含めた森づくりに長期間携わるボランティアの登録が必要。
		10 プラットフォーム(意見・情報交換)の場の機能の確立と運営	企画運営推進委員会の開催。活動団体がフラットな形で参加、情報交換、連携するプラットフォームとして「森の会議」を設置。	森の会議、県・市、指定管理者	△	森の会議により、県民提案型イベントが実施されるなど新たな組織の活動が軌道に乗りつつある。	活動の継続・発展とともに、活動範囲を中央緑地から構想エリア全体に広げることが必要。
B 構想の推進母体としての協議会の組織づくり	情報蓄積・共有のしくみづくり	11 データベースづくり	まちあるきの成果をデータベースに蓄積。中央緑地及び周辺地域の過去の写真等を収集・整理し、森構想や中央緑地のPR等に活用。	県・市、指定管理者	○	中央緑地及び周辺地域の歴史情報として、過去の写真等を事業説明やイベント等で活用。	
		12 情報共有のしくみづくり	メーリングリスト、ホームページで情報を共有。尼崎21世紀の森ウェブマガジンを通しての情報共有。	森の会議、県・市、指定管理者	○	森の会議等の開催予定をウェブ上に公開することで、参加者の情報入手が容易になった。	
		13 森づくりの交流の場の開催	サポート大会の定期的開催、尼崎の森サマーフェスタの開催	-	○	イベントの開催等を通じて、部会間の交流を深めることができたが、部会の廃止に伴い終了。	
	各部会の活動の支援	14 学習会、研修会の開催	各部会で勉強会等を開催。森の会議では、「尼崎21世紀の森って何だ?もっと分かりやすく伝える方法」をテーマにワークショップを開催。	森の会議、県・市、指定管理者	△	勉強会やワークショップ等を通じて、活動の前提となる基礎知識を共有化。	活動を広げるために、参加者の参画の度合いに応じた、きめ細かな情報の提供・共有化が必要。
		15 協議会ステーショナリーグッズ等の作成	定規、クリアファイル、エコバッグなどのステーショナリーグッズ等を作成。	県・市、指定管理者、NPO法人尼崎21世紀の森	○	各種イベント参加者にグッズを提供することにより、広く森づくりをPRし、気運を盛り上げた。	
		16 グッズの物販と資金確保	NPO法人尼崎21世紀の森と連携して、Tシャツを販売。	-	×	試行的な取組として、Tシャツ販売を実施。	活動資金を継続的に確保するまでには至っていない。
C 尼崎21世紀の森構想を推進する新事業開発	森構想を盛り上げ、浸透させる新規事業開発	17 森構想を盛り上げ、浸透させる新規事業開発の企画・実施	工場立地法の緑地面積率等の規制緩和に際し、緩和する面積相当分を工場緑化などで確保するという、条例制定に当たっての配慮事項を市に提案。	森づくり協議会、県・市	×	提案を踏まえた条例制定が工場緑化等の推進に寄与。	この取組以外に、新規事業の展開には大きな進展がなく、新しい発想での事業の企画立案が必要。

4. 尼崎 21 世紀の森構想推進の方向性の検討に向けて

- 「尼崎 21 世紀の森づくり行動計画」に基づき、森構想のこれまでの取組状況を評価・総括すると、先導拠点地区の「尼崎の森中央緑地」や尼崎運河を中心に、基盤施設の整備が進むとともに、県民、企業・団体など多様な主体の参画のもと、生物多様性の森づくりや水質浄化活動、環境学習、県民交流などの面で着実に成果を上げている。
- その一方で、中央緑地や尼崎運河以外の森構想区域では、工場緑化等に一定の進展があったものの、その他には目立った取組がみられない。また、特に「既存産業の育成・高度化と新産業の創造に向けた取組」については、社会経済情勢の変化や活動主体の不明確さなどもあって、具体的な活動に結びついているものが少ない。
- このため、今後、森構想を推進していくためには、中央緑地や尼崎運河における取組を継続・発展させるとともに、これらの取組の成果を森構想区域全体へ広げていくことが必要である。また、近年の社会経済情勢やニーズに合った取組を新しい発想のもとで創造するなど、取組の再編を行うとともに、こうした取組を牽引する人材の育成や組織の充実を図る必要がある。
- そこで、来年度の協議会では、中間総括のとりまとめ結果を踏まえ、森構想を推進するため、行動計画の改訂（活動項目や活動内容の追加・削除・変更などの見直し）を行う。
- なお、「尼崎 21 世紀の森構想」は、『森と水と人が共生する環境創造のまち』を基本理念として、県民や企業等の参画と協働により、尼崎臨海地域の「環境改善」と「都市再生」の両方をめざす世界でも類を見ない構想であることを、協議会をはじめ県民、企業・団体、行政で共有し、今後も取組を進めるとともに、その成果を情報発信していく。

尼崎 21世紀の森構想の中間総括個表

目 次

(1) 環境の回復・創造、美しい風景の創出に向けた取組	1
取 組 A:先導整備地区における森づくり	2
活動項目 ア:森づくりの実践	2
1 尼崎の森中央緑地の森づくり(「つくる」「まもる」「つかう」)	2
2 (仮称)末広緑地(4,000 m ²)の森づくり(「つくる」「まもる」「つかう」) —参画と協働による緑地づくりの第一歩として—	3
3 丸島地区下水処理場(2,000 m ²)での暫定的な森づくり	4
4 丸島地区の森づくり(「つくる」「まもる」「つかう」)	5
5 フェニックス事業用地の森づくり(「つくる」「まもる」「つかう」)	6
取 組 B:みどり(森)の多面的機能を活用したまちづくりの実践	7
活動項目 イ:1,000ha における“森づくり戦略”の検討	7
6 行動計画推進のためのワークショップ等の開催	7
7 生物多様性保全の研究	8
8 森づくりにおけるアダプティブマネジメント(適応的管理)の手法の確立	9
活動項目 ウ:みどりのネットワーク(骨格)形成	10
9 のじぎく兵庫国体に向けた美しいまちづくり	10
10 河川・運河の緑化活動	11
11 街路樹の緑化活動	12
活動項目 エ 身近なみどりの保全・創出を通じた良好なまちなみ景観と地域コミュニティづくり	13
12 学校でのみどりづくり	13
13 民有地(工場・住宅地)のみどり豊かなまちづくり	14
14 遊休地や低・未利用地の暫定的利用の仕組みづくり	15
活動項目 オ:みどり(森)づくりを通じたまちの“らしさ”の形成 ~みどりで彩る！食べる！加工する！~	16
15 尼の“みどり文化”発掘・再生・発信	16
16 エコライフスタイルの実現	17
活動項目 カ:みどり(森)づくりを通じた、安全・安心のまちづくり	18
17 園芸福祉の実施	18
18 緑化による防災力アップのまちづくり	19
活動項目 キ:尼崎の水辺原風景復元	20
19 あの海でも一度泳ぎたい…生きものが住める川と海辺の復元	20
取 組 C:森づくりを支える循環型のしくみづくり	21
活動項目 ク:水、土壌、種子・苗の準備と活用 —“尼 21 森”産自然素材が循環する仕組みづくり—	21
20 森づくりのための水資源の循環利用	21
21 循環型の土壤づくり	22
22 循環型の苗・種子づくりへリ・ジェネラルへ	23
23 木質バイオマス資源利用の調査・研究・実施	24
取 組 D:森づくりの輪を広げる(森づくりに携わる人の輪の拡大や人材の育成、信頼される組織づくり)	25
活動項目 ケ:人材の育成・組織の育成(学習活動の立案・運営(活動対象:広く市民・学校などを対象に))	25
24 モデル地域の視察や勉強会、ワークショップの実施	25
25 苗づくり・土づくりの体験プログラムの実施	26
26 森づくりアドバイザーの養成	27
27 維持管理に携わるためのしくみづくりの検討	28
28 既存ボランティア団体との連携	29

29 水質、土壤、生物、植生などの調査・学習	30
30 小中高大学でのみどり学習の実施	31
31 コミュニティビジネスによる緑化資材の調達.....	32
活動項目 コ PR・イベント実施.....	33
32 森づくりに携わる人の輪の拡大.....	33
活動項目 サ 情報の蓄積・活用の仕組みづくり	34
33 森づくりを後生に伝えるアーカイブ(文書庫)の仕組みづくり	34
34 森づくりの効果を検証するための現況及び今後のデータ観測、収集	35
35 GISを使った情報図づくり	36
(2) 活力ある都市の再生に向けた取組み	37
取 組 A:人々の暮らしや活動を盛り込んだ地域の将来像づくり(まちを考える)	38
活動項目 ア:地域の状況や既存の計画の把握、歴史の学習など、情報の共有・蓄積.....	38
1 まちあるきによる地域の状況の把握	38
2 既存の計画や歴史の学習	39
3 情報の整理、蓄積(データベース化)	40
活動項目 イ:活き活きとした人々の暮らしや活動が展開できるようなまちの空間づくり ～工場を含めたまちの景観づくり(工場緑化、沿道景観形成、色彩計画など)の検討	41
4 工場緑化の推進に向けたしきみの検討	41
5 沿道景観づくりに向けたまちづくり	42
活動項目 イ:活き活きとした人々の暮らしや活動が展開できるようなまちの空間づくり ～水辺の再生・水質の改善に向けた検討	43
6 水辺を活かしたまちづくりに関する取組の検討	43
7 水質浄化・水循環に向けた検討	45
活動項目 ウ:環境配慮型の新しい暮らしや活動の提案・実践 ～環境にやさしい交通システム及びアクセスの検討	46
8 臨海地域へ行きやすくなるようなアクセスの検討	46
9 環境にやさしい新しい交通システム(LRT、低公害車等)の提案	47
活動項目 ウ:環境配慮型の新しい暮らしや活動の提案・実践 ～エコライフ・省エネルギー型ライフスタイルの検討	48
10 再生利用可能な環境にやさしい「森のエネルギー」の検討	48
11 地域内で発生する廃棄物のリサイクルに向けた検討	49
12 環境にやさしい行動の実践、普及、啓発	50
取 組 B:地元住民、市民、事業者、行政などの主体がまちづくりに参加できるプログラムづくり(まちをつくる)	51
活動項目 エ:地元住民、地縁組織、工場、企業、行政など、各種主体の連携の機会づくり	51
活動項目 オ:まちづくりを担う人材の発掘	51
13 地元住民、既存まちづくり団体との連携	51
14 道路・緑地における維持管理活動(アドプトプログラム)の検討	52
15 まちづくりアドバイザーの養成	53
活動項目 フ:地域内の環境を活用した生活文化の創出、発信	54
16 産業遺産を活用したまちづくりの検討	54
17 事業予定地や低・未利用地の一時利用によるソフト面でのぎわいづくり	55
活動項目 キ:先導整備地区のまちづくりへの参画・協働	56
18 尼崎の森中央緑地の利活用	56
19 まち交流拠点、産業の育成・支援拠点におけるまちづくり	57
20 丸島地区におけるまちづくりと利活用	58
21 フェニックス事業用地におけるまちづくりと利活用	59

(3) 既存産業の育成・高度化と新産業の創造に向けた取組	60
取 組 A:森と産業が共生するまちづくりの推進(地域や市民生活とのつながり)	61
活動項目 ア:産業遺産等の資源を活用したまちづくりの推進	61
1 産業遺産等について調べ、学ぶ	61
2 産業まちづくりの輪を広げるための仕組みをつくる	62
3 産業都市としてのアイデンティティを育む	63
活動項目 イ:工場内、敷地際などの緑化の検討	64
4 工場緑化について調べ、学ぶ	64
5 工場緑化推進の仕組みをつくる	65
活動項目 ウ:環境の回復・改善方策の検討(よりよい地域環境づくり)	66
6 地域環境について調べ、学ぶ	66
7 森を活かした「グリーン系産業」の仕組みをつくる	67
8 幅広い環境技術、環境要素に展開する	68
取 組 B:森を活かした産業活性化の仕掛けづくり	69
活動項目 エ:新たな環境・エネルギー産業の振興	69
9 環境・エネルギー産業について調べ、学ぶ	69
10 環境・エネルギー産業の振興の輪を広げるための仕組みをつくる	70
11 「尼崎EIP(エコ・インダストリアル・パーク)構想」の立案と実践	71
活動項目 オ:研究開発機能の充実・強化の推進	72
12:研究開発機能について調べ、学ぶ	72
13:「研究所ネットワーク構想」の立案と実践	73
活動項目 カ:産業支援の仕組みづくり(コーディネート)	74
14 企業アンケートの実施	74
15 産業活性化方策の検討、提案	75
16 地域PRと情報発信	76
(4) 気運の醸成に向けた取組	77
取 組 A:構想全体の機運醸成=「尼崎 21世紀の森づくり」のコミュニティ・アイデンティティ構築	78
活動項目 ア:CI(コミュニティ・アイデンティティ)計画の作成	78
1 CI(コミュニティ・アイデンティティ)計画作成	78
活動項目 イ:広報(PR)計画の作成・実施	79
2 ニュースレターの作成・配布	79
3 ホームページの作成・公開・更新	80
4 周知チラシ・ポスター・各種パンフレットの作成、配布	81
5 各種PRグッズの作成(外向けの盛り上げツール作成)	82
6 外むけ発信型イベントの実施	83
活動項目 ウ:市民、専門家、企業等、みんなが参画するしくみづくり	84
7 企業協賛のしくみづくり	84
8 人材・団体のデータバンク化	85
9 ボランティア登録制度	86
10 プラットフォーム(意見・情報の交換の場)の機能の確立と運営	87
取 組 B:構想の推進母体としての協議会の組織づくり	88
活動項目 エ:情報蓄積・共有のしくみづくり	88
11 データベースづくり	88
12 情報共有のしくみづくり	89
13 森づくりの交流の場の開催	90
14 学習会・研修会の開催	91

活動項目　才:各部会活動の支援	92
15 協議会ステーショナリーグッズ等の作成	92
16 グッズの物販と資金確保.....	93
<u>取 組 C:尼崎 21 世紀の森構想を推進する新事業開発.....</u>	<u>94</u>
活動項目　力:森構想を盛り上げ、浸透させる新規事業展開の企画.....	94
17 森構想を盛り上げ、浸透させる新規事業展開の企画・実施	94

(1) 環境の回復・創造、美しい風景の創出に向けた取組

取組 A：先導整備地区における森づくり

活動項目 ア：森づくりの実践

1 尼崎の森中央緑地の森づくり（「つくる」「まもる」「つかう」）

【計画概要】

尼崎 21世紀の森構想の中で「先導整備地区」として位置づけられている拠点地区の中央緑地について、基本計画段階から管理運営に至るまで、市民・各種団体等と行政が互いに協力しながら取組を進める。

【取組】

〔施設計画・整備〕

- 尼崎の森中央緑地基本計画策定 [H15. 3]
- 尼崎の森中央緑地実施設計策定 [H17. 3]
- 尼崎の森中央緑地植栽計画 [H18. 3]
- 第1工区 6.6ha 開園（スポーツの森）[H18. 5]
- 尼崎の森中央緑地第2工区実施設計修正（駐車場計画、パークセンター計画の変更）[H23. 3]
- 尼崎の森中央緑地第3工区実施設計修正（なぎさ整備計画変更）[H24. 3]
- 第2工区一部 5.6ha 開園（パークセンター、駐車場等）[H26. 5]
- 第2工区一部 2.5ha 開園（第2圃場、園路等）[H26. 10]
- 尼崎の森中央緑地整備計画策定＊ [H27. 2]
- 第2工区一部 2.4ha 開園（大芝生広場等）[H27. 10]

〔森づくり・利活用〕

- 「はじまりの森」への植樹開始 [H18. 5]
- アマフォレストの会と連携した苗木づくりを開始 [H19. 4]
- 市民、企業、団体と協力した森づくり活動開始
 - ・森づくり定例活動開始 [H20 年度～]
 - ・苗木の里親植樹会開始 [H21 年度～]
 - ・エリア設定型森づくり開始 [H23 年度～]
- 尼崎信用金庫との「尼崎 21世紀の森づくりの推進に関する協定」を締結 [H22. 7]
- 尼崎信用金庫による「あましん植樹祭」開始 [H23 年度～]
- 「森のピクニック」や「300人の昆虫大検査線」などのイベント開催 [H26 年度～]



* 尼崎の森中央緑地整備計画検討委員会を開催し、尼崎の森中央緑地整備計画を策定 [H26 年度]。「地域が育てる森」から「地域を育てる森」への方向性を定めた。

具体的には、「見通しのよい明るく開放的な空間の確保」を目的とした園地計画、環境学習やイベント等による森の利活用計画など、市民及び企業等の参画による森づくりである「地域が育てる森」から、人々が自然の恵みを享受する「地域を育てる森」へ向けての新たな展開を図るものとなっている。

【現在の活動主体】

県民、尼崎信用金庫・アマフォレストの会等の企業・団体、県・市、指定管理者

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 「はじまりの森」が生長するなど、森づくり活動が順調に進展。環境学習やイベント等による利活用も着実に進展。植樹実績は、平成 27 年 3 月末現在で 61,000 本に達した

【課題】

- なし

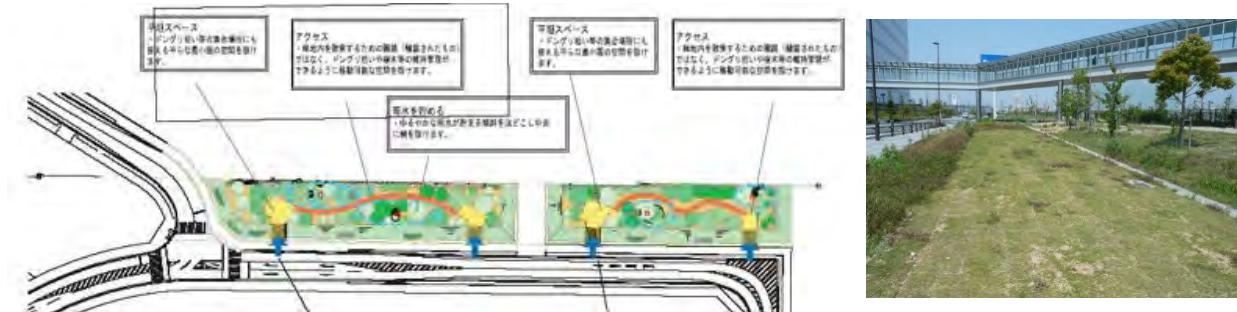
2 (仮称)末広緑地(4,000m²)の森づくり(「つくる」「まもる」「つかう」) – 参画と協働による緑地づくりの第一歩として –

【計画概要】

参画と協働による緑地づくりの第一歩として、企業庁用地 4,000 m²での緑地づくりを試行します。なお、この取組で得られた様々なノウハウは、平成 16 年度から段階的に整備が進められる中央緑地における取組に生かしていきます。

【取組】

- 松下 P D P 工場の緑地整備計画が示されたことを受け、末広緑地の樹種に関して提案
- (仮称)末広緑地(4,000 m²)の利用計画について、森部会が中心となってワークショップを開催。樹種のゾーニング等について検討



- パナソニック P D P の撤退に伴い、新事業主の C P D 尼崎流通センターへ提言書を提出
- C P D 尼崎流通センタープロジェクトに関する緑化の要望書を提出 (H26. 10) 同社より回答 (H27. 9)

【要望内容と回答】(一部抜粋)

建物周辺・敷地内外の広場や緑地の維持管理について

東側広場・西側広場および敷地周辺部の緑地帯について

(要望内容) 松下 PDP 工場設置の際に提案・要望した広場や緑地帯の環境水準の維持

(回答) →パナソニック PDP より承継した緑地を適切に維持管理する。

【現在の活動主体】

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- ワークショップで検討したゾーニング等に基づいて緑地が整備された。
- 中央緑地の森づくりの進展に伴い、試行的に整備された当緑地の役割は終了。(株)CPD により、適切に維持管理)。

【課題】

- なし

3 丸島地区下水処理場 (2,000 m²) での暫定的な森づくり

【計画概要】

丸島地区の下水処理場での増設予定地を暫定的に利用して、土づくり、苗づくり、水づくり等の実験場として活用します。なお、この取組で得られた成果を中央緑地などの森づくりに展開していきます。



【取組】

- 丸島地区における剪定枝の堆肥化等の試行
- 剪定枝の堆肥化等の経過観察



【現在の活動主体】

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 中央緑地での土づくり、苗づくりなど森づくりの基本的技術の確立に伴い、当地の実験場としての役割は終了。

【課題】

- なし

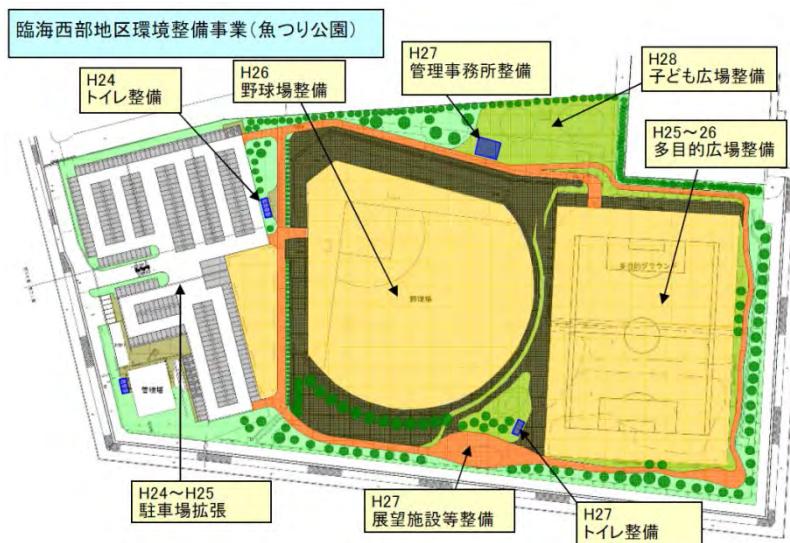
4 丸島地区の森づくり（「つくる」「まもる」「つかう」）

【計画概要】

拠点地区と同じく「先導整備地区」に指定されている丸島地区における取組を検討します。現段階では事業内容は未定となっていますが、森構想では「瀬戸内海の多島海風景の創出、スポーツ・レクリエーション機能を中心とした人の交流を促す拠点」として位置づけられており、事業の進捗状況に合わせて、市民・各種団体等と行政とが互いに協力しながら検討していきます。

【取組】

- 尼崎市において市所有地部分の整備計画を検討
- 関係機関の協議の状況を踏まえ、丸島地区の森づくりについて提案
- 未利用地の暫定的利活用について、県、市、関係機関において協議
- スポーツ・レクリエーション機能の充実を図るため、市が魚つり公園の整備を実施
- 指定管理者制度の導入により、地区内の尼崎魚つり公園を「パークマネジメント尼崎」、「ハウスビルシステム・尼漁開発グループ」が管理（期間：平成24年4月1日から平成29年3月31日）



【現在の活動主体】

市

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- スポーツ・レクリエーション機能を確保。

【課題】

- 野球場及び多目的広場等の施設が整備され、先導整備地区としてスポーツ・レクリエーション機能は確保された。
- 森構想で位置付けられた自然生態保全育成の森づくりは未実施。下水道施設の拡張計画に伴い、未実施となっている。

5 フェニックス事業用地の森づくり（「つくる」「まもる」「つかう」）

【計画概要】

拠点地区と同じく「先導整備地区」に指定されているフェニックス事業用地における取組を検討します。埋め立て完了は平成21年度を予定していますが、森構想では「産業の活性化と新たな産業の誘致促進、瀬戸内海の多島海風景を創出し、様々な生物が生息できる自然環境創造の拠点」として位置づけられており、事業の進捗状況に合わせて、市民・各種団体等と行政とが互いに協力しながら検討していきます。

【取組】

- 県・市等においてフェニックス早期土地利用基本計画策定
- 管理型区画の土地利用について、整備計画の具体化を踏まえ提案
- 早期土地利用のための段階的整備を実施
- 企業立地の円滑な推進に向けた情報収集・発信
- 尼崎市東海岸町沖地区のフェニックス事業用地のうち、埋め立てが完了した16ヘクタールを対象に、物流事業者などへの分譲公募手続開始
- のびのび公園におけるわかめの育成（徳島大学、尼海の会、大阪湾広域臨海センター）。
- わかめ等の海藻類を堆肥化し、のびのび公園において、これらを用いた菜の花を育成
- 管理型区画の一部において、暫定利用として（公財）ひょうご環境創造協会が太陽光発電施設を整備。



海藻を堆肥化し、菜の花の育成
のびのび公園



【現在の活動主体】

県・市、徳島大学、（公財）ひょうご環境創造協会等

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- 新たな産業の誘致を促進。大学との連携による水質浄化を中心とした市民活動も進展。
- 自然生態保全育成の森として位置付けられている管理型区画のうち、一部で太陽光発電施設による暫定利用を実施。

【課題】

- 自然生態保全育成の森づくりは、埋立中につき未実施。埋立地の利用計画との調整が必要。

取組 B：みどり(森)の多面的機能を活用したまちづくりの実践

活動項目 イ：1,000ha における“森づくり戦略”の検討

6 行動計画推進のためのワークショップ等の開催

【計画概要】

1,000ha 全体を視野に入れ、尼崎 21 世紀の森構想を実現するために、ワークショップ等で広く意見を出し合いながら、望ましいみどりのまち像（将来像）とそれを実現するための方策について検討します。また、尼崎 21 世紀の森構想では、先導整備地区から森づくりを抜けていくこととしていますが、1,000ha の臨海地域をみどり豊かなまちにしていくためには、みどりの現況を知る必要があります。「どこから活動を進めるのが最も効率がよいのか？」「伝播する可能性があるみどりづくりの箇所は？」「みどりのネットワークは？」「必要論からの緑化ポイントは？」などを検討し、活動戦略マップづくりを行います。

【取組】

- 企業庁が所有する埋立地内の（仮称）末広緑地（4,000 m²）の利用計画について、森部会が中心となってワークショップを開催し、樹種のゾーニング等について検討
- 尼崎 21 世紀の森コーディネーター会議の開催
- 中央緑地パークセンター／ワークショップ及びパークセンター周辺（現ひなの花野）整備ワークショップの開催
- 協議会・各部会・アマフォレストの会のメンバーが一堂に会し、活動に関する情報交換を実施



【現在の活動主体】

県・市等

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- 様々なワークショップを開催する中でまとめあげた意見を、中央緑地の整備内容に反映した。

【課題】

- 中央緑地から 1,000ha 全体に森づくりを広げるための方策の検討は十分ではない。

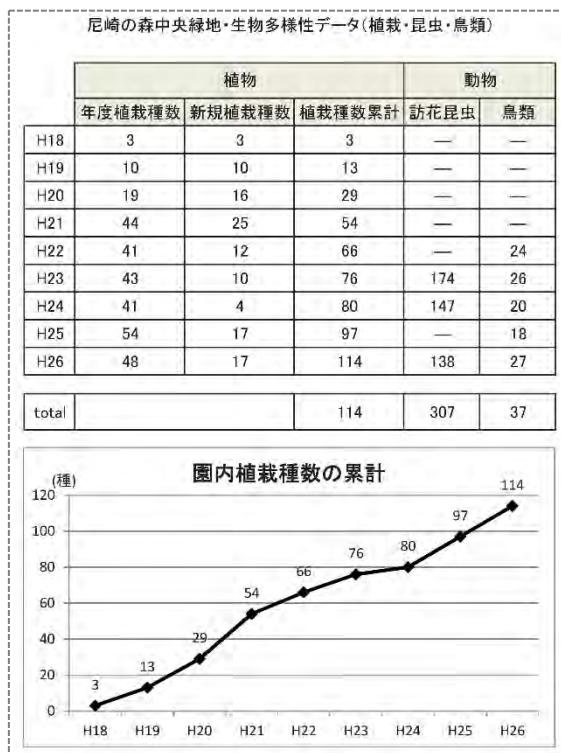
7 生物多様性保全の研究

【計画概要】

尼崎 21 世紀の森構想においては、「多様な生態系を育む森づくり」が大きな目標になっています。多様な生態系の確立を目指すためには、安定した生物の生息基盤を整える必要があります。そのためには、新たに創る「森」における多様性維持・向上とともに、新たに創った森が周囲の自然へマイナスの影響を及ぼさないよう、地域固有の遺伝子等に配慮する必要があります。そのため、生物多様性について勉強し、また、その成果を中央緑地等の整備に反映させていきます。

【取組】

- 地域の気候風土に根ざした原生植生や二次植生による緑地づくりをめざして、植栽の専門家による「尼崎の森 中央緑地植栽計画検討会」を設置し、指針となる植栽計画を策定（平成 17 年度）
- 尼崎の森中央緑地植栽計画推進会議を設置（平成 18 年度）
- 尼崎の森中央緑地緑化技術検討会を設置（平成 26 年度）
- 森づくり定期活動におけるミニ講座、アマフォレストの会主催の森づくり体験講座開催
- おなの花野講座（H25、26 年）、郷土種ガーデニング講座（H27）



【現在の活動主体】

学識者、アマフォレストの会、県、指定管理者

【取組状況】 ○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 尼崎の森中央緑地緑化技術検討会での検討結果を踏まえて、生物多様性の森づくりが進展。今後も適宜、専門家の意見を得て森づくりを進めていく。
- 検討会、講座等を通じて、尼崎の森中央緑地の森づくりのキーワードとなっている「生物多様性」という概念についての知識を深めもらうことができた。

【課題】

- なし

8 森づくりにおけるアダプティブマネジメント（適応的管理）の手法の確立

【計画概要】

自然は可変であり、予測できない事態も起こりうります。一律の管理手法により自然を常に同じ方法で管理しようとするのではなく、モニタリング等を行い、その結果をふまえ適応的に管理手法を取捨選択していく必要があります。尼崎 21世紀の森づくりにおいても、自然の可変性をふまえ、モニタリング結果を踏まえた森づくりの取組など、柔軟に進めていきます。そのためにはまずは実験を行い、その結果を収集し次の取組へと反映させていくしくみを作ります。

【取組】

- 「はじまりの森」の定点観測開始（H21年度～）
- 動植物モニタリング調査開始（H21年度～）



【現在の活動主体】

県

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 定点観測、モニタリング調査により情報を蓄積し、中央緑地の森づくりに反映。

【課題】

- なし

活動項目 ウ：みどりのネットワーク（骨格）形成

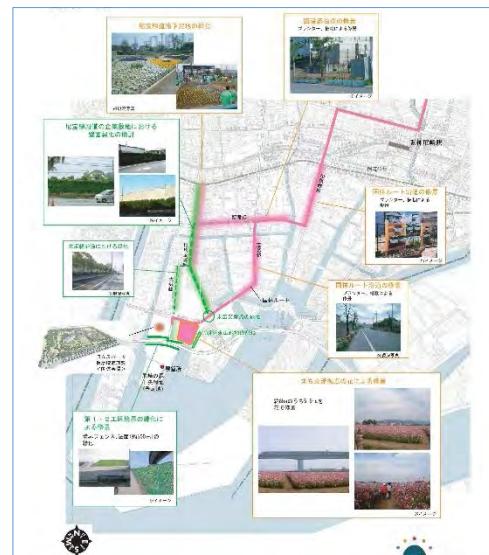
9 のじぎく兵庫国体に向けた美しいまちづくり

【計画概要】

平成 18 年度ののじぎく兵庫国体開催にあわせて、その輸送ルートとなる道路の沿道及び国体会場周辺において、暫定的な空地の利用などを取り入れながら森づくりの成果を示すための参画と協働による美化・緑化活動を行っていきます。また、アクセス道路となる沿道の景観について、地元の市民や企業等と一緒にになって気運を盛り上げながら、森づくりを先導的に進めていきます。

【取組】

- 拠点地区（まち交流拠点周辺）及び国体輸送ルートの修景計画を作成
- 国体開催時のアクセスルートとして検討されていた尼崎宝塚線の事業予定地において、尼崎花のまち委員会の協力を得て緑化・花づくりを実施。平成 18 年度の森びらきに向けて沿道景観を美化
- 国体終了後も花のまち委員会が維持管理



【現在の活動主体】

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- のじぎく国体開催に合わせて、花緑による美しいまちなみづくりの取組を実施。(尼崎花のまち委員会により維持管理)

【課題】

- なし

10 河川・運河の緑化活動

【計画概要】

河川や運河など地域を通じる線はみどりの骨格として、生きものの移動の道となったり、ヒートアイランド対策・CO₂吸収などにも役立っています。1,000ha 内や地域の周辺を流れる河川・運河の美化・緑化活動を行っていきます。

【取組】

- 第6回森づくりフォーラムにおいて、運河沿いの緑化について検討
- 21世紀の尼崎運河再生プロジェクト基本計画策定 [H20.5]
- 北堀運河等を中心に散策路の桜並木整備、シンボルツリー植樹等を実施
- 成良中学との連携による緑化



【現在の活動主体】

- 県、市、尼崎運河○○クラブ等

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 尼崎運河再生プロジェクトに基づき、北堀運河を中心として遊歩道、植樹等の整備が実施され、緑地環境が創出された。
- 北堀運河を中心とした緑地環境の創出、地域と連携した環境学習や緑化の推進。

【課題】

- なし

1.1 街路樹の緑化活動

【計画概要】

街路樹はまちの良好な景観を維持し、交通量の多い道路の空気の清浄化、ヒートアイランド現象の緩和などの効果を発揮します。尼崎 21 世紀の森づくりの取組においても、1,000ha 内を通る道路沿いの街路樹について、市民・各種団体等と行政とが互いに協力しながら、樹種の選定、緑化、維持管理などを行うしくみを作ります。

【取組】

- 尼宝線拡幅事業に関連して、協議会と管理者である県との間で、街路樹の樹種などについて意見交換を実施
- 対象地域内の道路景観等ガイドライン作成に係る提案を行なった。
- 尼崎宝塚線で街路樹を整備
- 花のまち委員会の協力を得て維持管理を実施



【現在の活動主体】

県・市

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- 県道尼崎宝塚線を中心に、街路事業に伴う街路樹植栽等の整備が実施された

【課題】

- 臨海部の緑被率向上に資する新たな街路樹整備の検討が必要。

活動項目 工 身近なみどりの保全・創出を通じた良好なまちなみ景観と地域コミュニティづくり

12 学校でのみどりづくり

【計画概要】

学校における緑化・ビオトープづくりは、子どもの環境学習につながり、また地域の人材とともに取組を行うことで、地域・NPO・専門家の連携のきっかけにもなります。尼崎21世紀の森づくりの取組においても、総合学習などと連携し、学校の生徒と一緒にみどりの調査やビオトープづくりを行うことで、子どもたちの自然に対する関心やまちへの愛着を高めます。

【取組】

- 尼崎南部グリーンワークスが若葉小学校において壁面緑化を指導
- アマフォレスの会が浦風小学校での環境体験学習や高校での出前講座を実施
- アマフォレストの会が尼崎市の小学3年生を対象に環境学習を実施
- 若葉小学校、成良中学校における緑化
- 尼崎市内の小学4年生の環境学習（かんきょうモデル都市あまがさき探検事業）の受け入れ（H26.27）



<尼崎の森中央緑地の利用者の声（抜粋）>

- 尼崎市立金楽寺小学校4年1組「尼崎の森のみな様へ」（短歌）
『ありがとう 自然をたくさん 見つけたよ また行きたいな 百年の森』
『九年の 命がやどる 尼の森 小さいけれど 世界に一つ』
- 尼崎市立武庫北小学校3年生「お礼の手紙」
 - ・わたしは、しょくぶつを育てるのはすきなので、なえをうえたりして、とてもおもしろかったです。わたしたちが、うえたなえが、100年後には、りっぱな木になるなんてステキです!!こんどは、家族といっしょに、尼崎の森に来たいです。べんきょうになりました。
 - ・私は尼崎に「森」がないのは、しっていたけど、今「森」を作っているのは、しらなかったです。森作りは楽しいです。木をうえたり、葉っぱであそんだり楽しいです。私も大きくなったり、尼崎中央緑地に行った時にきょうりよくしたいと今、思っています。

【現在の活動主体】

アマフォレストの会、県・市、指定管理者

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 尼崎の森中央緑地では、パークセンターの開設後、小学生に対する環境学習を利活用における主要事業として位置付けている。これを受け、中央緑地では、子供達が自然に対する関心等を深めることができるような環境学習プログラムを作成し、苗木づくり作業体験等を実施している。
- 中央緑地での受け入れにより、小学4年生を中心とした環境学習が大きく進展。（H26：42校、3,500人来園）

【課題】

- なし

13 民有地（工場・住宅地）のみどり豊かなまちづくり

【計画概要】

1,000ha をみどり豊かなまちにするためには、住宅地・工場地など民有地も対象に取組むことが必須です。1,000ha 内には工場が多くを占めており事業者の協力が必要です。行政の緑化活動と連携し、事業者と市民が協力して、みどり豊かなまちづくりを進めていきます。

【取組】

- 尼崎鉄工団地協同組合と連携して、工場のすき間緑化を実施。
- 新日鐵住金(株)、パナソニック P D P(㈱)、(株)クボタなど、森構想の趣旨に賛同する企業による工場敷地緑化の実施
- 企業活動と緑豊かな景観づくりを両立させるために、尼崎 21 世紀の森構想に沿った工場緑化の具体的な手法となる「尼崎 21 世紀の森型工場緑化」を提案
- 工場緑化を支援する制度の運用・拡充（県民まちなみ緑化事業、尼崎 21 世紀の森沿道緑化事業）



【現在の活動主体】

尼崎鉄工団地協同組合、新日鐵住金(株)等

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- 1000ha 内の大企業を中心に、比較的大きな規模での工場敷地内緑化が実施されるとともに、尼崎鉄工団地協同組合等が中心となり、すき間緑化等の手法により限られた空間での緑化も実施された。
- すき間緑化と大企業による工場敷地緑化が進展。公共用地の緑化とあわせて、臨海部の緑被率向上。(H9 : 4.0% → H24 : 6.1%)

【課題】

- 臨海部の緑被率が、近年は横ばい気味。森構想の目標値 30%に向か、さらなる取組が必要。

14 遊休地や低・未利用地の暫定的利用の仕組みづくり

【計画概要】

1,000ha 内には、工場の跡地等や低・未利用地などがありますが、これらは暫定緑地として整備することや、苗のほ場や資材置き場・水の保留地などとして他の緑地づくりに活用できる可能性があります。そのため、低・未利用地の暫定的活用のしくみづくりを検討します。

【取組】

- 尼崎の森中央緑地の事業予定用地を、苗等をはじめとする資材置き場として利用した実績はあるが、他には目立った取組みはない。

【現在の活動主体】

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- 尼崎の森中央緑地の事業予定用地を、苗等をはじめとする資材置き場として利用した。
- 中央緑地の整備過程ではあるが、低・未利用地の暫定的活用のモデルとして位置づけ。

【課題】

- 中央緑地の事業予定地以外では、1,000ha 内で緑づくりのための暫定的活用に目立った取組がない。

活動項目 オ：みどり(森)づくりを通じたまちの“らしさ”の形成～みどりで彩る！ 食べる！加工する！～

15 尼の“みどり文化”発掘・再生・発信

【計画概要】

みどりづくりを単なる植物としての一義的な“緑”づくりで終わらせるのではなく、尼いもなどの食文化や産業活動、まちづくりなどと連動させ、尼崎の文化としての“みどり”を発掘・再生し、それを全国発信することで、尼崎発の“みどり”ブランドを創造します。

【取組】

- 尼崎南部再生研究室との連携により、若本製作所による尼イモ栽培のためのプランターの製作
- 尼崎市を中心とした取組みである「尼いも復活プロジェクト」*への協力
- 尼崎南部再生研究室による尼イモ奉納祭の実施
- 園田女子大学「つなガール」による尼イモ栽培キットの提案
- 尼崎鉄工団地協同組合が、緑化への手助けとなる養蜂、はちみつ（尼みつ）の生産を実施

*江戸時代から昭和初期まで尼崎市の特産品だった「尼いも」を復活させようと、尼崎市が2005年度からはじめたプロジェクト



【現在の活動主体】

市、尼崎南部再生研究室、尼崎鉄工団地協同組合等

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 尼みつの生産、尼イモ奉納祭の開催等により、尼崎の文化としての“みどり”を発掘・再生して発信。

【課題】

- なし

16 エコライフスタイルの実現

【計画概要】

1,000ha 内で減農薬野菜を創ったり、炭焼きをしたり、木質バイオマスを利用するなど、昔の生活の良い点をもう一度振り返り、現代風にアレンジしながらエコライフスタイルの実現と日常生活への普及をめざします。

【取組】

- エコライフスタイル技術研究会での企画の検討
- エコライフスタイル技術研究会「準備セミナー」を開催(H22. 2)
- 尼崎の森中央緑地パークセンター内に、剪定木等を燃料に利用する薪ストーブを設置（平成 26 年度）
- 尼崎の森中央緑地整備計画の中で、“森と人との共生した日本の独特の歴史・文化の学びと継承”が提唱され、昔のエコライフスタイル実現の場及び学習の拠点として、茅葺き民家の移築復原、炭焼き小屋等の設置を計画(H27. 2)



【現在の活動主体】

県

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- エコスタイル技術の研究や剪定木等の燃料利用などを実施。
- 中央緑地で昔の里山の暮らしや生業を体験する茅葺き民家などの拠点整備計画が着実に進展。

【課題】

- 中央緑地以外では、1,000ha 内でエコライフスタイル実現に向けた目立った取組がない。
- 昔体験の場として、尼崎ゆかりの茅葺き民家の移築復原を計画。今後は、整備の推進と園内の森、茅葺き民家及び炭焼き小屋等を利用した昔のエコライフスタイル体験プログラムの作成が必要。

活動項目 力：みどり（森）づくりを通じた、安全・安心のまちづくり

17 園芸福祉の実施

【計画概要】

みどりや花は生活に密着したものであり、その機能は人と人との結びつけたり、人々の生き甲斐となるなど、多岐に及んでいます。誰でも手軽に扱え、効果の高いみどりや花という特性を活かし、縁あふれるまちづくりをめざす尼崎 21 世紀の森を舞台として、高齢者や身体に障害を持つ人々の心を癒したり、社会参画のきっかけづくりのため、地域団体等とも連携しながら園芸福祉の森をめざします。

【取組】

園芸福祉の森を目指しての具体的な取組はなし。

【現在の活動主体】

—

【取組状況】 ×：取組があまり進んでいない、または休止状態

【成果】

●特に進展なし。

【課題】

●尼崎の森中央緑地では、整備計画の中で、人々が自然の恵みを享受する「地域を育てる森」の実現を目指している。今後の利活用推進にあたっては、高齢者や身体に障害を持つ人々にも配慮した体験プログラムづくりの検討が必要。しかし、高齢者や身障者に配慮した中央緑地での体験プログラム等は検討できるが、その他に園芸福祉実現の見通しなし。

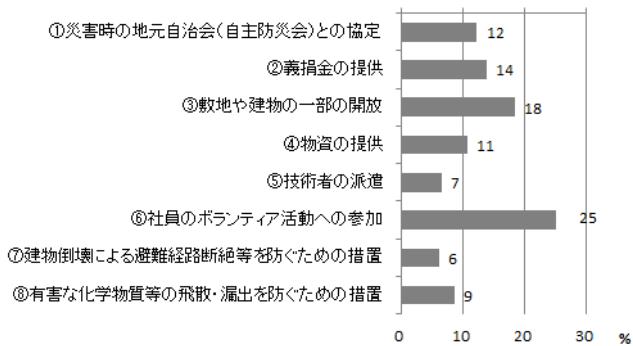
18 緑化による防災力アップのまちづくり

【計画概要】

街角、街路や、生け垣、公園などのみどりを増やすことにより、延焼を防止するなど、災害に強いまちづくりを目指します。

【取組】

- 新日鉄住金（株）、（株）クボタ、パナソニックPDP㈱など、防災の観点から埠を作らず沿道を緑化する取組を実施
- 県道尼崎宝塚線で、道路の拡幅に伴い沿道緑化を実施
- 北堀運河等の運河沿いに緑地帯を整備
- 大規模災害対応を想定した企業アンケートの実施
(アンケートは195の事業所から回答あり)



非常時の地域との協働のために取り組んでいること

【現在の活動主体】

県、新日鐵住金㈱等

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- 公共用地や工場敷地の緑化により、震災時の延焼やコンクリート埠の倒壊による災害の防止など、防災力向上に貢献。

【課題】

- 防災力向上のための緑化による新たな取組がない。

活動項目 キ：尼崎の水辺原風景復元

19 あの海でもう一度泳ぎたい…生きものが住める川と海辺の復元

【計画概要】

尼崎では、かつて、海で泳げたと言います。人が泳げるまでとは言わないものの、中央緑地の人工干潟の整備等とあわせて、水辺に水生植物が生育し、生きものが生息できる空間づくりを検討していきます。

【取組】

- 尼崎の森中央緑地基本計画の中で、人工磯と砂浜からなる海辺エリアが提案された〔H15.3〕
- 尼崎の森中央緑地第3工区実施設計修正の中で、土壤汚染物質の問題により、なぎさ整備のための陸域の湾状掘削を取りやめ、内陸部を草原と海岸性松林に修正した〔H24.3〕。
- 尼崎北堀運河に水質浄化施設を整備。水質浄化施設の一部として、葦や砂域からなる人工干潟を設置。



【現在の活動主体】

県、尼崎運河○○クラブ、NPO尼崎21世紀の森づくり等

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- 尼崎北堀運河の水質浄化施設の一部に人工干潟をモデル的に再現した。
- 運河周辺における市民の参画・協働による清掃活動が定着した。

【課題】

- 今後は、水質浄化施設での環境学習のなかで、干潟が持つ多様な生物を育む効果や砂や生きものによる水質浄化効果を伝えることにより、海辺環境の大切さを学習してもらうことが必要。

取 組 C：森づくりを支える循環型のしくみづくり

活動項目 ク：水、土壤、種子・苗の準備と活用 – “尼 21 森” 産自然素材が循環する仕組みづくりー

20 森づくりのための水資源の循環利用

【計画概要】

苗づくりを行っていくためには、生育のための水の確保が必要となります。雨水や処理水の活用など、循環的な取組も検討するとともに、周辺に立地する企業などの協力を依頼していく試みも検討します。

【取組】

- 尼崎の森中央緑地基本計画、基本設計等において雨水活用等を検討

【現在の活動主体】

県

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 中央緑地全体で雨水を一時的に貯留し、時間をかけて地下へ浸透させ水質浄化を図ることで環境再生に貢献。

【課題】

- 特になし

2.1 循環型の土壤づくり

【計画概要】

森づくりをするにあたり、剪定枝のリサイクルや浄水場の泥土の活用など、土壤づくりにおける循環のしくみについて検討します。

【取組】

- 土壌・汚泥に関する勉強会の実施
- 剪定枝のリサイクルに関する勉強会の開催
- 丸島地区における剪定枝の堆肥化等の試行実施
- フェニックス事業用地内の、のびのび公園における循環型の土壤づくり試行実験（海の中の貝殻などを陸上に取り上げ、枯草などと混ぜて堆肥にし、地元産の尼イモや菜の花を栽培）
- 成良中学校では、屋上庭園において、貝殻をつぶして作った土壤を用いて野菜づくりを実施。



【現在の活動主体】

徳島大学、成良中学校、大阪湾広域臨海環境整備センター、NPO法人、県・市等

【取組状況】 ○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 循環型の土壤づくりを試行的に実施。関係団体等と連携しながら、さらなる活用促進の可能性を探り活動を継続。

【課題】

- なし

22 循環型の苗・種子づくり～リ・ジェネラル～

【計画概要】

森づくりに必要な苗や種子を準備します。地域個体群（遺伝子）に配慮し、21世紀の森には、なるべく地域産の種子を用いるようにします。武庫川流域からの周辺の里山林および猪名川自然林などから種子・実生苗を採取し、研究機関や公的機関の空き地、学校（小中学校、高校、大学の敷地等）、住宅地、工場敷地などで、苗ホームステイを実施。2～3年育てた苗を森づくりの際に植樹します。樹木・花の苗・種子は、なるべく21世紀の森産のものを用います。

【取組】

- 尼崎の森中央緑地での市民・企業等の参画による地域産種子からの苗木づくり。
- 県民、企業・団体等の参画による苗木の里親制度の創設・継続



【現在の活動主体】

県民、尼崎信用金庫・アマフォレストの会等の企業・団体、指定管理者、県・市

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 尼崎の森中央緑地で地域産種子を用いた森づくりを実践し、地域産種子を用いた森づくりが順調に進展。

【課題】

- なし

23 木質バイオマス資源利用の調査・研究・実施

【計画概要】

尼崎21世紀の森の中央緑地等から産出される剪定木・間伐材などを利用し、木質バイオマス資源の有効活用法を調査・研究し、有効活用の実現をめざします。

【取組】

- 他の自然林を対象に、各種見学会・勉強会等を開催
- 森づくり定例活動において、はじまりの森の間伐活動を実施〔H26年度〕
- 尼崎の森中央緑地パークセンター内に、剪定木等を燃料に利用する薪ストーブを設置〔H26年度〕。



【現在の活動主体】

県、指定管理者、アマフォレストの会等

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- 尼崎の森中央緑地で間伐材の有効活用のモデルとして薪ストーブを設置。

【課題】

- 今後、森の生長に伴い、増加が見込まれる間伐材の発生増加に伴い、さらなる利活用方法の検討が必要。

取組 D：森づくりの輪を広げる（森づくりに携わる人の輪の拡大や人材の育成、信頼される組織づくり）

活動項目 ケ：人材の育成・組織の育成（学習活動の立案・運営（活動対象：広く市民・学校などを対象に））

24 モデル地域の視察や勉強会、ワークショップの実施

【計画概要】

各地で行われている森づくりに関する取組を参考にするため、モデルとなる地域の視察や、事例に関する勉強会を開催します。

【取組】

- 尼崎南部グリーンワークスと連携して、緑化にかかる事例等の見学会や、取り組みを発信するミニフォーラム等を開催
- 尼崎の森中央緑地植栽計画推進会議
- ふなの花野講座〔H25年度〕
- アマフォレストの会主催「森づくり体験講座」実施〔H27年度〕



【現在の活動主体】

県、指定管理者、アマフォレストの会等

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 視察、勉強会、講座の成果を中央緑地の生物多様性の森づくりに反映。

【課題】

- なし

25 苗づくり・土づくりの体験プログラムの実施

【計画概要】

実際に苗づくりや土づくりを体験できる活動を通して、森づくりへの気運を盛り上げ、及び必要な技術や経験を積んでいきます。

【取組】

- 尼崎の森中央緑地での「森づくり定例会」活動において、アマフォレストの会と連携して体験プログラム実施
- かんきょうモデル都市あまがさき探検事業（尼崎市）による小学4年生の環境学習等において体験プログラムを実施



【現在の活動主体】

県・市、指定管理者、アマフォレストの会等

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 中央緑地での森づくり定例活動や小学生を主に対象とした環境学習において、苗づくりや土づくりの体験プログラムを実践。

【課題】

- なし

26 森づくりアドバイザーの養成

【計画概要】

森づくりに関して一定の知識や技能を身に付けた人を森づくりアドバイザーとして認定する制度の創設を検討します。研修プログラムなどを通じて、森づくりの楽しみ方などを伝える人材の育成を図ります。

【取組】

- 尼崎の森中央緑地の森づくりに長期間関わってきたアマフォレストの会が中心となって、市民や企業を対象とした植樹会等において、植樹指導者として参加者への指導を実施した。
- 森づくりや環境学習の実施におけるボランティアの指導者を養成するため、サポーター養成講座を実施した。



【現在の活動主体】

アマフォレストの会、尼崎信用金庫、県・市、指定管理者等

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- サポーター養成講座の実施などの試みにより、一定の知識・技能を身につけてもらうことができた。

【課題】

- なし

27 維持管理に携わるためのしくみづくりの検討

【計画概要】

森づくりの重要な取組である維持管理について、継続的に維持管理に取組むことができるようなしくみを検討していきます。

【取組】

- 維持管理に係る勉強会の開催
- 尼崎の森中央緑地における森づくり定例活動、エリア設定型森づくり活動及び苗木の里親植樹会の実施
- 尼崎信用金庫と県が「尼崎 21 世紀の森づくりの推進に関する協定」を締結(平成 22 年度)



【現在の活動主体】

アマフォレストの会、尼崎信用金庫、県・市、指定管理者等

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 森づくり定例活動、エリア設定型森づくり活動等の導入により、県民、企業・団体が継続的に維持管理に参画。
- 維持管理の要素を含んだ森づくり定例活動を行なうことにより、より多くの県民が関わることのできる形を、また、エリア設定型森づくり等の導入により、個人だけでなく企業、団体などが維持管理に関わる形を提示できた。

【課題】

- なし

28 既存ボランティア団体との連携

【計画概要】

既にボランティアを中心として活動されている団体との連携した取組を検討していきます。

【取組】

- 市内の団体等との連携、相互交流を実施
- 地元各種団体との交流の第一歩として、平成16年から、大庄地区のお祭りに参加。環境ワゴン、森グッズ販売、バザー、チラシ等配布、映像紹介、ポスター・パネル展示等を実施
- 尼崎南部グリーンワークスが「尼崎市のまちかどチャーミング賞（都市美形成活動部門）」受賞
- 尼崎鉄工団地協同組合が「第1回あましんグリーンプレミアム環境活動部門賞」受賞
- 第26回みどりの愛護のつどいにおいて、アマフォレストの会の中央緑地での活動に対し、国土交通大臣から感謝状が贈呈された。



【現在の活動主体】

アマフォレストの会、尼崎南部グリーンワークス、県・市、指定管理者

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- 中央緑地におけるアマフォレストの会の取組など、市民団体と連携した森づくり活動が進展。

【課題】

- 市民団体の活動が継続できるよう、支援の仕組みづくりや、将来の担い手育成が必要。

29 水質、土壌、生物、植生などの調査・学習

【計画概要】

水質や土壌など、苗などを育てていくにあたって知っておくべき基礎的なデータの他、臨海地域を含めた植生（郷土種）などについての知識を調査、あるいは学習していき、具体的な活動の際に役立てていきます。

【取組】

- 尼崎の森中央緑地での「森づくり定例会」において、活動参加者に対し、苗づくりにかかる学習会を実施。
- 栽培実績の少ない植物等について、人と自然の博物館へ植物栽培研究を依頼。栽培に伴う土壌などの基礎的データの提供を受け、苗木育成に活用。



【現在の活動主体】

アマフォレストの会、人と自然の博物館、県、指定管理者

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 中央緑地での植栽対象主要樹種等について、苗木育成に必要な土壌等の基礎データを概ね収集できた。
- 導入を予定しているが、栽培方法等が確立していない植物については、「県立人と自然の博物館」と連携し、育成のための基礎データを調査予定

【課題】

- なし

30 小中高大学でのみどり学習の実施

【計画概要】

小中高校、大学などを対象に、自然とのふれあい学習の機会を設ける取組や、森づくりに必要な苗づくりを働きかけるなどして、環境や森づくりへの理解を深め将来森づくりを担う人材の育成を図ります。

【取組】

- 尼崎南部グリーンワークスが若葉小学校において壁面緑化の指導を実施
- アマフォレストの会による浦風小学校での環境体験学習、高校での出前講座の実施
- 小学3年生を対象とした環境体験学習プログラム実施（アマフォレストの会主催）
- かんきょうモデル都市あまがさき探検事業（尼崎市）による小学4年生の環境学習
- 中学、高校生を対象とした環境学習プログラムの実施（アマフォレストの会主催）



【現在の活動主体】

アマフォレストの会、県・市、指定管理者

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 森づくりの将来の担い手を育成するために、子供向け環境学習プログラムの内容を充実した。
- 環境学習（みどり学習）の実施校が増加。対象も小学生から中学、高校生に広がりを見せている。

【課題】

- なし

3.1 コミュニティビジネスによる緑化資材の調達

【計画概要】

コミュニティビジネスの手法を導入し、花苗や土など緑化資材や組織運営のための費用を調達するしくみをつくります。

【取組】

- コミュニティビジネスの手法を導入した取組はなし。

【現在の活動主体】

【取組状況】 ×：取組があまり進んでいない、または休止状態

【成果】

- 特に進展なし。

【課題】

- コミュニティビジネスの手法導入の見通しなし。

活動項目 コ PR・イベント実施

3.2 森づくりに携わる人の輪の拡大

【計画概要】

積み重ねてきた活動の成果を、内外に広くPRし、さらに森づくりに関わっていく人の輪を拡大していきます。

【取組】

- ニュースレターの発行
- 市民版ホームページの設置
- フリーマガジン Aa の発行
- 尼崎 21 世紀の森づくりフォーラム開催
- サマーフェスタの開催
- 森の会議、森のピクニックの開催
- ウェブサイト(尼崎市 21 世紀の森ウェブマガジン)開設、「森のしんぶん」発行



【現在の活動主体】

県・市、指定管理者、NPO 法人尼崎 21 世紀の森等

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- 各種媒体を通じての積極的な活動内容 PR やイベントの開催により、森づくりに関わる人の輪を広げることができた。

【課題】

- 将来の森づくりの担い手を育成するために、さらなる PR やイベント開催等が必要。

活動項目 サ 情報の蓄積・活用の仕組みづくり

3.3 森づくりを後生に伝えるアーカイブ（文書庫）の仕組みづくり

【計画概要】

森づくりについて、過去の資料や現在の活動の様子を記録し、後生に伝えるためのしくみをつくります。

【取組】

- ホームページにより、過去の資料や活動状況を紹介

- ウェブサイト（尼崎 21世紀の森づくりウェブマガジン）開設

【現在の活動主体】

- 県、市、指定管理者

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 尼崎 21世紀の森づくりに係る各種資料や活動内容をHP等で紹介するとともに、アクセス可能な情報として蓄積。

【課題】

- なし

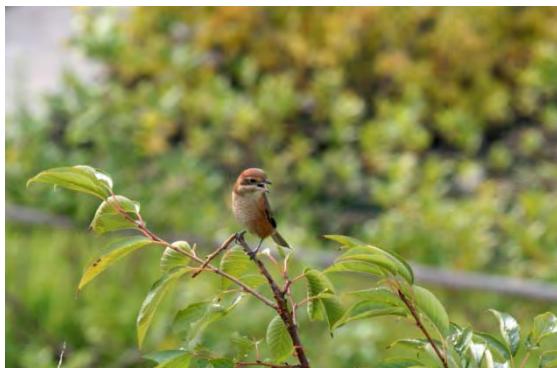
3.4 森づくりの効果を検証するための現況及び今後のデータ観測、収集

【計画概要】

森づくりが5年、10年と進んで行った時、それまでの森づくりの取組の効果が一体どれほどであったのか、を検証するため、現在の臨海地域の状況を示すデータを定期的に観測、収集する取組を進めていきます。

【取組】

- 尼崎の森中央緑地では、森づくりの効果を把握するため、森の生長や動植物の種類、量などを定期的に調査している。



【現在の活動主体】

- 県

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 中央緑地でモニタリングによる情報蓄積を実施。

【課題】

- なし

35 GISを使った情報図づくり

【計画概要】

GIS（地理情報システム）を活用し、植生図や希少種生息地点、種子マップなど情報を整理します。

【取組】

- 尼崎の森中央緑地では、苗木植栽図としてGISを活用し、整理を行っている。

【成果・課題等】

- 尼崎の森中央緑地では、苗木植栽図としてGISを活用の上整理を行っており、今後もこれを継続していく。

【現在の活動主体】

- 県

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 尼崎の森中央緑地では、苗木植栽図としてGISを活用の上整理を行った。

【課題】

- なし

（2）活力ある都市の再生に向けた取組

取 組 A: 人々の暮らしや活動を盛り込んだ地域の将来像づくり（まちを考える）

活動項目 ア：地域の状況や既存の計画の把握、歴史の学習など、情報の共有・蓄積

1 まちあるきによる地域の状況の把握

【計画概要】

臨海地域におけるまちづくりを進めるにあたって、まず「地域をよく知る」ためのまちあるきからスタートします。様々なテーマで臨海地域を見て歩きながら、まちづくりを考えていく上で基礎的な情報を集めていきます。

【取組】

- まちあるきの実施（武庫川町、丸島地区、夜の臨海地域、築地地区など）
- フォーラム（運河わいわいサミット）で、まちあるきとワークショップを実施
- あまがさき運河ウォークラリー開催（あまがさき運河祭実行委員会主催）
- マップの作成



- 森の会議のプログラムとして、まちあるきを兼ねた講座を開催（工場エリアの写真撮影、植物観察など）
- 森の会議への参加者が、尼崎21世紀の森ウェブマガジンにまちの情報を投稿



【現在の活動主体】

- 森の会議、尼崎キャラナルガイドの会、県・市

【取組状況】 ○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- まちあるき等で得られた情報をもとに、工場マップなどの作成やウェブサイト（尼崎21世紀の森ウェブマガジン）を通じて、臨海地域の魅力を発信。

【課題】

- なし

2 既存の計画や歴史の学習

【計画概要】

かつて尼崎がどんな場所で、どのような歴史を歩んできたのか、どのような計画が策定されてきたのか。また、その中から学び取る点は何か。地元の方々などにお話をうかがうなどの取組から、臨海地域の将来の姿を考えるまでの参考についていきます。

【取組】

- 産業遺産に関する勉強会の実施
- まちあるきの実施（武庫川町、丸島地区、夜の臨海地域、築地地区など）
- 尼崎南部グリーンワークスがミニフォーラムを開催（「尼崎の原風景とこれからの都市緑化」）
- 大庄社協の子供会に呼びかけ、子供たちが森の「記者」となり、写真を撮ったり、人に話を聞いたりした結果をとりまとめた「子どもまちあるきマップ」をまちあるきマップに反映
- 森の会議～うちらの地元の森づくり、大庄の100年これまでとこれから～を開催（協力：尼崎市文化財収蔵庫）



【現在の活動主体】

- 森の会議、県・市

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- まちあるきの際に聞き取った地元の方のお話、市学芸員による尼崎今昔物語など、臨海地域の将来像を考える上で貴重な情報を得ることができた。

【課題】

- なし

3 情報の整理、蓄積（データベース化）

【計画概要】

まちあるきの成果や勉強の成果、その他得られた情報を整理、蓄積し、今後のまちづくりの検討に活用できるように、データベース化を検討します。

【取組】

- まちあるきの成果（コース、写真）をデータベースに蓄積
- グリーンマップシステムを活用したマップづくりを実施
- 工場マップを作成



【現在の活動主体】

- 県・市

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- まちあるきの結果得られた情報をベースにしたマップを作成し、地域の魅力を発信。

【課題】

- なし

活動項目 イ：活き活きとした人々の暮らしや活動が展開できるようなまちの空間づくり～工場を含めたまちの景観づくり（工場緑化、沿道景観形成、色彩計画など）の検討

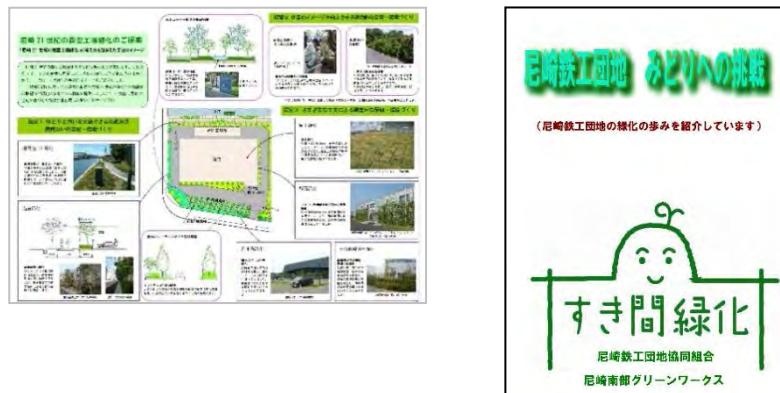
4 工場緑化の推進に向けたしくみの検討

【計画概要】

尼崎 21 世紀の森づくりにおいて、立地する工場の緑化推進は不可欠です。緑化支援を行う取組の事例を集めながら、工場・企業が緑化に取組みやすい制度等の検討を行っていきます。

【取組】

- 尼崎鉄工団地協同組合と連携して、工場のすき間緑化を実施
- 工場立地法の「飛び緑地」及び企業立地促進法の「緑地面積の準則緩和」に関する勉強会を実施
- 尼崎 21 世紀の森型工場緑化を提案
- 県において尼崎 21 世紀の森緑化賞を創設し、住友金属工業㈱を表彰
- 県民まちなみ緑化事業及び尼崎 21 世紀の森沿道緑化事業による支援を実施



【現在の活動主体】

- 県・市

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- 企業活動と緑豊かな景観づくりを両立させるために、尼崎 21 世紀の森構想に沿った工場緑化の具体的な手法となる「尼崎 21 世紀の森型工場緑化」を提案した。
- 工場緑化の具体的手法の提案や支援制度の運用・拡充等により、工場緑化が進展し、臨海部の緑被率向上 (H9 : 4.0% → H24 : 6.1%)。

【課題】

- 臨海部の緑被率が、近年は横ばい気味。森構想の目標値 30%に向か、新たな仕組みの検討が必要。

5 沿道景観づくりに向けたまちづくり

【計画概要】

森づくりの重要な取組として、沿道の緑化・美化・花づくりの他、広告物・サイン等のストリートファーニチャーなど、沿道景観を構成するものも含めた一体的な景観づくりの取組を行っていきます。当面は平成18年の国体開催にあわせて、拠点地区及びその周辺の道路整備スケジュールも勘案しながら、その沿道や国体輸送ルートなどの緑化・美化・花づくりを中心としたまちづくりを進めていきます。

【取組】

- 拠点地区（まち交流拠点周辺）及び国体輸送ルートの修景計画を作成
- 国体開催時のアクセスルートとして検討されていた尼崎宝塚線の事業予定地において、尼崎花のまち委員会等の協力を得て緑化・花づくりを実施



【現在の活動主体】

—

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 地域団体等の協力を得て、国体開催に合わせた沿道景観づくりを実施することができた。
- のじぎく国体開催に合わせて、花緑による美しいまちなみづくり、沿道景観づくりを実施。

【課題】

- なし

活動項目 イ：活き活きとした人々の暮らしや活動が展開できるようなまちの空間づくり～水辺の再生・水質の改善に向けた検討

6 水辺を活かしたまちづくりに関する取組の検討

【計画概要】

親水空間を含めた中央緑地の整備完了が平成27年度を予定していることから、まずは、水辺を活用したまちづくりの事例などを集めて勉強することから始めます。また、運河、海などの水辺を活用したアクセス方法の検討、イベントの開催などを通して、尼崎の水辺の価値を再認識していくことを当面の目標とします。

【取組】

- うんばく～尼崎運河博覧会～の開催
- 森づくりフォーラム「運河わいわいサミット」でワークショップを実施
- 21世紀の尼崎運河再生プロジェクト基本計画を策定（H20.5）



- 臨海地域の運河の良さを楽しみながら再発見するイベント（ビアガーデン@あい橋）を、尼崎南部再生研究室、NPO法人尼崎21世紀の森と連携して開催
- 21世紀の尼崎運河再生協議会において、運河の具体的な活用方策定めた基本計画を策定（県）
- 整備された水質浄化施設及び北堀キャナルベースを活用してうんばくを開催（尼崎運河博覧会実行委員会）
- オープンキャナルデイ、オープンキャナルフェスティバルを開催（尼崎運河○○クラブ）
- パドルボード体験や水路清掃活動の実施（Amagasaki Canal SUP）





【現在の活動主体】

- NPO 法人尼崎 21 世紀の森、尼崎南部再生研究室、尼崎運河○○クラブ、徳島大学、県・市

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 運河の再生・水質の改善に向け、大学や市民団体等と連携して、水質浄化活動やイベントを実施。運河の水質浄化や再生が進展。

【課題】

- なし

7 水質浄化・水循環に向けた検討

【計画概要】

勉強会の開催やヒアリングなどを通して理解を深めるとともに、身近な実験から循環の方法を検討していきます。将来的には、水質浄化に向けて取り組んでいるエメックスセンターなど、既存の研究機関の成果の活用、大学などの研究機関との連携を検討していきます。

【取組】

- NPO 法人尼崎 21 世紀の森が主催する水質改善をテーマにした講演会などに参画
- NPO 法人尼崎 21 世紀の森が、全国水環境一斉調査に参加
- 県において尼崎運河の水環境の改善の改善を図るための実証実験を実施
- 「尼崎運河の水を調べよう！」を実施し、地元子供会と連携した運河の水質の定点観測調査の実施
- 北堀運河に水質浄化施設とキャナルベースを県が整備
- 水質浄化施設及びキャナルベースを活用しての環境体験学習の受入れ
- オープンキャナルデイの実施（尼崎運河〇〇クラブ）
- 尼崎運河における水環境改善等の推進についての連携協力に関する協定の締結（阪神南県民局、徳島大学、尼崎市）



【現在の活動主体】

- 徳島大学、尼崎運河〇〇クラブ、県・市

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 勉強会への参加、継続的な実証実験を通じて水質浄化に関する理解を深めるとともに、協定の締結等により研究機関の連携体制も強化した。

【課題】

- なし

活動項目 ウ：環境配慮型の新しい暮らしや活動の提案・実践～環境にやさしい交通システム及びアクセスの検討

8 臨海地域へ行きやすくなるようなアクセスの検討

【計画概要】

臨海地域へのアクセス面でのバリアを解消していくよう、当面は平成18年の国体開催に向けた道路整備などの事業にあわせて、自転車などを中心とした尼崎21世紀の森づくりにおいて望ましいアクセスのあり方を検討していきます。

【取組】

- 阪神出屋敷駅と尼崎の中央緑地（スポーツの森）間にバスが運行中
- 道路・運河など多様な既存ストックを活用し、寺町や尼ロックなどを結ぶことにより、尼崎の森中央緑地へ自転車でアクセスする利用者が環境創生の取組を実感できる自転車道として「尼っこリンリン・ロード」を整備
- 自転車道の各所に各拠点までの距離等を表示するサインを整備
- 県がバス事業者に対して、事業費の一部を補助
- 尼っこリンリンロードにおける推奨ルートの設定
- 自転車ネットワーク整備方針策定（尼崎市）



【現在の活動主体】

- 県・市

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- 「尼っこリンリン・ロード」の整備など、臨海地域へのアクセスとしてサイクリング道路は整備された。

【課題】

- バスの運行本数は少なく、臨海地域へのアクセス向上のために、さらなる取組が必要。

9 環境にやさしい新しい交通システム（LRT、低公害車等）の提案

【計画概要】

環境にやさしいモビリティをどのように実現していくのか、は森づくりの大きな課題となっています。臨海地域は公共交通機関が十分整っておらず、自動車による輸送が主となっていますが、環境にやさしい21世紀型の交通体系のあり方について提案していきます。

【取組】

- 交通による環境負荷を低減させるとともに誰もが来訪しやすい交通基盤の整備を促進するため、尼崎臨海地域において進めるべき短期的、中長期的な交通の取組、及びその取組の実施による効果をまとめたビジョンを作成



【現在の活動主体】

- 県・市、NPO法人尼崎21世紀の森

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- 公共交通機関として路線バスの運行を確保。

【課題】

- 環境にやさしい交通システム（LRT、低公害車等）の実現には至っていない。

活動項目 ウ：環境配慮型の新しい暮らしや活動の提案・実践～エコライフ・省エネルギー型ライフスタイルの検討**10 再生利用可能な環境にやさしい「森のエネルギー」の検討****【計画概要】**

環境共生型都市のモデルとして、循環型のエネルギー利用を検討していきます。主として行政、企業の各主体による連携を軸にしながら、技術的な開発を促進していくとともに、臨海地域及びその周辺からも協力が得られるようなくみづくりを検討していきます。

【取組】

- 尼崎の森中央緑地（パークセンター・作業棟）等に太陽光発電施設を設置

【現在の活動主体】

- 県、（公財）ひょうご環境創造協会等

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある**【成果】**

- 尼崎の森中央緑地をはじめ、森構想エリア内で太陽光発電施設の設置が進展。

【課題】

- 太陽光発電以外の再生可能エネルギーの利用については、大きな進展なし。

11 地域内で発生する廃棄物のリサイクルに向けた検討

【計画概要】

臨海地域内外で発生する、再利用可能な資源、廃棄物のリサイクルに向けた検討を行います。

【取組】

- 剪定枝のリサイクルに関する勉強会の開催
- 丸島地区における剪定枝の堆肥化等の試行実施
- フェニックス事業用地内の、のびのび公園における循環型の土壤づくり試行実験
- 海の中の貝殻などを陸上に取り上げ、枯草などと混せて堆肥にし、地元産の尼イモや菜の花を育てた。
- 成良中学校では、屋上庭園において、貝殻をつぶして作った土壤を用いて野菜づくりを行っている。
- 尼崎の森中央緑地で、森づくりに伴う剪定枝、間伐材等の発生材を利用する薪ストーブを設置



【現在の活動主体】

- 徳島大学、成良中学校、大阪湾広域臨海環境整備センター、NPO 法人、県・市等

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 臨海地域内で発生する、再利用可能な資源、廃棄物のリサイクルに成果をあげることができた。

【課題】

- なし

12 環境にやさしい行動の実践、普及、啓発

【計画概要】

環境にやさしい行動ができるところから実践していきます。既に他の地域ではこうした取組が行われていますが、尼崎21世紀の森のみならず、広域的に拡がっていくような、人と自然、文化にやさしい取組を研究、開発していきます。

【取組】

- 大阪大学大学院工学研究科サスティナビリティ・デザイン・オンライン研究センターと連携して、あまがさきECOキッズセミナーを開催
- 低炭素社会づくりにつながる技術を研究し、尼崎21世紀の森型エコライフスタイル、エコビジネスを創造し情報発信することを目的に、「エコライフスタイル技術研究会」の設立に向けた検討開始
- エコライフスタイル技術研究会準備セミナー開催
- 地域を取り巻く環境問題とその中の環境にやさしいまちづくりの可能性について勉強する機会を設けた。

【現在の活動主体】

- 県・市、NPO法人尼崎21世紀の森

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 将来を担う子供たちを対象に、学術機関と連携して環境をテーマとしたセミナーを開催。子供たちに楽しみながら遊び、環境問題を身近に感じてもらう機会を確保した。

【課題】

- なし

取組 B：地元住民、市民、事業者、行政などの主体がまちづくりに参加できるプログラムづくり（まちをつくる）

活動項目 工：地元住民、地縁組織、工場、企業、行政など、各種主体の連携の機会づくり

活動項目 オ：まちづくりを担う人材の発掘

13 地元住民、既存まちづくり団体との連携

【計画概要】

まちづくりの観点から、地元の人々や事業者に対しての普及、啓発に取組み、既に南部地域再生をテーマとして活動しているまちづくり団体、その他尼崎の地元団体と連携して、まちづくりに取組むための方法を検討します。

【取組】

- 地元企業・団体・学校等と連携し、うんばく～尼崎運河博覧会～、運河クルージング、オープンキャナルフェスティバル等を開催。
- キャナルガイドの会による運河での活動実施
- 地元住民や団体の交流の場となる森の会議を尼崎の森中央緑地で開催
- Amagasaki Canal SUP によるパドルボード体験や清掃活動の実施



【現在の活動主体】

- NPO 法人尼崎 21 世紀の森、尼崎南部再生研究室、尼崎運河〇〇クラブ、「尼崎キャナルガーデン」の会、徳島大学、県・市、指定管理者、森の会議

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 中央緑地の森づくりと運河の再生に関する取組を通じて、関係者の連携が進展。

【課題】

- なし

14 道路・緑地における維持管理活動（アドプトプログラム）の検討

【計画概要】

既に臨海地域内にある緑地（主として運河沿いの緑地、街路樹など）を対象として、その維持管理に協議会として関わっていくための取組を始めます。

【取組】

- 第6回森づくりフォーラムで運河沿いの緑化について検討
- 運河域でのアドプトシステムの採用を検討

【現在の活動主体】

—

【取組状況】 ×：取組があまり進んでいない、または休止状態

【成果】

- 大きな進展なし。

【課題】

- 緑地の維持管理に協議会として関わるには至っていない。

15 まちづくりアドバイザーの養成

【計画概要】

勉強した成果をまちづくりに活かしていくための具体的な方法として、まちあるきや勉強の成果を基にして、まちづくりに対して意見を述べるなどの「まちづくりアドバイザー」の養成を目指します。

【取組】

- 尼崎市南部で行われている市民・企業による緑化など様々な環境共生のまちづくりの取り組みを学ぶ尼崎 21世紀の森まちあるきを実施
- 森の会議にて、まちあるきを兼ねた講座を開催（工場エリアの写真撮影会・植物講座）



【現在の活動主体】

- 市、徳島大学、尼崎キャナルガイドの会

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- まちあるきを行ない、各種の情報を蓄積することはできた。
- 養成講座の修了者で結成された尼崎キャナルガイドの会が、臨海部の歴史や地理を発信する担い手となる。

【課題】

- なし

活動項目 力：地域内の環境を活用した生活文化の創出、発信

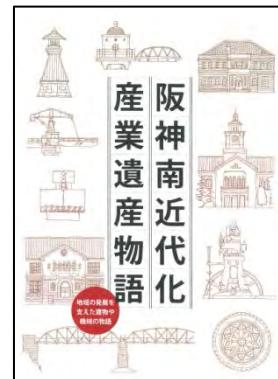
16 産業遺産を活用したまちづくりの検討

【計画概要】

尼崎臨海地域はかつて阪神工業地帯の一翼を担い、素材型産業など重化学工業が発展してきたという歴史を持ちます。そのものづくりの技術や工業都市としての歴史、また公害の歴史についても後世に伝えていかなくてはなりません。そこで、産業遺産を活用したまちづくりの第一歩として、産業遺産について知ってもらい、その価値を共有することを目的に活動を始めています。

【取組】

- 産業遺産である尼崎運河のPRのため、うんばく～尼崎運河博覧会～、運河クルージングを実施
- パンフレット「阪神南近代化産業遺産物語」により、運河網をはじめとする産業遺産を紹介



【現在の活動主体】

- NPO 法人尼崎 21 世紀の森、尼崎南部再生研究室、県・市

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- うんばく～尼崎運河博覧会～等の開催により、地域の貴重な産業遺産である尼崎運河の魅力を発信することができた。

【課題】

- なし

17 事業予定地や低・未利用地の一時利用によるソフト面でのにぎわいづくり

【計画概要】

中央緑地の事業予定地などを一時的に利用して、にぎわい創出に向けたイベントの開催などを企画、実行していきます。また、臨海地域内の未利用地、駐車場や資材置き場なども活用して、臨海地域でのまちづくりをアピールするとともに、様々な人々がまちづくりに関わっていくためのきっかけをつくります。また、臨海部の生活文化の創造や芸術家等の交流をめざし、陶芸、造形、音楽などのアートの活動やイベントを取り入れながら、尼崎21世紀の森における文化面からの発信を行っていきます。

【取組】

- 森びらきオープニングイベントの開催
- 尼崎の森中央緑地での「あましん植樹祭」の実施



【現在の活動主体】

- 県・市、指定管理者、尼崎信用金庫等

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- 尼崎の森中央緑地では、各種イベントを通じて、多くの参加者に尼崎21世紀の森づくりをPRすることができた。

【課題】

- 中央緑地以外の臨海地域では、低・未利用地を活用した取組を実施するには至っていない。
- 尼崎の森中央緑地では、芸術、造形など文化面からのアプローチが十分とは言えなかった。

活動項目 キ：先導整備地区のまちづくりへの参画・協働

18 尼崎の森中央緑地の利活用

【計画概要】

尼崎21世紀の森構想の中で「先導整備地区」として位置づけられている拠点地区の中央緑地について、スポーツや芸術、レクリエーションなど、様々な活動やイベント等の取組を進め、利活用を図っていきます。また、PFI手法で民間事業者により整備・運営されるスポーツ健康増進施設において、交流空間（のじぎく広場、回遊廊、森のギャラリー等）などを活用した森に関するプログラム、イベント等を企画・提案していきます。

【取組】

- 尼崎スポーツの森でサマーフェスタ開催（尼崎21世紀の森づくり協議会・NPO法人尼崎21世紀の森）
- あまがさき健康の森㈱が尼崎スポーツの森を運営
- 尼崎スポーツの森であまふえす開催（あまふえす実行委員会）
- 尼崎スポーツの森でダンスイベント（Jack in the BOX）開催（あまがさき健康の森株式会社）
- 中央緑地で苗木の里親植樹会実施
- 中央緑地で森のピクニック開催（県、森の会議）
- 中央緑地で300人の昆虫大検査線開催（県、県園芸・公園協会）
- 中央緑地でガーデニングコンテストを開催（県、県園芸・公園協会）



【現在の活動主体】

- 森の会議、アマフォレストの会、県・市、指定管理者等

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 多様な主体の参画を得て、数多くのイベントを開催することにより、尼崎の森中央緑地の利活用を促進することができた。

【課題】

- なし

19 まち交流拠点、産業の育成・支援拠点におけるまちづくり

【計画概要】

尼崎 21世紀の森構想の中で「先導整備地区」として位置づけられている拠点地区のまち交流拠点、産業の育成・支援拠点は、先行的に整備される中央緑地と合わせて重要な場所であることから、市民等と事業者とが互いに協力しながらどのようなまちづくりをしていくのかを検討していきます。

【取組】

- 先導整備地区の交流機能検討のためのワークショップを実施。交流機能について検討
- まち交流拠点は産業・まち交流拠点へと土地利用の変更がなされ、PDP工場が立地
- 産業の育成・支援拠点については分譲済

【現在の活動主体】

—

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 産業の育成・支援拠点については分譲済。
- 事業者と協力して、産業育成や工場緑化等を行い、まちづくりを推進。

【課題】

- なし

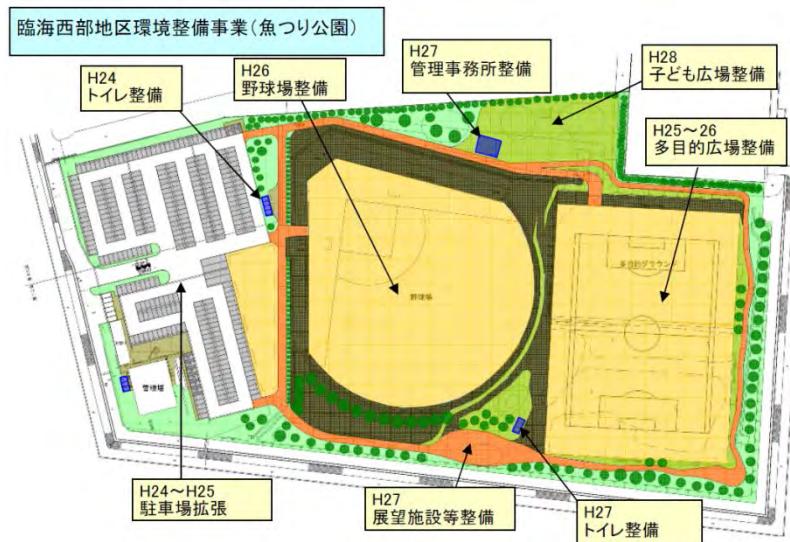
20 丸島地区におけるまちづくりと利活用

【計画概要】

拠点地区と同じく「先導整備地区」に指定されている丸島地区において、活動可能地の一時利用を中心とした取組などを検討していきます。また、将来のスポーツ・レクリエーション機能を利活用した活動について検討し、交流のまちづくりを提案していきます。

【取組】

- 尼崎市において市所有地部分の整備計画を検討
- 関係機関の協議の状況を踏まえ、丸島地区の森づくりについて提案
- 未利用地の暫定的利活用について、県、市、関係機関と協議
- 協議会の提案を踏まえた整備が実施



- 指定管理者制度の導入により、地区内の尼崎魚つり公園を「パークマネジメント尼崎」、「ハウスビルシステム・尼漁開発グループ」が管理（期間：平成 24 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日）

【現在の活動主体】

- 市・指定管理者

【取組状況】 ○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 先導整備地区としての機能整備が整い、スポーツ・レクリエーション拠点としての運営に移行。
- スポーツ・レクリエーション機能を確保し、交流のまちづくりを推進。

【課題】

- なし

2.1 フェニックス事業用地におけるまちづくりと利活用

【計画概要】

拠点地区と同じく「先導整備地区」に指定されているフェニックス事業用地において、活動可能地の一時利用を中心とした取組などを検討していきます。また、将来の自然生態の保全・育成の森を利用した活動について検討し、提案していきます。

【取組】

- 県・市等においてフェニックス早期土地利用基本計画を策定
- 管理型区画の土地利用について、整備計画の具体化を踏まえ提案
- 早期土地利用のための段階的整備を実施
- 企業立地の円滑な推進に向けた情報収集・発信
- 尼崎市東海岸町沖地区的フェニックス事業用地のうち、埋め立てが完了した16ヘクタールを対象に、物流事業者などへの分譲公募手続きを開始
- のびのび公園においてわかめを育成（徳島大学、尼海の会、大阪湾広域臨海センター）。
- わかめ等の海藻類を堆肥化し、のびのび公園においてこれらを用いた菜の花を育成



【現在の活動主体】

- 県・市、(公財)ひょうご環境創造協会、徳島大学等

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 保全育成の森として位置付けられている区域については、現在、太陽光発電施設による暫定利用を実施。
- 新たな産業の誘致を促進。水質浄化を中心とした市民活動も進展。

【課題】

- なし

（3）既存産業の育成・高度化と新産業の創造に向けた取組

取 組 A: 森と産業が共生するまちづくりの推進(地域や市民生活とのつながり)

活動項目 ア: 産業遺産等の資源を活用したまちづくりの推進

1 産業遺産等について調べ、学ぶ

【計画概要】

産業遺産をはじめ臨海地域の資源を活用したまちづくりを進めるための第一歩として、尼崎閘門（尼ロック）をはじめとした地域資源について調べ、学び、情報収集に取組みます。また、地域や市民生活との関わりを深めるため、地域資源等について楽しく学び集えるような空間・機会づくりなどに取組みます。

【取組】

- 尼ロック内に展示室を設け、尼ロックや運河等の地域資源の学習を実施するとともに、津波等の防災学習を実施。



【現在の活動主体】

- 県、市

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 尼ロックに防災学習等のためのスペースを設け、地域資源の学習の場づくりを実践。

【課題】

- なし

2 産業まちづくりの輪を広げるための仕組みをつくる

【計画概要】

産業遺産をはじめ臨海地域の資源を活用したまちづくりを進めるため、多様な主体と連携してまちづくりを展開するための仕組みづくりに取組みます。

【取組】

- 運河クルージングの実施
- うんぱく～尼崎運河博覧会～の実施
- 尼崎運河〇〇クラブの設立
- オープンキャナルフェスティバルの実施
- 尼崎の森中央緑地を会場にエコキッズメッセ開催
 - ・「環境」をテーマに、子供たちを対象とした企業、団体等のブースを出し、「環境」を楽しく学べるようなイベント（エコキッズメッセ）を開催



【現在の活動主体】

- NPO 法人尼崎 21 世紀の森、尼崎南部再生研究室、尼崎運河〇〇クラブ、県・市

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 臨海地域の代表的資源である運河を活用したまちづくり活動を実践。実施主体として、市民や団体等からなる尼崎運河〇〇クラブを設立した。
- 臨海地域の資源としての各企業による環境再生の取組みやその技術を子どもに伝えるイベント「エコキッズメッセ」を開催できた。

【課題】

- なし

3 産業都市としてのアイデンティティを育む

【計画概要】

臨海地域から産業遺産をはじめとする地域資源を活用したまちづくりをおこし、中長期的には市内全域への拡大、さらに産業都市としてのアイデンティティを生み出すように取組みます。

【取組】

- 代表的な地域資源としての運河を活用した運河クルージング、うんばく～尼崎運河博覧会等の実施

【現在の活動主体】

- NPO 法人尼崎 21 世紀の森、尼崎南部再生研究室、尼崎運河○○クラブ、企業、県・市

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- 臨海地域の資源である運河の活用、企業の環境再生の取組を中心にまちづくり活動を実践。実施主体として、市民や団体等からなる運河○○クラブを設立し、地域資源を活用したまちづくりには取り組むことができた。

【課題】

- 取組の市内全域への拡大や、産業都市としてのアイデンティティを生み出すには至っていない。

活動項目 イ：工場内、敷地際などの緑化の検討

4 工場緑化について調べ、学ぶ

【計画概要】

工場内や敷地際などの緑化による緑豊かなまちづくりを進めるため、工場緑化の現状や制度などについて調べ、学び、情報収集に取組みます。

【取組】

- 企業等の参画を得て、「尼崎臨海部における地域の活性化と緑の創出の両立方策」について検討
- 検討の成果として、みどり景観の「将来像」と、それを広げるための「推進方策（制度や仕組み）」及び「実現に向けた企業参加の場づくり」を内容とする提案を作成



【現在の活動主体】

- 県・市、企業

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 企業等の参画を得て、「産業振興」と「緑の創出」をどのように両立していくかについて検討を重ねた結果、「尼崎 21 世紀の森における工場地域みどり景観の創出に向けた提案」を行なうことができた。
- 本提案は、モデル的な工場緑化の契機になるとともに、「尼崎 21 世紀の森型工場緑化」の提案づくりにも貢献。

【課題】

- なし

5 工場緑化推進の仕組みをつくる

【計画概要】

工場内や敷地際などの緑化による緑豊かなまちづくりを進めるため、工場緑化を推進するための仕組みづくりに取組みます。

【取組】

- 尼崎市の条例検討を契機にして、尼崎 21 世紀の森型工場緑化の提案に向けた検討開始
- 「尼崎 21 世紀の森型工場緑化」を PR するガイドブック作成
- 県民まちなみ緑化事業及び尼崎 21 世紀の森沿道緑化事業による支援



【現在の活動主体】

- 県・市、尼崎鉄工団地協同組合、新日鐵住金(株)など

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- 工場緑化ガイドブックの作成や、尼崎 21 世紀の森沿道緑化事業の実施等により、工場緑化を推進。
- 企業の主体的な取組に加え、工場緑化の具体的手法の提案や支援制度の運用・拡充等により工場緑化が進展し、臨海部の緑被率向上 (H9 : 4.0% → H24 : 6.1%)。

【課題】

- 臨海部の緑被率が、近年は横ばい気味。森構想の目標値 30%に向か、新たな仕組みの検討が必要。

活動項目 ウ：環境の回復・改善方策の検討（よりよい地域環境づくり）

6 地域環境について調べ、学ぶ

【計画概要】

環境技術を活かしたよりよい地域環境づくりを進めるための第一歩として、地域環境の現状と、すでに地域で展開されている環境に対する取組について調べ、学び、情報収集に取組みます。あわせて、環境・エネルギーに対する理解を深める普及啓発の機会づくりに取組みます。

【取組】

- 岸和田市のE S C O (Energy Service Company) 事業視察
- 京丹後市の京都エコエネルギープロジェクト (KEEP) 実証研究システムの観察
- エコライフ技術研修会の開催
 - ・スマートグリッドをテーマに先導整備地区であるフェニック事業用地における今後の利用方策を検討



【現在の活動主体】

—

【取組状況】 ×：取組があまり進んでいない、または休止状態

【成果】

- 環境と共生する産業活性化について、情報収集を実施。

【課題】

- 具体的な取組には結びついておらず、活動主体も明確でない。

7 森を活かした「グリーン系産業」の仕組みをつくる

【計画概要】

環境技術を活かしたよりよい地域環境づくりを進めるため、尼崎が蓄積してきた環境技術の活用や新たな環境技術の開発など、拠点の森等を活かした「グリーン系産業」の仕組みづくりに取組みます。

【取組】

- 「環境と産業の共生」「地域経済の好循環」を図る「尼崎版グリーンニューディール」を制定（尼崎市 H26）

【現在の活動主体】

- 県・市

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- 臨海地域を含む市全体の取組として、「尼崎版グリーンニューディール」に基づく取組が進展。

【課題】

- 環境技術の活用や開発など、具体的なグリーン系産業の仕組みづくりには至っていない。

8 幅広い環境技術、環境要素に展開する

【計画概要】

環境技術を活かしたよりよい地域環境づくりを進めるため、グリーン系産業を起点に、さらに幅広い環境技術、環境要素に拡大して取組みます。

【取組】

- 「環境と産業の共生」「地域経済の好循環」を図る「尼崎版グリーンニューディール」を制定（尼崎市 H26）

【現在の活動主体】

- 県・市

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- 臨海地域を含む市全体の取組として、「尼崎版グリーンニューディール」に基づく取組が進展。

【課題】

- 環境技術の活用や開発など、具体的なグリーン系産業の仕組みづくりには至っていない。

取 組 B : 森を活かした産業活性化の仕掛けづくり

活動項目 工 : 新たな環境・エネルギー産業の振興

9 環境・エネルギー産業について調べ、学ぶ

【計画概要】

森と共生する新産業の創出をめざして、新たな環境・エネルギー産業を振興していくため、環境・エネルギー産業について調べ、学び、情報収集に取組みます。また、自然エネルギーを学び、新エネルギーの展示や利用体験ができる学習公園や、まちの中の各装置への新エネルギーの利活用なども検討していきます。

【取組】

- 尼崎の森中央緑地パークセンターでの太陽光発電の導入〔H26年度〕
- 尼崎の森中央緑地での風力発電学習施設導入の検討〔H26年度〕

【現在の活動主体】

- 県等

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- 尼崎の森中央緑地で太陽光発電施設の設置により、再生可能エネルギーの利用及び環境学習を実践。
- 尼崎の森中央緑地で小規模風力発電施設も導入の予定。(H27年度)

【課題】

- 太陽光発電以外の再生可能エネルギーの利用や、中央緑地以外の取組については、大きな進展なし。

10 環境・エネルギー産業の振興の輪を広げるための仕組みをつくる

【計画概要】

森と共生する新産業の創出をめざして、新たな環境・エネルギー産業を振興していくため、関連主体と連携できる仕組みづくりに取組みます。

【取組】

- 大阪大学サステイナビリティ・サイエンス研究機構が環境省から受託した「地球温暖化対策技術開発事業」を支援



- 大阪大学サステイナビリティ・デザイン・オンサイト研究センターとの連携体制を検討

【現在の活動主体】

【取組状況】 × : 取組があまり進んでいない、または休止状態

【成果】

- 研究機関との連携体制について検討を実施。

【課題】

- 具体的な取組には結びついておらず、活動主体も明確でない。

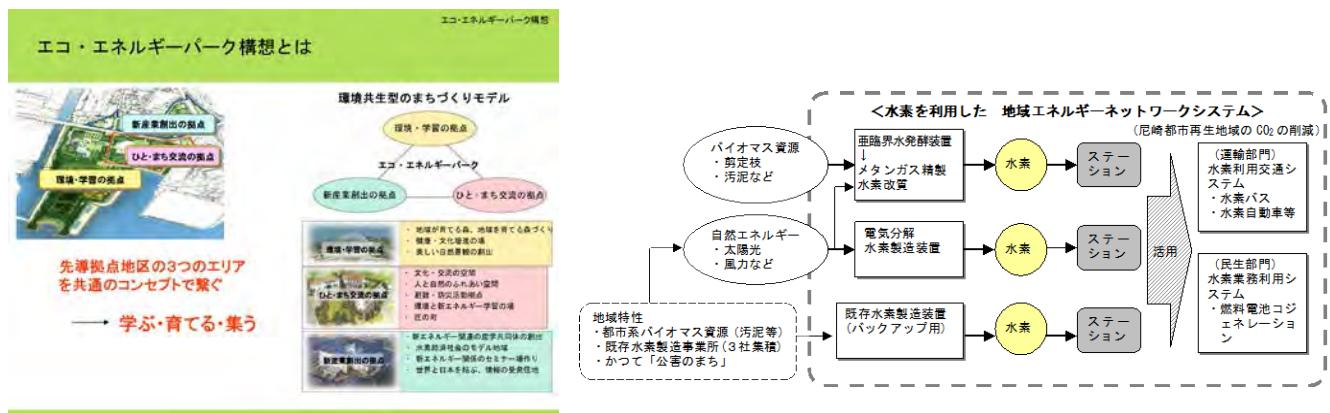
11 「尼崎EIP（エコ・インダストリアル・パーク）構想」の立案と実践

【計画概要】

森と共生する新産業の創出をめざして、新たな環境・エネルギー産業を振興するため、「特区構想」・「尼崎EIP（エコ・インダストリアル・パーク）構想」等を立案し、その実践に取組みます。

【取組】

- ESCO事業等の勉強会・視察を実施
- エコ・インダストリアル・パーク構想やエコ・エネルギー・パーク構想などの基本構想検討
- 水素プロジェクトを検討（環境省委託事業への応募）
- 水素インフラの整備、研究所のネットワーク化、森ビジネスなどの検討を始めた。また、このような活動に対する企業の意向を伺い、「産業と森づくり」の方向性を探ることを目的に、市内製造業等へのアンケート調査を実施
- 環境共生型のまちづくりモデルとして、尼崎EIP（エコ・インダストリアル・パーク）構想や、EEP（エコ・エネルギー・パーク）構想を、臨海地域の企業等とともに検討
- 構想の実現に向けた先導（初期）プロジェクトとして、水素を利用した地域エネルギーネットワークシステムを構築する取組を検討し、環境省の地球温暖化対策技術開発事業（競争的資金、石油特別会計）への応募を検討



【現在の活動主体】

【取組状況】 × : 取組があまり進んでいない、または休止状態

【成果】

- 「特区構想」・「尼崎EIP（エコ・インダストリアル・パーク）構想」について検討を行なった。

【課題】

- 具体的な取組には結びついておらず、活動主体も明確でない。

活動項目 オ：研究開発機能の充実・強化の推進

12：研究開発機能について調べ、学ぶ

【計画概要】

森を活かした産業活性化を支える研究開発機能の充実・強化を進めるための第一歩として、研究所等について調べ、学び、情報収集に取組みます。

【取組】

- 大阪大学サスティナビリティ・サイエンス研究機構が環境省から受託した「高効率熱分解バイオオイル化技術による臨海部都市再生産業地域での脱温暖化イニシアティブ実証事業」について、情報交換・連携方策の検討



【現在の活動主体】

【取組状況】 ×：取組があまり進んでいない、または休止状態

【成果】

- 地球温暖化対策技術開発について検討を実施。
- 研究機関との連携を密にしながら、「森を活かした産業活性化を支える研究開発機能」について検討することができた。

【課題】

- 具体的な取組には結びついておらず、活動主体も明確でない。

13:「研究所ネットワーク構想」の立案と実践

【計画概要】

市内に研究所が多いという尼崎の特性を活かして、研究開発機能の充実・強化とそのネットワーク化を進めることにより、新たな産業の創出に寄与する「研究所ネットワーク構想」を立案し、その実践に取組みます。

【取組】

- 尼崎商工会議所が主催するテクノサロンに参画し、研究所ネットワーク構築に向けた関係づくりを開始
- 尼崎商工会議所の事業に参画し、研究所データベースの構築とマッピングに取り組み、ネットワークづくりの基礎情報を整えた。
- 研究所ネットワークを把握しマップを作成



【現在の活動主体】

【取組状況】 × : 取組があまり進んでいない、または休止状態

【成果】

- 「研究所ネットワーク構想」について検討を実施。研究者個人間の交流のきっかけづくりを行なうことができた。

【課題】

- 研究所（組織）間の結び付きの強化という段階にまでは至らなかった。

活動項目 力：産業支援の仕組みづくり（コーディネート）

14 企業アンケートの実施

【計画概要】

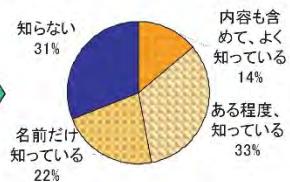
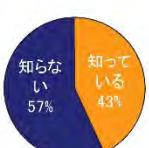
森を活かした産業活性化をすすめるための第一歩として、森構想と産業に関する企業意向を把握し、今後の活動の指針に役立てます。

【取組】

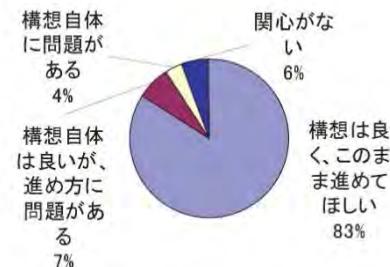
- 森を活かした産業活性化を図るために、水素インフラの整備、研究所のネットワーク化、森ビジネスなどについて検討。このような動きに対する企業の意向を伺い、「産業と森づくり」の方向性を探ることを目的に、市内の企業等へのアンケート調査を実施

森を活かした産業活性化に関するアンケート調査結果

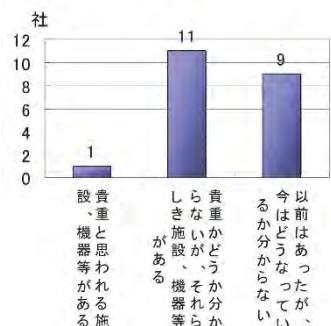
■尼崎21世紀の森構想の認知度



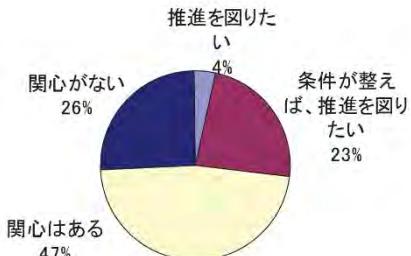
■尼崎21世紀の森構想の評価



■産業遺産について



■工場緑化について



<抜粋：尼崎21世紀の森づくり協議会運営委託業務報告書（平成17年3月）>

【現在の活動主体】

- 県・市、企業、尼崎商工会議所

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- アンケートを実施が、行動計画が目指す「森を活かした産業活性化」を図る手法について、企業等が実際どのような受け止め方をしているかの把握に繋がり、今後の展開のための基礎資料とすることができた。

【課題】

- 具体的な取組には結びついていない。

15 産業活性化方策の検討、提案

【計画概要】

森を活かした産業活性化をすすめるための制度やインセンティブ、体制整備などの方策を検討し、広く提案していきます。

【取組】

- 「あまがさきエコプロダクツグランプリ」を開催（尼崎市：H23～）
環境負荷の少ない優れた市内製品を『エコプロダクツグランプリ』として表彰



- あましんグリーンプレミアムを開催（尼崎信用金庫：H23～）
環境改善に寄与する地域の優れた技術や製品・工法、取組みやアイデアにスポットをあて、新技術の開発や環境文化の創造につなげることを目的として表彰



【現在の活動主体】

- 市、尼崎信用金庫

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- 森を活かした産業活性化を進めるための制度として、「あまがさきエコプロダクツグランプリ」「あましんグリーンプレミアム」を開催
- 環境モデル都市尼崎のブランドイメージ構築に寄与。

【課題】

- 「尼崎の森を活かした新産業の創出等には大きな進展なし。

16 地域PRと情報発信

【計画概要】

森構想と企業活動とを結びつけ、森を活かした産業活性化をすすめる基盤的機能として、臨海地域のPRと主に産業活性化にかかる情報発信に取組みます。まず、平成17年度末に分譲開始予定の拠点地区内「産業の育成・支援ゾーン」が産業面からの地域のPR機会となることから、そのあり方について検討します。

【取組】

- 子供向けの環境学習（子供ものづくりスクール）に参画
- 企業と連携した取り組みが進展、関係の構築（うんばく、フォーラムなど）
- 大阪大学サステイナビリティ・デザイン・オンサイト研究センターが開設
- 尼崎商工会議所が主催する「子どもものづくりスクール」に参画し、子どもたちに燃料電池のしくみなどを教える環境学習教室を開催
- 「エコキッズ」フォーラムにおいて各企業の環境学習の取り組みを一堂に集め、楽しく遊び・学べる環境学習の場づくりを行った。



【現在の活動主体】

- 県・市、尼崎商工会議所、NPO法人尼崎21世紀の森

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 臨海地域のPRと産業活性化に関する情報発信に取組み、森構想と企業活動を結びつけることができた。

【課題】

- なし

（4）気運の醸成に向けた取組

取組 A：構想全体の機運醸成＝「尼崎 21 世紀の森づくり」のコミュニティ・アイデンティティ構築

活動項目 ア：CI（コミュニティ・アイデンティティ）計画の作成

1 CI（コミュニティ・アイデンティティ）計画作成

【計画概要】

取組に携わる人々に良質なイメージや愛着感を持ってもらうため、森づくり協議会を広報する際に好感のあるイメージを持ってもらうため、CI 計画を作成し、その計画に基づき広報活動を実行していきます。まずは、ネーミング等の全体コンセプトやキャッチフレーズの検討、いつ頃何を実行していくかスケジュールの検討、基本色、ロゴなどの基本デザインづくりを行います。CI 計画は専門的な知見や技術が必要になるため、部会の意見を取り入れながら専門家が中心となって実施します。

【取組】

- 尼崎 21 世紀の森 CI 計画の策定
 - ・ロゴタイプ、マーク、アイキャッチャー、基本カラー等の作成

尼崎21世紀の森づくり

尼崎21世紀の森づくり

尼崎21世紀の森づくり



- 戦略的 PR

- ・ニュースレター、フリーマガジン「Aa」、PR グッズ、パンフレット、ウェブサイト等に活用

【現在の活動主体】

- 県・市、NPO 法人尼崎 21 世紀の森

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 計画の作成、様々な媒体を通じての効果的な活用により、尼崎 21 世紀の森づくりの認知度を高め、愛着を持つもらうことができた。

【課題】

- なし

活動項目 イ：広報（PR）計画の作成・実施

2 ニュースレターの作成・配布

【計画概要】

「尼崎 21 世紀の森づくり」の取組を広く発信するためのニュースを作成します。初期段階では、内部の情報共有と盛り上げのためのツールとしてサポーター向けに発行し、次期段階で、サポーター以外の関心層へもターゲットを広げたニュースレターを作成します。

【取組】

- 協議会のニュースレター「あまあまポン」を発行
- 「あまあまポン」に代わるフリーぺーパー「Aa」を発行。（NPO法人尼崎 21 世紀の森）臨海地域に関する幅広い情報を発信
- 「森のしんぶん」の発行により、尼崎の森中央緑地を含む森構想エリア全域に係る情報を発信



【現在の活動主体】

- NPO 法人尼崎 21 世紀の森、森の会議、県、指定管理者

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 「Aa」、「森のしんぶん」等、各種広報誌の作成により、森づくりに携わる人々、サポーターを増やすことができた。そのことが活動の輪の広がりに繋がった。

【課題】

- なし

3 ホームページの作成・公開・更新

【計画概要】

「尼崎 21 世紀の森づくり」の取組を広く発信するためのホームページを作成します。ホームページには①外部への情報発信機能（全国からのアプローチを想定）と②内部での情報共有ツール機能（部会やイベント等のスケジュールがオンラインで知ることができる等）を持たせます。

ホームページの作成にあたっては、部会のメンバーを中心に、他部会からも参加を募り、「ホームページ作成会議」を開催しながら作成・更新を進めます。

【取組】

- NPO法人尼崎 21 世紀の森と連携し、ホームページの開設及びリニューアル
- 尼崎 21 世紀の森ウェブマガジンの開設
- ・『尼崎 21 世紀の森のファンを育て、ファンが育てるウェブサイト』として、リアルな情報を発信



【現在の活動主体】

- 県・市、指定管理者、NPO法人尼崎 21 世紀の森

【取組状況】 ○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 尼崎 21 世紀の森ウェブマガジンは、より多くの方に森づくりに関わってもらおうと、行政からの方通行の情報発信ではなく、一般の方々からの投稿も可能とする、双方向型のシステムとした。

【課題】

- なし

4 周知チラシ・ポスター・各種パンフレットの作成、配布

【計画概要】

「尼崎21世紀の森づくり」の取組を広く発信するため、イベントや取組の周知チラシ、ポスター、各種パンフレットをターゲットにあわせて、作成し、配布します。なお、ポスター、各種パンフレットについては、専門的な技術が必要になるため、部会の意見を取り入れながら専門家が中心となって実施します。

【取組】

- 森づくり活動への勧誘のため、各種PRチラシ等を作成した。



- 中央緑地の整備が進み、活動の舞台が広がってきたことに合わせ、多彩なイベント案内チラシを作成



【現在の活動主体】

- 県・市、指定管理者、NPO法人尼崎21世紀の森等

【取組状況】 ○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- ターゲットに合わせたデザイン作成、配付先の絞り込み・決定を行ない、効果的な情報発信に繋げることができた。

【課題】

- なし

5 各種PRグッズの作成（外向けの盛り上げツール作成）

【計画概要】

「尼崎21世紀の森づくり」の活動を盛り上げるための各種PRグッズを作成し、配布します。場合によってはミニ財源的存在として売ることも考えます。グッズ作成については、材料・アイデア提供は協議会（企画部会が主）が行いますが、デザイン等はC/I計画をもとに専門的な技術が必要になるため専門家が中心となって実施します。場合によっては広く公募等を行い、キャラクターなどを作成します。

【取組】

- 缶バッヂ、キーホルダー等のPRグッズを作成
- NPO法人尼崎21世紀の森と連携して、Tシャツを試行販売
- 尼崎の森中央緑地パークセンターのオープンを記念し、森をイメージした新たなエコバッグを作成。各種イベント参加者に配布



【現在の活動主体】

- 県・市、指定管理者、NPO法人尼崎21世紀の森

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 缶バッヂ、エコバッグ等のグッズの作成・配付により、森づくりに携わる人々、サポーターを増やすことができた。

【課題】

- なし

6 外むけ発信型イベントの実施

【計画概要】

「尼崎 21 世紀の森づくり」の活動を外向けに発信していくためのイベント等を開催します。森づくりを地域に浸透させていくために、森づくりに話題性を持たせ、従来にない多彩な事業展開を検討します。特に、平成 18 年度の国体開催をきっかけとして、訪れる人々に尼崎 21 世紀の森づくりをアピールし、参加を呼びかけるようなイベント等を企画、実施します。

【取組】

- 尼崎 21 世紀の森サマーフェスタを開催
- 尼崎 21 世紀の森づくりフォーラムを開催
- 森のピクニック開催
 - ・尼崎の森中央緑地において、森の会議のメンバー、企業、県、市、指定管理者と連携により、尼崎信用金庫の植樹祭との合同イベントとして実施



【現在の活動主体】

- 森の会議、アマゾレタの会、尼崎信用金庫、県・市、指定管理者

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- イベント毎に森づくりの進捗状況に合わせたテーマを設定。参加者に森づくりの着実な推進を P R できた。

【課題】

- なし

活動項目 ウ：市民、専門家、企業等、みんなが参画するしくみづくり

7 企業協賛のしくみづくり

【計画概要】

いろいろな主体が参画し森づくりを行っていくため、主体の一つである「企業」の参画の方法を検討します。森づくりへの取組、イベント等への参加協力とあわせて、企業の取組をPRしイメージアップを図り、地域の企業とともにまちづくりを進めるプログラムやしくみを検討します。

【取組】

- NPO 法人尼崎 21 世紀の森と連携して、企業協賛型の取組（フリーペーパー「Aa」の発行）を実施
- エコキッズメッセへの企業の出展
- 尼崎信用金庫の森づくりへの協力



【現在の活動主体】

- NPO 法人尼崎 21 世紀の森、尼崎信用金庫等の企業、県・市

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 情報誌への資金支援、イベントのプログラムへの参加など、多様な企業参画の形を引き出すとともに、参画企業のPRにも繋げることができた。

【課題】

- なし

8 人材・団体のデータバンク化

【計画概要】

いろいろな主体が参画し森づくりを行っていくため、人材、団体のデータバンクを作成し、ネットワークを図っていきます。

【取組】

- 森づくりワークショップ・フォーラムを開催し、関わった人材、団体のデータバンク化に取り組んだ。

【現在の活動主体】

- 森の会議、NPO法人尼崎21世紀の森、県・市

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- ワークショップやフォーラム等の開催により、森づくりに携わる人々を増やすことができた。

【課題】

- 森づくりに携わる人々のデータバンクを作成し、活用するまでには至っていない。

9 ボランティア登録制度

【計画概要】

ボランティア登録制度を作成し、今後の活動に活かしていきます。まずは、尼崎市内から登録を呼びかけていきます。

【取組】

- ボランティアとしてのサポーター募集開始（H15.5～）
- サポーター説明会の開催
- 中央緑地秋のイベント（H20年度）によりサポーター大会の開催
- 尼崎の森中央緑地では、アマフォレストの会等が森づくりのボランティアとして活躍。
- 苗木の里親制度では、市民が苗育成及び植樹のボランティアとして登録



【現在の活動主体】

- 県、指定管理者、アマフォレストの会

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- ボランティア登録制度等により、森づくりに携わる人々を増やすことができた。
- 尼崎の森中央緑地では、アマフォレストの会等が森づくりのボランティアとして活躍した。
- 苗木の里親制度では、市民が苗木育成や植樹についてのボランティアとして登録した。

【課題】

- 森の生長に伴い、維持管理も含めた森づくりに長期間携わるボランティアの登録が必要。

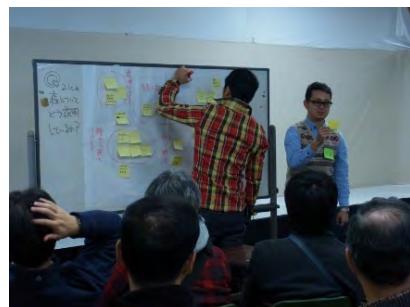
10 プラットフォーム（意見・情報の交換の場）の機能の確立と運営

【計画概要】

ボランティア登録制度や人材データバンクに登録された団体等を中心に、プラットフォームの場を開催し、「森づくり」についての情報や意見を交換します。プラットフォームでは、テーマ別に情報や意見を交換することで、全く違うテーマや志向を持った人や団体が、お互いに持っているものを補完的に結びつけ、ネットワークを図り、より発展的な活動が生み出されるような運営を行います。

【取組】

- 部会活動が活発になる推進体制を検討
- 森の会議の設置…活動の担い手を増やし、取組みの輪を広げるため、活動団体がフラットな形で参加、情報交換、連携する「プラットホーム」として機能



【現在の活動主体】

- 森の会議、県、指定管理者

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- 構想推進のための活動体として「森の会議」を設置。県民提案型イベントが実施されるなど、新たな組織の活動が軌道に乗りつつある。

【課題】

- 活動の継続・発展とともに、活動範囲を中央緑地から構想エリア全体に広げることが必要。

取 組 B : 構想の推進母体としての協議会の組織づくり

活動項目 工 : 情報蓄積・共有のしくみづくり

11 データベースづくり

【計画概要】

「尼崎 21世紀の森」に関わる地域の情報や写真を収集、整理します。また、森づくりに関わる先進地事例や技術的情報等、各部会が収集した情報（例えば水循環システム、苗の育て方…）を一箇所に集めるしくみをつくります。さらに、メーリングリスト上で流れた議題や会議の議事録等活動の記録等をストックし、意見合意のプロセスを記録すると共に、それらの記録を伝えるしくみをつくります（後々誰でも利用できる形態にまとめておく）。また、紙媒体の情報は、電子情報化します。データベースとしてストックされた情報を、PR・発信ツール（例：マップ、ビデオクリップ等）の材料として利用していきます。

【取組】

- 尼崎の森中央緑地及び周辺地域の過去の写真等を収集・整理し、森構想や中央緑地のPR等に活用。



【現在の活動主体】

- 県・市、指定管理者

【取組状況】○ : 取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 尼崎の森中央緑地及び周辺臨海地域の歴史情報として、過去の写真等を事業説明やイベント等で活用。

【課題】

- なし。

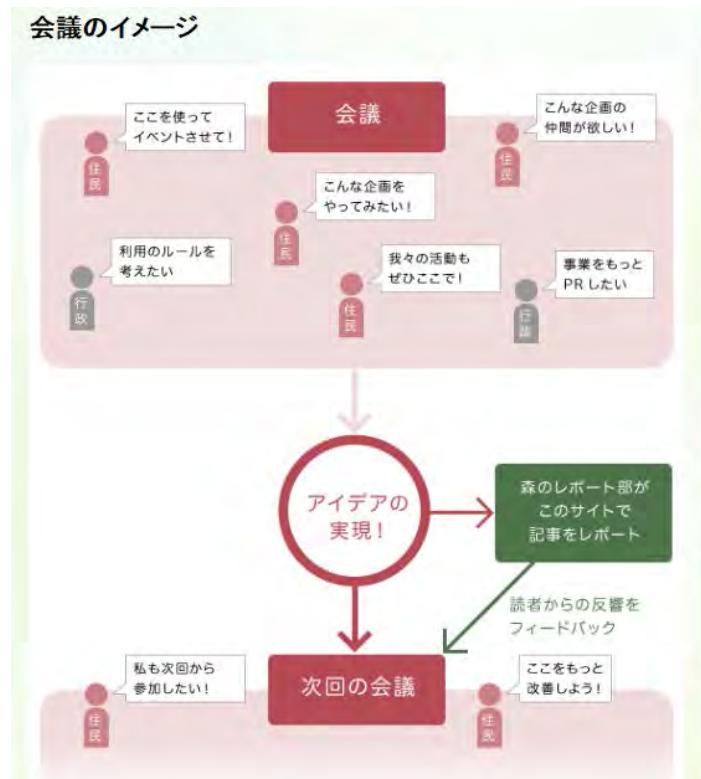
12 情報共有のしくみづくり

【計画概要】

森構想の活動を支えるため、メーリングリストの整備など、参加者が必要な情報を得られる仕組みを整えていきます。

【取組】

- メーリングリスト、ホームページで情報共有
- 尼崎21世紀の森ウェブマガジンを通しての情報共有



【現在の活動主体】

- 森の会議、県・市、指定管理者

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 森の会議での話し合いの結果、次回の予定をウェブ上に公開。参加できなかった人にも情報の入手が容易になった。

【課題】

- なし。

13 森づくりの交流の場の開催

【計画概要】

部会間の交流を深め、活動全体を盛り上げる機会としてイベントを行ったり、行動計画の作成・更新などの調整を図る会議の場を設けます。

【取組】

- サポーター大会を開催
- NPO法人尼崎21世紀の森と共に尼崎の森サマーフェスタを開催



【現在の活動主体】

—

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- イベントの開催等を通じて、部会間の交流を深めることができたが、部会の廃止に伴い終了。

【課題】

- なし。

14 学習会・研修会の開催

【計画概要】

市民参画の活動においては、意識の持ち方・参加者のバックグラウンドも多様であり、また、参画する時期も当初から参加している人、1年後に参加する人とまちまちです。そこで、「森構想」や「今までの活動経過」など、一定の前提となる条件については、参加者全員が同じスタートラインから始められるよう、共有化を図ります。そのための学習会や研修会を定期的に開催します。

【取組】

- 各部会では、勉強会等を開催
- 第1回森の会議において、「尼崎21世紀の森って何だ？もっと分かりやすく伝える方法」をテーマにワークショップを開催



【現在の活動主体】

- 森の会議、県・市、指定管理者

【取組状況】△：取組が進んでいるが、継続に向けて課題がある

【成果】

- 勉強会やワークショップを通じて、活動の前提となる基礎知識の共有化を図ることができた。

【課題】

- 活動を広げるために、参加者の参画の度合いに応じた、きめ細かな情報の提供・共有化が必要。

活動項目 オ：各部会活動の支援

15 協議会ステーショナリーグッズ等の作成

【計画概要】

「尼崎21世紀の森づくり」の取組を広く発信するため、また気運盛り上げのため、C I 計画に基づいて各種グッズ作成を行います。

【取組】

- 定規、缶バッヂ、エコバッグ等のグッズを作成
- 尼崎の森中央緑地パークセンターのオープンを記念し、森をイメージした新たなエコバッグを作成



【現在の活動主体】

- 県・市、指定管理者、N P O 法人尼崎21世紀の森

【取組状況】○：取組が順調にすすんでいる

【成果】

- 作成した様々なグッズを各種イベント参加者に提供することにより、広く森づくりをPRし、気運を盛り上げることができた。

【課題】

- なし。

16 グッズの物販と資金確保

【計画概要】

森構想の活動を支えるため、各種グッズの物販を行い、得られた収益を活動資金として確保していきます。

【取組】

- NPO 法人尼崎 21 世紀の森と連携して T シャツを販売

【現在の活動主体】

—

【取組状況】 × : 取組があまり進んでいない、または休止状態

【成果】

- 試行的な取組として、T シャツなどのグッズ販売を実施。

【課題】

- 活動資金を継続的に確保するまでには至っていない。

取 組 C：尼崎 21世紀の森構想を推進する新事業開発

活動項目 力：森構想を盛り上げ、浸透させる新規事業展開の企画

17 森構想を盛り上げ、浸透させる新規事業展開の企画・実施

【計画概要】

森構想を推進していく上で、既存の枠にとらわれない新しい発想での事業展開を図っていきます。一例として、バーチャル・カンパニー（地元企業の支援を得ながら商品を開発していくプログラム）などといった取組を応援するようなしきみを検討します。

【取組】

- 尼崎 21世紀の森型工場緑化を実現するため、尼崎市による工場立地法の緑地面積率等の規制緩和に際し、緩和する面積相当分を工場緑化等で確保する条例制定時の配慮事項を協議会から市に提案。

【現在の活動主体】

- 森づくり協議会、県・市

【取組状況】 ×：取組があまり進んでいない、または休止状態

【成果】

- 提案を踏まえた条例制定が工場緑化等の推進に寄与。

【課題】

- この取組以外に、新規事業の展開には大きな進展がなく、新しい発想での事業の企画立案が必要。